令和７年
　　岩手県教育委員会定例会
　10　月

岩　手　県　教　育　委　員　会

令和７年10月　岩手県教育委員会定例会議事日程

令和７年10月20日（月）午後１時30分

第 1	会期決定の件		
第 2	事務報告 1	令和８年度岩手県立高等学校入学者選抜の実施について	（学校教育室）
第 3	事務報告 2	令和８年度岩手県立特別支援学校高等部の学級数等について	（学校教育室）
第 4	事務報告 3	今後の県立高校に関する地域検討会議（第２回）及び意見交換会（第１回）等の開催結果について	（学校教育室）
第 5	事務報告 4	第３期県立高等学校再編計画（当初案）に係るパブリック・コメントの実施状況について	（学校教育室）
第 6	事務報告 5	第３期県立高等学校再編計画（当初案）に係る子どもからの意見聴取の実施状況について	（学校教育室）
第 7	事務報告 6	いわて留学セミナーの開催について	（学校教育室）
第 8	議案第 14 号	岩手県立高等学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則	（学校教育室）
第 9	議案第 15 号	岩手県立特別支援学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則	（学校教育室）
第 10	議案第 16 号	岩手県教育支援委員会委員の任命に関し議決を求めることについて	（学校教育室）
第 11	議案第 17 号	教育表彰の受賞者に関し議決を求めることについて	（教育企画室）
第 12	議案第 18 号	文化財の指定に関し議決を求めることについて	（生涯学習文化財課）
第 13	議案第 19 号	令和８年度岩手県教育委員会定期人事異動方針に関し議決を求めることについて	（教職員課）
	閉会		

事務報告１

令和８年度岩手県立高等学校入学者選抜の実施について

令和８年度岩手県立高等学校入学者選抜の実施について、別紙のとおり報告します。

令和７年 10 月 20 日

令和８年度岩手県立高等学校入学者選抜の実施について

Ⅰ　令和８年度岩手県立高等学校第１学年募集定員について

１　令和８年３月中学校・義務教育学校卒業見込者数

令和８年３月卒業見込	令和７年３月卒業見込	増　　減
9,609	9,731	▲122

（学校基本統計速報）

２　募集定員

（１）全日制　8,360 名（昨年比▲160）　59 校（全て本校）

年度＼学科	普通	普通・理数	総合	体育	農業	工業	商業	水産	家庭	合計
令和８年度	3,840	880	920	0	520	1,240	720	80	160	8,360
令和７年度	4,000	880	920	0	520	1,240	720	80	160	8,520
増　減	▲160	0	0	0	0	0	0	0	0	▲160

（２）定時制　560 名（昨年と同じ）　９校（本校７校、分校２校）

年度＼学科	普通	工業	合計
令和８年度	520	40	560
令和７年度	520	40	560
増　減	0	0	0

【備考】

・盛岡市立高等学校を含まない数であること。

・入学者選抜を実施する学校数　62 本分校（59＋９－６＝62 本分校）

全日制	定時制	全日制・定時制併設校
59 校	９校	６校
（全て本校）	（本校７校、分校２校）	（盛岡工業、一関第一、大船渡、釜石、宮古、福岡）

Ⅱ　主な入試日程

入試事務説明会（６教育事務所）		10月28日（火）～11月４日（火）
「いわて留学」（県外募集）	検査期日	１月27日（火）
	合格通知（必着）	２月３日（火）
一次募集（定時制成人枠を含む）、連携型、杜陵高校定時制（前期日程）	検査期日	本検査　３月４日（水）、５日（木） 追検査　３月10日（火）、11日（水）
	合格者発表	３月16日（月）
二次募集・杜陵高校定時制（後期日程）	検査期日	３月24日（火）
	合格者発表	３月26日（木）
通信制	検査期日	３月31日（火）
	合格者発表	４月２日（木）

Ⅲ　令和８年度入学者選抜の方法

１　一次募集（一般入学者選抜、特色入学者選抜）

（１）対象学科（学系）

ア　一般入学者選抜

全日制課程及び定時制課程の全学科（学系）において実施する。

イ　特色入学者選抜

全日制課程の全学科（学系）において実施する。定時制課程の全学科（学系）において実施することができる。

（２）応募資格

次の各項のいずれかに該当する者

ア　令和８年３月に中学校等を卒業する見込みの者

イ　中学校等を卒業した者

ウ　学校教育法施行規則第 95 条の規定に該当する者

（３）募集定員

ア　一般入学者選抜

定員からいわて留学及び特色入学者選抜合格者数を減じた数とする。

イ　特色入学者選抜

（ア）各学科（学系）における募集定員は次のとおりとする。

ａ　普通科、普通・理数科、大槌高等学校の地域探究科については、定員の 10%以内とする。

ただし、南昌みらい高等学校の芸術学系及びスポーツ科学学系、花巻南高等学校のスポーツ健康科学学系については、定員の 50%以内とする。

ｂ　上記ａ以外の学科については、定員の 20%以内とする。

（イ）定員の割合は５％ごととする。

ウ　葛巻高等学校、軽米高等学校の募集定員は、定員から連携型入学者選抜出願者数及びいわて留学合格者数を減じた数を下限とする。ただし、連携型入学者選抜出願者数及びいわて留学合格者数が入学定員を満たしたときは、一次募集を実施しない。

なお、連携型入学者選抜の実施校のうち定員 40 名の学科については、連携型入学者選抜、いわて留学及び一次募集合格者数の合計は、定員を超えて４名まで可とする。定員 40 名の学科の一次募集の募集定員は次のとおりとする。

（ア）連携型出願者数及びいわて留学合格者数の合計が 44 名以上の場合、一次募集の定員は０名とし、一次募集を行わない。

（イ）連携型出願者数及びいわて留学合格者数の合計が 43 名以下の場合、一次募集の定員は 44 名から連携型入学者選抜出願者数及びいわて留学合格者数を減じた数を下限とする。

エ　一関第一高等学校（全日制課程）の募集定員は、定員から一関第一高等学校附属中学校からの入学決定者数を減じた数とする。

オ　いわて留学の実施学科（学系）のうち定員 40 名の学科（学系）については、いわて留学及び一次募集合格者数の合計は、定員を超えて４名まで可（いわて留学合格者数が４名未満の場合は、定員を超えていわて留学合格者数まで可）とすることから、一次募集の募集定員は次のとおりとする。

（ア）いわて留学合格者数が４名以下の場合は、40 名とする。

（イ）いわて留学合格者数が５名以上の場合は、44 名からいわて留学合格者数を減じた数とする。

（４）通学区域

ア　一般入学者選抜

岩手県立高等学校の通学区域に関する規則による。

また、東日本大震災津波の被災により、出願すべき高等学校以外の高等学校に出願する場合の取扱は、岩手県立高等学校の通学区域に関する規則第４条第５号によるものとする。

イ　特色入学者選抜

学区の制限を受けない。

（５）出願制限

ア　出願は、本校又は分校１校に限る。

（ア）一般入学者選抜

ａ　志願先高等学校に２つの課程（全日制、定時制）、２つ以上の学科（学系）がある場合、第２、第３志望まで出願できる。

ただし、異なる学校独自検査を実施する課程、学科（学系）への出願は、２つまでとする。

ｂ　多部制の定時制課程においては、第２志望まで出願できる。

（イ）特色入学者選抜

一般入学者選抜において第１志望で出願する学校・学科（学系）にのみ出願できる（特色入学者選抜のみに出願できない）。

イ　連携型入学者選抜と併願できない。

ウ　一関第一高等学校附属中学校から一関第一高等学校（全日制課程）の入学決定通知書の交付を受けた者は出願できない。

エ　他の公立高等学校入学者選抜と併願できない。

（６）検査内容

ア　一般入学者選抜

（ア）学力検査（国語、数学、社会、英語、理科の５教科）

《出題方針》

中学校学習指導要領に示されている各教科の目標や内容に則し、基礎的・基本的な知識及び技能や、これらを活用して問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を検査できるようにする。

（イ）調査書

（ウ）学科（学系）によっては、学校独自検査として、面接、小論文、作文、実技のうち１～２項目を実施する。

異なる学校独自検査を実施する課程、学科（学系）については、志望の順位にかかわらず、その学校独自検査を実施する。

ただし、課程又は学科（学系）の第１志望の志願者が定員の 1.10 倍以上の場合には、第２、第３志望の志願者に対し、学校独自検査を実施せず、選抜対象としない。

イ　特色入学者選抜

（ア）調査書

（イ）志願理由書

（ウ）学科（学系）によって、面接、小論文、作文、実技、口頭試問、プレゼンテーション等のうち１～２項目の検査を実施する。

（７）日程

ア　第１日目

（ア）一般入学者選抜の学力検査

ａ　集合時刻　８：30

ｂ　学力検査　９：10～14：55（各教科 50 分）

（イ）学科（学系）によっては、学力検査終了後に、一般入学者選抜の学校独自検査、特色入学者選抜の検査を実施する。

イ　第２日目

学科（学系）によっては、一般入学者選抜の学校独自検査、特色入学者選抜の検査を実施する。

（８）一般入学者選抜における各検査の配点

<table>
<tr><td>学力検査（５教科各 100 点満点）</td><td>500 点</td><td rowspan="2">1000 点</td><td rowspan="3">1000～1100 点</td></tr>
<tr><td>調査書（９教科の１・２・３年の評定）</td><td>500 点</td></tr>
<tr><td>学校独自検査</td><td colspan="2">0～100 点</td></tr>
</table>

（９）追検査

ア　対象者

次の各項のいずれかに該当する者で、３月４日（水）、５日（木）に実施する検査（以下「本検査」という。）を受検できない者

（ア）新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ、月経随伴症状等により、本検査を受検できない者

（イ）当日の不慮の事態など、その他真にやむを得ない事情により本検査を受検できない者

イ　検査内容

本検査と同じとする。ただし、検査問題は追検査用に用意したもので行う。

(10) 選抜方法

ア　選抜は、特色入学者選抜、一般入学者選抜の順に行う。

なお、本検査と追検査の成績は同等に扱い、本検査を受検した者と追検査を受検した者を一括して選抜する。

イ　特色入学者選抜

（ア）選抜は、各学科（学系）の特色に配慮しながら、その教育において必要とされる資質・能力や適性等を総合的に判定して行う。

（イ）志願者が多い場合には、調査書及び志願理由書により一次選考を行うことができる。

ウ　一般入学者選抜

（ア）「学力検査の成績」と「調査書の学習の記録」の比率は、７：３、６：４、５：５、４：６、３：７のいずれかとする。

（イ）選抜は、各学科（学系）の特色に配慮しながら、その教育において必要とされる資質・能力や適性等を総合的に判定して行う。

(11) 合格者の発表

令和８年３月 16 日（月）午後３時に、各志願先高等学校（本校又は分校）及び合格者発表用ウェブサイトにおいて、受検番号により発表する。

(12) 合格者の通知

高等学校長は、合格発表後速やかに、選考結果通知書（中学校長あて）及び合格通知書（合格者あて）を各中学校に送付する。

(13) 検査成績の通知

ア　通知する内容

一般入学者選抜の学力検査の教科別得点及び合計点、調査書の換算合計点、学校独自検査の得点

イ　通知の方法

志願先高等学校から中学校に成績通知書を選考結果通知書及び合格通知書の送付とあわせて送付する。

受検者は中学校において成績通知書を受け取る（中学校での受け取りができない者については、受検者に送付する）。

(14) その他

各学科（学系）の募集定員、検査内容、２日目の実施の有無、選抜方法は実施概要一覧表のとおり。

２　一次募集（定時制課程成人枠）

（１）対象学科

定時制課程の全学科

（２）応募資格

平成 17 年４月１日までに生まれた者で、次の各項のいずれかに該当する者

ア　中学校等を卒業した者

イ　学校教育法施行規則第 95 条の規定に該当する者

（３）募集人数

若干名

（４）検査内容

ア　面接、小論文又は作文

イ　学校によっては、適性検査を実施する。

３　二次募集

（１）二次募集を行う学科（学系）

欠員が、定員の 10%以上である学科（学系）で実施する。ただし、欠員が定員の 10%未満であっても、学校の判断で実施することができる。

なお、杜陵高等学校は二次募集を行わない。

（２）応募資格

ア　一次募集（定時制課程成人枠含む）、連携型入学者選抜又は盛岡市立高等学校一般入学者選抜を受検し、合格しなかった者

イ　やむを得ない事情で、一次募集（定時制課程成人枠含む）、連携型入学者選抜または盛岡市立高等学校一般入学者選抜を受検しなかった者

（３）検査内容

調査書、面接、小論文又は作文

４　連携型入学者選抜（葛巻高等学校、軽米高等学校）

（１）応募資格

令和８年３月に連携型中学校（葛巻高等学校においては葛巻町立葛巻中学校、葛巻町立小屋瀬中学校、葛巻町立江刈中学校をいう。軽米高等学校においては軽米町立軽米中学校をいう。）を卒業する見込みの者

（２）募集定員

葛巻高等学校及び軽米高等学校の定員を上限とする。ただし、定員 40 名の学科については、定員を超えて４名まで可とする。

（３）選抜方法

国語、数学、社会、英語、理科の５教科に関する基礎学力を確認の上、連携型中学校長から提出された調査書及び面接の結果に基づき合格者を決定

する。
なお、基礎学力の確認は、一般入学者選抜学力検査で使用する検査問題と同じ問題で実施する。

５　一関第一高等学校附属中学校（併設型中高一貫教育校）からの入学

（１）入学願の提出

ア　令和８年３月に一関第一高等学校附属中学校を卒業する見込みの者は、入学願を中学校長に提出する。
なお、入学願を提出した者については、入学者選抜を実施しない。
ただし、特別な事情により一関第一高等学校（全日制課程）への入学を希望しない場合は、入学辞退届を中学校長に提出する。入学辞退届を提出した者は、原則として、当該年度の一関第一高等学校（全日制課程）の入学者選抜に出願できない。

イ　中学校長は、入学願を一関第一高等学校長に提出する。

（２）入学者の決定

ア　一関第一高等学校長は、入学願を提出した者について入学を決定する。

イ　入学決定通知書の交付を受けた者は、一次募集（一般入学者選抜、特色入学者選抜）及び盛岡市立高等学校に出願できない。

６　杜陵高等学校定時制課程入学者選抜

（１）前期日程

ア　一次募集（一般入学者選抜、特色入学者選抜）による。

イ　募集定員
本校 100 名（１・２部 80 名、３部 20 名）、奥州校 60 名（昼間部 30 名、夜間部 30 名）

（２）前期日程成人枠
一次募集（定時制課程成人枠）による。

（３）後期日程

ア　募集定員
本校 60 名（１・２部 40 名、３部 20 名）、奥州校 20 名（昼間部 10 名、夜間部 10 名）

イ　検査内容
調査書、面接、作文

（４）後期日程（チャレンジ枠）

ア　応募資格
次の各項のいずれかに該当する者で、中学校において出席状況等に事情があり、高等学校での学習に意欲がある者

（ア）令和８年３月に中学校等を卒業する見込みの者

（イ）中学校等を卒業した者

（ウ）学校教育法施行規則第 95 条の規定に該当する者

イ　募集定員（後期日程の募集定員（上記（３））内に設ける。）
本校 12 名（１・２部８名、３部４名）、奥州校５名（昼間部３名、夜間部２名）
ウ　検査内容
面接、作文（調査書は、検査内容としない。）

7　通信制課程入学者選抜

（1）募集定員
杜陵高等学校（本校・奥州校）220 名、宮古高等学校 80 名
（2）選考方法
提出された書類、面接及び作文によって行う。

8　いわて留学（県外募集）

（1）実施方針
ア　対象校
いわて留学は、次の各項のいずれかに該当する学校において実施する。
（ア）地域ふるさと振興校
次の各項のすべてに該当する全日制及び定時制課程の学科（学系）において、県教育委員会と高等学校が協議した上で実施する。
a　学校と地域が連携する体制が整っている学科（学系）
b　入学後の居住環境について紹介できる体制が整っている学科（学系）
c　県内生徒の学ぶ機会を妨げないと考えられる学科（学系）
また、開始から３年ごとに募集の継続について県教育委員会と実施高等学校が協議する。
（イ）留学実施校
地元自治体等が生徒の生活環境を保障する学校において、募集方法等について県教育委員会と地元自治体等が協議の上で実施する。
（ウ）特色教育課程校
全国的にも特色のある教育課程の学科において実施する。
イ　特定の部活動への参加を条件とする募集は行わない。
（2）応募資格
次の各項のいずれかに該当する県外に居住する者で、当該高等学校に合格した場合、入学を確約できる者
ア　令和８年３月に中学校等を卒業する見込みの者
イ　中学校等を卒業した者
ウ　学校教育法施行規則第 95 条の規定に該当する者

（３）実施学科（学系）

ア　地域ふるさと振興校

募集定員は、県内生徒の学ぶ機会の確保に配慮した上で、定員の 20%以内、かつ、各高等学校が入学後の居住環境を紹介できる数とする。

学校名	学科名（定員）	募集定員	対象となる入学者選抜
盛岡工業	工業化学科（40 名）	８名	令和８～10 年度
沼宮内	普通科（40 名）	８名	令和７～９年度
平　舘	普通科（40 名）	４名	令和６～８年度
	家政科学科（40 名）	４名	令和８～10 年度
遠　野	普通科（120 名）	12 名	
遠野緑峰	生産技術科、情報処理科（各 40 名）	２名	
黒沢尻工業	機械科、電気科、電子科、電子機械科、土木科、材料技術科（各 40 名）	12 名 （ただし、各科４名以内）	令和７～９年度
前　沢	普通科（40 名）	４名	令和８～10 年度
住　田	普通科（40 名）	４名	
宮古水産	海洋生産科（40 名）	４名	令和７～９年度
	食物科（40 名）	４名	
岩　泉	普通科（80 名）	４名	
大　野	普通科（40 名）	４名	令和８～10 年度
伊保内	普通科（40 名）	３名	令和６～８年度

イ　留学実施校

募集定員は、県内生徒の学ぶ機会の確保に配慮した上で、定員内において、各地元自治体等と協議し、定める。

学校名	学科名（定員）	募集定員	対象者
葛　巻	普通科（80 名）	10 名	「くずまき山村留学生」の候補者として志願する者
大　迫	普通科（40 名）	８名	「高校生おおはさま留学生」の候補者として志願する者
西和賀	普通科（80 名）	８名	「西和賀ふるさと留学生」の候補者として志願する者
大　槌	地域探究科（80 名）	７名	「大槌はま留学生」の候補者として志願する者

ウ　特色教育課程校

募集定員は、県内生徒の学ぶ機会の確保に配慮した上で、定員内において、定める。

学校名	学科名（定員）	募集定員	対象者
水沢農業	農業科学科（40 名）	４名	県外から志願する者のうち学校設定科目「馬学」の履修を希望する者
種　市	海洋開発科（40 名）	６名	県外から志願する者

（４）検査内容

ア　調査書

イ　志願理由書

ウ　学科（学系）によって、面接、小論文、作文、実技、口頭試問、プレゼンテーション等のうち１～２項目の検査を実施する。

（５）その他

定員 40 名の学科（学系）においては、いわて留学及び一次募集合格者数の合計は、定員を超えて４名まで可（いわて留学合格者数が４名未満の場合は、定員を超えていわて留学合格者数まで可）とする。

令和８年度岩手県立高等学校入学者選抜実施概要一覧表

※　各学科（学系）の検査内容、選抜方法等の詳細については、「令和８年度岩手県立高等学校入学者選抜実施概要」（別冊）に示す。

○　全日制

学校番号	学校名	学科名	学系	定員	一次募集								二次募集	いわて留学			備考
					特色入学者選抜					一般入学者選抜		２日目の実施					
					実施の有無	募集定員 %	募集定員 人	検査内容・選抜方法（配点）	一次選考※1	学力検査：調査書	検査内容・選抜方法（配点（傾斜配点を含む））		検査内容・選抜方法（配点）	実施の有無	区分※2	募集定員	
1	盛岡第一	普通・理数		280	有	10	28	調査書（100）、志願理由書（100）、プレゼンテーション（200）	３倍	７：３	学力検査（700）、調査書（300）	有	調査書（135）、面接（65）、作文（100）	無			くくり募集
2	盛岡第二	普通		200	有	5	10	調査書（120）、志願理由書（20）、面接（60）	２倍	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（270）、面接（50）、作文（50）	無			
3	盛岡第三	普通		280	有	5	14	調査書（100）、志願理由書（30）、数学の口頭試問（80）、面接（90）	２倍	７：３	学力検査（700）、調査書（300）	有	調査書（100）、面接（100）、小論文（100）	無			
4	盛岡第四	普通		240	有	5	12	調査書（100）、志願理由書（100）、プレゼンテーション・面接（100）	２倍	６：４	学力検査（600）、調査書（400）	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
5	盛岡北	普通		200	有	5	10	調査書（100）、志願理由書（100）プレゼンテーション（100）	３倍	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	有	調査書（50）、面接（50）、小論文（50）	無			
6	南昌みらい	普通	文理	160	有	5	8	調査書（30）、志願理由書（20）、小論文(50)、面接（50）	２倍	６：４	学力検査（600）、調査書（400）	有	調査書（270）、面接（50）、作文（80）	無			
			芸術	40	有	20	8	（音楽コース） 調査書（60）、志願理由書（30）、実技（80）、面接（20） （美術工芸コース） 調査書（60）、志願理由書（30）、実技（60）、プレゼンテーション・面接（40）	３倍	６：４	学力検査(600)、調査書(400)、実技(100)	有	調査書（270）、面接（50）、作文（80）、適性検査（100）	無			
			外国語	40	有	10	4	調査書(50)、志願理由書(30)、口頭試問(100)	２倍	６：４	学力検査(英語２倍)(600)、調査書(400)	有	調査書（270）、面接（50）、作文（80）	無			
			スポーツ科学	80	有	50	40	調査書（60）、志願理由書（60）、実技（100）、面接（100）	無	５：５	学力検査(500)、調査書(500)、実技(100)	有	調査書（100）、面接（100）、作文（60）、適性検査（100）	無			
8	盛岡農業	動物科学		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		植物科学		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		食品科学		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		人間科学		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		環境科学		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
9	盛岡工業	機械		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（200）	無	５：５	学力検査(500)、調査書(500)、面接(100)	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		電気		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（200）	無	５：５	学力検査(500)、調査書(500)、面接(100)	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		電子情報		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（200）	無	５：５	学力検査(500)、調査書(500)、面接(100)	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		電子機械		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（200）	無	５：５	学力検査(500)、調査書(500)、面接(100)	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		工業化学		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（200）	無	５：５	学力検査(500)、調査書(500)、面接(100)	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	有	地域	8	
		土木		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（200）	無	５：５	学力検査(500)、調査書(500)、面接(100)	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		建築・デザイン		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（200）	無	５：５	学力検査(500)、調査書(500)、面接(100)	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
10	盛岡商業	流通ビジネス		80	有	15	12	調査書（80）、志願理由書（50）、面接（70）	無	６：４	学力検査（600）、調査書（400）	有	調査書（100）、面接（50）、作文（50）	無			
		会計ビジネス		80	有	15	12	調査書（80）、志願理由書（50）、面接（70）	無	６：４	学力検査（600）、調査書（400）	有	調査書（100）、面接（50）、作文（50）	無			
		情報ビジネス		80	有	15	12	調査書（80）、志願理由書（50）、面接（70）	無	６：４	学力検査（600）、調査書（400）	有	調査書（100）、面接（50）、作文（50）	無			
11	沼宮内	普通		40	有	10	4	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	有	地域	8	
12	葛巻	普通		80	有	10	8	調査書（50）、志願理由書（50）、面接（50）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（50）、面接（50）、作文（50）	有	留学	10	※3
13	平舘	普通		40	有	10	4	調査書（50）、志願理由書（50）、作文（50）	２倍	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（50）、面接（50）、作文（50）	有	地域	4	
		家政科学		40	有	10	4	調査書（50）、志願理由書（50）、作文（50）	２倍	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（50）、面接（50）、作文（50）	有	地域	4	
14	雫石	普通		40	有	10	4	調査書（50）、志願理由書（50）、作文（50）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（50）、面接（50）、作文（50）	無			

学校番号	学校名	学科名	学系	定員	一次募集									二次募集	いわて留学			備考
					特色入学者選抜					一般入学者選抜			2日目の実施					
					実施の有無	募集定員 %	募集定員 人	検査内容・選抜方法（配点）	一次選考 ※1	学力検査：調査書	検査内容・選抜方法（配点（傾斜配点を含む））			検査内容・選抜方法（配点）	実施の有無	区分 ※2	募集定員	
15	紫波総合	総合		120	有	5	6	調査書（100）、志願理由書（100）、作文（100）	2倍	5：5	学力検査（500）、調査書（500）、面接（100）	有		調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
16	花巻北	普通		240	有	5	12	調査書（150）、志願理由書（50）、プレゼンテーション（100）	3倍	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	有		調査書（270）、面接（80）、作文（50）	無			
17	花巻南	普通	人文・自然科学	120	有	10	12	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）	無	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	有		調査書（100）、面接（50）、作文（50）	無			
			スポーツ健康科学	40	有	50	20	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）、実技（100）	無	5：5	学力検査（500）、調査書（500）、実技（100）	有		調査書（100）、面接（50）、作文（50）	無			
			国際科学	40	有	10	4	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）、口頭試問（100）	無	5：5	学力検査（英語2倍）（500）、調査書（500）	有		調査書（100）、面接（50）、作文（50）	無			
18	花巻農業	生物科学		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）	無	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	無		調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		環境科学		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）	無	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	無		調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		食農科学		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）	無	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	無		調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
19	花北青雲	情報工学		40	有	10	4	調査書（100）、志願理由書（50）、面接（50）	2倍	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	無		調査書（50）、面接（50）、作文（100）	無			
		ビジネス情報		80	有	10	8	調査書（100）、志願理由書（50）、面接（50）	2倍	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	無		調査書（50）、面接（50）、作文（100）	無			
		総合生活		40	有	10	4	調査書（100）、志願理由書（50）、面接（50）	2倍	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	無		調査書（50）、面接（50）、作文（100）	無			
20	大迫	普通		40	有	10	4	調査書（100）、志願理由書（100）、作文（100）	無	5：5	学力検査（500）、調査書（500）、作文（100）	無		調査書（100）、面接（50）、作文（50）	有	留学	8	
21	遠野	普通		120	有	10	12	調査書（50）、志願理由書（40）、面接（60）	2倍	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	無		調査書（100）、面接（50）、作文（50）	有	地域	12	
22	遠野緑峰	生産技術		40	有	10	4	調査書（50）、志願理由書（50）、面接（50）	無	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	無		調査書（50）、面接（50）、作文（50）	有	地域	2	
		情報処理		40	有	10	4	調査書（50）、志願理由書（50）、面接（50）	無	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	無		調査書（50）、面接（50）、作文（50）	有	地域		
23	黒沢尻北	普通		240	有	5	12	調査書（100）、志願理由書（50）、プレゼンテーション・面接（150）	2倍	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	有		調査書（100）、面接（70）、作文（30）	無			
24	北上翔南	総合		160	有	5	8	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）	2倍	4：6	学力検査（国語、数学1.5倍）（400）、調査書（600）	無		調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
25	黒沢尻工業	機械		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（50）、面接（150）	無	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	無		調査書（100）、面接（100）、作文（100）	有	地域	12	
		電気		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（50）、面接（150）	無	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	無		調査書（100）、面接（100）、作文（100）	有	地域		
		電子		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（50）、面接（150）	無	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	無		調査書（100）、面接（100）、作文（100）	有	地域		
		電子機械		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（50）、面接（150）	無	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	無		調査書（100）、面接（100）、作文（100）	有	地域		
		土木		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（50）、面接（150）	無	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	無		調査書（100）、面接（100）、作文（100）	有	地域		
		材料技術		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（50）、面接（150）	無	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	無		調査書（100）、面接（100）、作文（100）	有	地域		
26	西和賀	普通		80	有	10	8	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（70）	無	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	無		調査書（200）、面接（70）、作文（80）	有	留学	8	
27	水沢	普通・理数		240	有	5	12	調査書（250）、志願理由書（50）、口頭試問（200）	2倍	7：3	学力検査（700）、調査書（300）	有		調査書（100）、面接（100）、小論文（100）	無			くくり募集
28	水沢農業	農業科学		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（40）、作文（60）、面接（100）	無	6：4	学力検査（600）、調査書（400）	無		調査書（100）、面接（100）、作文（100）	有	特色	4	
		食品科学		40	有	20	8	調査書（100）、志願理由書（40）、作文（60）、面接（100）	無	6：4	学力検査（600）、調査書（400）	無		調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
29	水沢工業	機械		40	有	15	6	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）	2倍	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	有		調査書（135）、面接（100）、作文（65）	無			
		電気		40	有	15	6	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）	2倍	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	有		調査書（135）、面接（100）、作文（65）	無			
		設備システム		40	有	15	6	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）	2倍	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	有		調査書（135）、面接（100）、作文（65）	無			
		インテリア		40	有	15	6	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）	2倍	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	有		調査書（135）、面接（100）、作文（65）	無			
30	水沢商業	商業		40	有	10	4	調査書（50）、志願理由書（50）、プレゼンテーション（100）	無	6：4	学力検査（600）、調査書（400）	無		調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		会計ビジネス		40	有	10	4	調査書（50）、志願理由書（50）、プレゼンテーション（100）	無	6：4	学力検査（600）、調査書（400）	無		調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		情報システム		40	有	10	4	調査書（50）、志願理由書（50）、プレゼンテーション（100）	無	6：4	学力検査（600）、調査書（400）	無		調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
31	前沢	普通		40	有	10	4	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（50）	3倍	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	無		調査書（270）、面接（70）、作文（60）	有	地域	4	
32	金ケ崎	普通		40	有	10	4	調査書（50）、志願理由書（50）、プレゼンテーション（50）	2倍	5：5	学力検査（500）、調査書（500）	有		調査書（50）、面接（50）、作文（50）	無			

学校番号	学校名	学科名	学系	定員	一次募集								二次募集	いわて留学			備考
					特色入学者選抜					一般入学者選抜		２日目の実施					
					実施の有無	募集定員 %	募集定員 人	検査内容・選抜方法（配点）	一次選考 ※1	学力検査：調査書	検査内容・選抜方法（配点（傾斜配点を含む））		検査内容・選抜方法（配点）	実施の有無	区分 ※2	募集定員	
33	岩谷堂	総合		120	有	15	18	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（50）、面接（50）、作文（50）	無			
34	一関第一	普通・理数		200	有	5	10	調査書（75）、志願理由書（25）、プレゼンテーション（200）	２倍	７：３	学力検査（700）、調査書（300）	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			くくり募集※4
35	一関第二	総合		200	有	5	10	調査書（50）、志願理由書（50）、スピーチ（50）	３倍	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	有	調査書（50）、面接（50）、作文（50）	無			
36	一関工業	電気電子		40	有	20	8	調査書（50）、志願理由書（50）、面接（100）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）、面接（100）	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		電子機械		40	有	20	8	調査書（50）、志願理由書（50）、面接（100）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）、面接（100）	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		土木		40	有	20	8	調査書（50）、志願理由書（50）、面接（100）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）、面接（100）	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
37	花泉	普通		40	有	10	4	調査書（100）、志願理由書（40）、面接（60）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（60）、面接（60）、作文（60）	無			
38	大東	普通		40	有	10	4	調査書（50）、志願理由書（50）、面接（50）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		情報ビジネス		40	有	20	8	調査書（50）、志願理由書（50）、面接（50）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
39	千厩	普通		120	有	10	12	調査書（90）、志願理由書（90）、面接（120）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（135）、面接（100）、作文（65）	無			
		生産技術		40	有	10	4	調査書（90）、志願理由書（90）、面接（120）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（135）、面接（100）、作文（65）	無			
		産業技術		40	有	10	4	調査書（90）、志願理由書（90）、面接（120）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（135）、面接（100）、作文（65）	無			
40	高田	普通		120	有	10	12	調査書（50）、志願理由書（50）、作文（50）、面接（50）	２倍	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	有	調査書（50）、面接（50）、作文（50）	無			
		海洋システム		40	有	20	8	調査書（50）、志願理由書（50）、作文（50）、面接（50）	２倍	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	有	調査書（50）、面接（50）、作文（50）	無			
41	大船渡	普通		160	有	5	8	調査書（75）、志願理由書（25）、プレゼンテーション（200）	２倍	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	有	調査書（270）、面接（30）、作文（100）	無			
42	大船渡東	農芸科学		40	有	10	4	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）、面接（50）	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		機械電気		40	有	10	4	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）、面接（50）	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		情報処理		40	有	10	4	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）、面接（50）	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		食物文化		40	有	10	4	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）、面接（50）	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
43	住田	普通		40	有	10	4	調査書（20）、志願理由書（20）、自己表現検査（40）、面接（20）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（150）、面接（150）、作文（100）	有	地域	4	
44	釜石	普通・理数		160	有	5	8	調査書（100）、志願理由書（50）、口頭試問（200）	２倍	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	有	調査書（270）、面接（75）、作文（75）	無			くくり募集
45	釜石商工	機械		40	有	5	2	調査書（100）、志願理由書（100）、作文（100）	無	７：３	学力検査（700）、調査書（300）、面接（100）	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		電気電子		40	有	5	2	調査書（100）、志願理由書（100）、作文（100）	無	７：３	学力検査（700）、調査書（300）、面接（100）	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		総合情報		40	有	5	2	調査書（100）、志願理由書（100）、作文（100）	無	７：３	学力検査（700）、調査書（300）、面接（100）	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
46	大槌	地域探究		80	有	5	4	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（100）、作文（100）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	有	留学	7	
47	山田	普通		40	有	5	2	調査書（100）、志願理由書（30）、プレゼンテーション（120）	２倍	５：５	学力検査（500）、調査書（500）、面接（100）	有	調査書（50）、面接（50）、作文（50）	無			
48	宮古	普通		200	有	5	10	調査書（100）、志願理由書（50）、面接（50）	２倍	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（270）、面接（50）、作文（80）	無			
49	宮古北	普通		40	有	10	4	調査書（100）、志願理由書（20）、面接（40）、口頭試問（40）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（100）、面接（200）、作文（100）	無			
50	宮古商工	機械システム		40	有	10	4	調査書（100）、志願理由書（80）、面接（120）	２倍	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		電気システム		40	有	10	4	調査書（100）、志願理由書（80）、面接（120）	２倍	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		総合ビジネス		40	有	10	4	調査書（100）、志願理由書（80）、面接（120）	２倍	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		流通ビジネス		40	有	10	4	調査書（100）、志願理由書（80）、面接（120）	２倍	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		情報ビジネス		40	有	10	4	調査書（100）、志願理由書（80）、面接（120）	２倍	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
51	宮古水産	海洋生産		40	有	10	4	調査書（60）、志願理由書（60）、プレゼンテーション（80）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	有	地域	4	
		食物		40	有	10	4	調査書（60）、志願理由書（60）、プレゼンテーション（80）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	有	地域	4	
52	岩泉	普通		80	有	10	8	調査書（100）、志願理由書（50）、作文（50）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）、面接（100）	有	調査書（90）、面接（160）、作文（50）	有	地域	4	
53	久慈	普通		160	有	10	16	調査書（100）、志願理由書（20）、プレゼンテーション（80）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（150）、面接（100）、作文（50）	無			

学校番号	学校名	学科名	学系	定員	一次募集 特色入学者選抜 実施の有無	募集定員 %	募集定員 人	検査内容・選抜方法（配点）	一次選考※1	一般入学者選抜 学力検査：調査書	検査内容・選抜方法（配点（傾斜配点を含む））	２日目の実施	二次募集 検査内容・選抜方法（配点）	いわて留学 実施の有無	区分※2	募集定員	備考
54	久慈翔北	工業		40	有	10	4	調査書（100）、志願理由書（50）、面接（50）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（90）、面接（50）、作文（60）	無			
		総合		200	有	10	20	調査書（100）、志願理由書（50）、面接（50）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（90）、面接（50）、作文（60）	無			
55	種市	普通		40	有	10	4	調査書（135）、志願理由書（35）、面接（130）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	有	調査書（180）、面接（60）、作文（60）	無			
		海洋開発		40	有	10	4	調査書（135）、志願理由書（35）、面接（130）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	有	調査書（180）、面接（60）、作文（60）	有	特色	6	
56	大野	普通		40	有	10	4	調査書（100）、志願理由書（30）、面接（70）、作文（100）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	無	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	有	地域	4	
57	軽米	普通		40	有	10	4	調査書（100）、志願理由書（50）、作文（100）、面接（100）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）、面接（30）	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			※3
58	伊保内	普通		40	有	5	2	調査書（50）、志願理由書（50）、プレゼンテーション・面接（100）	３倍	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	有	調査書（50）、面接（50）、作文（50）	有	地域	3	
59	福岡	普通		120	有	10	12	調査書（270）、志願理由書（80）、作文（50）	２倍	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	有	調査書（270）、面接（50）、作文（80）	無			
60	北桜	機械システム		40	有	20	8	調査書（50）、志願理由書（50）、作文（50）、面接（50）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		電気情報システム		40	有	20	8	調査書（50）、志願理由書（50）、作文（50）、面接（50）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			
		総合		120	有	20	24	調査書（50）、志願理由書（50）、作文（50）、面接（50）	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	有	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無			

○ 定時制

学校番号	学校名	学科名	部	定員	前期日程 募集定員	特色入学者選抜 実施の有無	一般入学者選抜（１日目） 学力検査：調査書	検査内容・選抜方法（配点）	成人枠（２日目） 検査内容・選抜方法（配点）	後期日程 募集定員	チャレンジ枠	検査内容・選抜方法（配点）	いわて留学 実施の有無	備考
7-1	杜陵	普通	1・2部	120	80	無	５：５	学力検査(500)、調査書(500)、面接(100)	面接（60）、作文（40）	40	8	調査書（100）、面接（100）、作文（100）（チャレンジ枠は、面接（100）、作文（100））	無	※5
			3部	40	20	無	５：５	学力検査(500)、調査書(500)、面接(100)	面接（60）、作文（40）	20	4	調査書（100）、面接（100）、作文（100）（チャレンジ枠は、面接（100）、作文（100））	無	
7-3	杜陵奥州	普通	昼間部	40	30	無	５：５	学力検査(500)、調査書(500)、面接(100)	面接（60）、作文（40）	10	3	調査書（100）、面接（100）、作文（100）（チャレンジ枠は、面接（100）、作文（100））	無	※5
			夜間部	40	30	無	５：５	学力検査(500)、調査書(500)、面接(100)	面接（60）、作文（40）	10	2	調査書（100）、面接（100）、作文（100）（チャレンジ枠は、面接（100）、作文（100））	無	

学校番号	学校名	学科名	部	定員	一次募集 特色入学者選抜 実施の有無	一般入学者選抜（１日目） 学力検査：調査書	検査内容・選抜方法（配点）	成人枠（２日目） 検査内容・選抜方法（配点）	二次募集 検査内容・選抜方法（配点）	いわて留学 実施の有無	備考
9-2	盛岡工業	工業		40	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	面接（50）、作文（50）	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無	
34-2	一関第一	普通		40	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	面接（100）、作文（100）	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無	
41-2	大船渡	普通		40	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）、面接（100）	面接（100）、作文（50）	調査書（50）、面接（150）、作文（100）	無	
44-2	釜石	普通		40	無	７：３	学力検査（700）、調査書（300）、面接（100）	面接（100）、作文（50）	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無	
48-2	宮古	普通		40	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）、面接（100）	面接（100）、作文（100）	調査書（50）、面接（150）、作文（100）	無	
53-2	久慈長内	普通	昼間部	40	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	面接（100）、作文（50）	調査書（150）、面接（100）、作文（50）	無	
			夜間部	40	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	面接（100）、作文（50）	調査書（150）、面接（100）、作文（50）	無	
59-2	福岡	普通		40	無	５：５	学力検査（500）、調査書（500）	面接（100）、作文（100）	調査書（100）、面接（100）、作文（100）	無	

【注】この表中の定員は、「岩手県立高等学校の管理運営に関する規則」第３条第２項の規定により、志願者数（調整後）によっては、減ずることがある。

※1　「特色入学者選抜」の「一次選考」について、「2倍」は2倍を超えた場合に実施する場合があること、「3倍」は3倍を超えた場合に実施する場合があること、「無」は実施しないことを示す。

※2　「いわて留学」の「区分」について、「地域」は地域ふるさと振興校、「留学」は留学実施校、「特色」は特色教育課程校を示す。なお、いわて留学実施学科（学系）のうち定員40名の学科（学系）については、いわて留学及び一次募集合格者の合計は、定員を超えて４名まで可とする。

※3　定員には、連携型入学者選抜合格者数を含む。ただし、定員40名の学科については、定員を超えて４名まで可とする。連携型入学者選抜の配点は、葛巻高等学校が調査書（500）、面接（50）、軽米高等学校が調査書（500）、面接（30）である。

※4　定員には、一関第一高等学校附属中学校からの入学決定者数を含む。学区外最大入学者数は36名とする。
※5　前期日程において欠員がある部については、欠員の数を後期日程の募集定員に加える。後期日程（チャレンジ枠）の募集定員は、後期日程の募集定員内に設ける。

○　「いわて留学」（県外募集）

※　各学科（学系）の検査内容、選抜方法等の詳細については、「令和８年度「いわて留学」概要」（別冊）に示す。

地域ふるさと振興校

学校番号	学校名	学科名	募集定員	検査内容・選抜方法（配点）	対象となる入学者選抜
9	盛岡工業	工業化学	8	調査書（50）、志願理由書（50）、面接（100）	令和８～10年度
11	沼宮内	普通	8	調査書（100）、志願理由書（50）、面接（100）	令和７～９年度
13	平舘	普通	4	調査書（50）、志願理由書（50）、作文（50）	令和６～８年度
		家政科学	4	調査書（50）、志願理由書（50）、作文（50）	令和８～10年度
21	遠野	普通	12	調査書（50）、志願理由書（30）、作文（60）、面接（60）	
22	遠野緑峰	生産技術	2	調査書（180）、志願理由書（60）、面接（60）	
		情報処理		調査書（180）、志願理由書（60）、面接（60）	
25	黒沢尻工業	機械	12（ただし、各科4名以内）	調査書（100）、志願理由書（50）、面接（150）	令和７～９年度
		電気		調査書（100）、志願理由書（50）、面接（150）	
		電子		調査書（100）、志願理由書（50）、面接（150）	
		電子機械		調査書（100）、志願理由書（50）、面接（150）	
		土木		調査書（100）、志願理由書（50）、面接（150）	
		材料技術		調査書（100）、志願理由書（50）、面接（150）	
31	前沢	普通	4	調査書（45）、志願理由書（45）、面接（60）	令和８～10年度
43	住田	普通	4	調査書（150）、志願理由書（30）、面接（120）、作文（100）	
51	宮古水産	海洋生産	4	調査書（50）、志願理由書（50）、作文（50）、面接（50）	令和７～９年度
		食物	4	調査書（50）、志願理由書（50）、作文（50）、面接（50）	
52	岩泉	普通	4	調査書（90）、志願理由書及び面接（160）、作文（50）	
56	大野	普通	4	調査書（100）、志願理由書及び面接（100）、作文（100）	令和８～10年度
58	伊保内	普通	3	調査書（50）、志願理由書（50）、作文（50）、面接（50）	令和６～８年度

留学実施校

学校番号	学校名	学科名	募集定員	検査内容・選抜方法（配点）	対象者
12	葛巻	普通	10	調査書（50）、志願理由書（50）、面接（50）	「くずまき山村留学生」の候補者として志願する者
20	大迫	普通	8	調査書（100）、志願理由書（100）、作文（100）	「高校生おおはさま留学生」の候補者として志願する者
26	西和賀	普通	8	調査書（100）、志願理由書（100）、面接（70）、作文（80）	「西和賀ふるさと留学生」の候補者として志願する者
46	大槌	地域探究	7	調査書（150）、志願理由書（50）、作文（50）、面接（50）	「大槌はま留学生」の候補者として志願する者

特色教育課程校

学校番号	学校名	学科名	募集定員	検査内容・選抜方法（配点）	対象者
28	水沢農業	農業科学	4	調査書（100）、志願理由書（50）、作文（50）、面接（100）	県外から志願する者のうち、学校設定科目「馬学」の履修を希望する者
55	種市	海洋開発	6	調査書（135）、志願理由書（35）、面接(130)	県外から志願する者

事務報告２

令和８年度岩手県立特別支援学校高等部の学級数等について

令和８年度の岩手県立特別支援学校高等部の学級数等について、別紙のとおり報告します。

令和７年10月20日

令和８年度岩手県立特別支援学校高等部の学級数等について

【要旨】令和８年度の県立特別支援学校高等部入学者選考にあたり、現時点での高等部の学級数等の見込について報告するもの。

１　学級設置の基本的な考え方

障がいのある生徒に一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を行い、望ましい成長発達を促すとともに、社会参加と自立を図るため、県立特別支援学校高等部の在籍数及び入学希望見込みの増減等を勘案し、毎年度適正規模に調整するものとする。

２　学級数の増減

学校名	対象障がい	部・科・学級	令和８年度予定		令和７年度　第１学年		増減	備考
			学級数	募集定員	学級数	生徒数	学級数	
盛岡視覚	視覚障がい	高等部・保健理療科・通常学級	1	8	0	0	1	R7 入学者なし
盛岡聴覚	聴覚障がい	高等部・普通科・通常学級	1	8	0	0	1	R7 入学者なし
		専攻科・産業技術科・通常学級	1	8	0	0	1	R7 入学者なし
盛岡となん	肢体不自由	高等部・普通科・重複障がい学級	10※	16※	12※	10※	△２	
盛岡ひがし	知的障がい	高等部・普通科・通常学級	2	16	1	7	1	
前沢明峰	知的障がい・肢体不自由	高等部・普通科・通常学級	3	24	2	9	1	
		高等部・普通科・重複障がい学級	４※	12※	６※	13※	△２	
気仙光陵	知的障がい・肢体不自由	高等部・普通科・通常学級	2	16	1	6	1	
一関清明	病弱・知的障がい・肢体不自由	高等部・普通科・（知）通常学級	3	24	2	9	1	
		高等部・普通科・重複障がい学級	５※	15※	４※	12※	1	
二戸北星	知的障がい・肢体不自由	高等部・普通科・通常学級	1	8	1	5	—	R7 の学級数生徒数は、二戸分教室の数
		高等部・普通科・重複障がい学級	１※	３※	１※	１※	—	

・令和７年度については、現１学年の実学級数と実人数であること。

・※は、１～３学年を通じた学級数・募集定員・生徒数として示しているものであること。

３〈参考〉令和５年度以降の県立特別支援学校高等部学級数・合格者数（訪問教育を除く）

	令和８年度		令和７年度		令和６年度		令和５年度	
	募集時 学級数	募集定員	学級数 (募集時)	合格者数 (募集定員)	学級数 (募集時)	合格者数 (募集定員)	学級数 (募集時)	合格者数 (募集定員)
通　常　学　級	34	272 名	23 (33)	127 名 (264 名)	28 (35)	154 名 (280 名)	27 (32)	151 名 (256 名)
重複障がい学級	39	117 名	52 (40)	48 名 (120 名)	45 (39)	48 名 (117 名)	43 (38)	45 名 (114 名)
合　　計	73	389 名	74 (73)	175 名 (384 名)	73 (74)	202 名 (397 名)	70 (70)	196 名 (370 名)

・通常学級は、１学級８名定員を基準とする。

・重複障がい学級は、１学級３名定員を基準とする。また重複障がい学級の学級数及び募集定員は１～３年を通じた数である。

＜資料＞令和８年度岩手県立特別支援学校高等部・専攻科学級数及び入学予定者数一覧

対応障がい	学校名	部	学科	学級数・人数		備考
視覚障がい	盛岡視覚支援学校	高等部	普通科	通常　１学級	8	
				重複　１学級	3	
			保健理療科	通常　１学級	8	１学級増
		専攻科	保健理療科	通常　１学級	8	
			理療科	通常　１学級	8	
聴覚障がい	盛岡聴覚支援学校	高等部	普通科	通常　１学級	8	１学級増
				重複　１学級	3	
			産業技術科	通常　１学級	8	
		専攻科	産業技術科	通常　１学級	8	１学級増
肢体不自由	盛岡となん支援学校	高等部	普通科	通常　１学級	8	
				重複　２学級	6	R7は１～３年で10学級
病弱	盛岡青松支援学校	高等部	普通科	通常　１学級	8	
				重複　２学級	6	R7は１～３年で７学級
知的障がい	盛岡峰南高等支援学校	高等部	生活科学科 農産技術科 加工生産科 流通･サービス科	通常　４学級	32	
	盛岡みたけ支援学校	高等部	普通科	通常　３学級	24	
				重複　４学級 ※	12	
	盛岡ひがし支援学校	高等部	普通科	通常　２学級	16	１学級増
				重複　５学級 ※	15	R7は１学年で２学級

・※は、１～３学年を通じた学級数・人数として示している。

対応障がい	学校名	部	学科	学級数・人数		備考
知的障がい・肢体不自由	花巻清風支援学校	高等部	普通科	通常　２学級	16	
				重複　５学級 ※	15	R7は１学年で３学級
	前沢明峰支援学校	高等部	普通科	通常　３学級	24	１学級増
				重複　４学級 ※	12	２学級減
	気仙光陵支援学校	高等部	普通科	通常　２学級	16	１学級増
				重複　１学級 ※	3	
	宮古恵風支援学校	高等部	普通科	通常　１学級	8	
				重複　３学級 ※	9	
	久慈拓陽支援学校	高等部	普通科	通常　１学級	8	
				重複　２学級 ※	6	
	二戸北星支援学校	高等部	普通科	通常　１学級	8	R8新設
				重複　１学級 ※	3	R8新設
病弱・知的障がい・肢体不自由	一関清明支援学校	高等部	普通科（知的）	通常　３学級	24	１学級増
			普通科(病・肢)	通常　１学級	8	
			普通科	重複　５学級 ※	15	１学級増
	あすなろ分教室		普通科	重複　１学級	3	R7は１～３年で２学級
	釜石祥雲支援学校	高等部	普通科（知的）	通常　１学級	8	
			普通科(病・肢)	通常　１学級	8	
			普通科	重複　１学級 ※	3	
	しゃくなげ分教室		普通科	重複　１学級	3	R7は１～３年で２学級
＜訪問教育＞	盛岡となん支援学校	高等部	普通科	※	若干名	
	盛岡青松支援学校		普通科	※	若干名	
	盛岡みたけ支援学校		普通科	※	若干名	
	花巻清風支援学校		普通科	※	若干名	
	前沢明峰支援学校		普通科	※	若干名	
	一関清明支援学校		普通科	※	若干名	
	気仙光陵支援学校		普通科	※	若干名	
	釜石祥雲支援学校		普通科	※	若干名	
	宮古恵風支援学校		普通科	※	若干名	
	久慈拓陽支援学校		普通科	※	若干名	
	二戸北星支援学校		普通科	※	若干名	

事務報告３

今後の県立高校に関する地域検討会議（第２回）及び意見交換会（第１回）等の開催結果について

今後の県立高校に関する地域検討会議（第２回）及び意見交換会（第１回）等の開催結果について、別紙のとおり報告いたします。

令和７年 10 月 20 日

今後の県立高校に関する地域検討会議（第２回）及び意見交換会（第１回）等の開催結果について

１ 地域検討会議（第２回）発言内容（要旨）

Ⅰ　第３期県立高等学校再編計画の策定について

１　策定の趣旨

－

２　計画の性格

－

３　計画の期間

－

Ⅱ　現状と課題

１　岩手の未来を担う人材の育成

－

２　高等学校の多様化への対応（「共通性の確保」と「多様性への対応」）

－

３　少子化による生徒数減少への対応

－

４　地域や地域産業と高等学校教育との関わり

－

５　専門的な知識を持つ人材の育成

－

Ⅲ　第３期県立高等学校再編計画の方針

１　基本的な考え方

(1) 全体方針

・様々な産業において人手不足が深刻化する中、どうしたら持続可能な社会を作れるのかを検討していく必要がある。（産業）
・将来の岩手を担う人材育成に向けた強いメッセージが必要ではないか。単なる数合わせによる統廃合ではなく、教育の本質を見据えた議論が求められる。（行政）
・今後は岩手全体として人材を育てていくための高校の再編が重要である。（行政）
・地域にとって高校の存在は、教育分野のみではなく、公共交通の部分にも大きく影響がある。そうした様々な分野を横断的に考えながら検討していく必要があるのではないか。（行政）
・自分たちの市町村に子どもが必要というのであれば、市町村が本気で子どもに投資し、環境整備を行わなければ学校は残らないことから、地域の主体的な関与が必要である。（PTA）
・医師確保については再編計画に具体的な記載はできかねると思うが、気仙地区からも医師を目指す生徒が入学できる高校を設置していただきたい。（教育）
・広大な面積の県土において、小さな学校が果たす役割は非常に大きく、生徒がここの学校で学んでよかったと感じられる環境を整備し、将来は地元で活躍できるような環境づくりを進めていきたい。（行政）
・広い県土と多くの中山間地を抱える本県の地理的状況を踏まえ、生徒の教育の機会の保障に向けた学校の配置に取り組むとあるが、この基本を守

っていただきたい。（産業）
・計画全体に少子化対応の色が強く、多様化・多様性への視点がやや不足している印象があり、高校教育でも「学校の多様化」と「教育内容の多様化」の両面からの対応が必要ではないか。（教育）
・教員数の減少は理解しているが、地域に根差した学びの場は維持してほしいという強い要望がある。（PTA）
・子どもを主語とした教育の視点を大切にし、進路の選択肢を狭めないような工夫を求めたい。（教育）

(2) 学校・学級の規模

・当初案において、１学級校の地域で果たす役割の重要性を考慮し、地域校を位置付けたことに感謝している。（行政）
・少子高齢化や教員不足が進む中、ある程度の高校再編はやむを得ないと考える。特に、専門高校については、センター・スクールの設置が必要という考えに賛同する。（産業）
・地域校の位置付けは評価できる。地元自治体や住民と連携して教育活動や入学者確保に取り組むことが重要である。（行政）
・40 人学級を見直し、県が財政的に負担して 35 人学級の導入を検討してはどうか。広大な県土を抱える岩手の状況や少子化を踏まえ、１学級あたりの規模縮小が必要と考える。（教育）
・山田町としては、１学級校の募集停止の原則論の撤廃を求めてきたが、今回の当初案では、従来の基準が維持されており、残念である。（行政）
・１学級校の募集停止に関する基準についての表現は納得できない。原則として翌年度から募集停止することとしているが、原則という表現が曖昧であり、夢や希望が持てるように、もう少し柔らかい表現を検討できないか。（行政）
・小規模校について、各市町村の方々の残してほしいという思いはよくわかるが、これからも生徒数が減り、部活、勉強も含めて、様々なハンデが出てくる。（産業）
・計画において、「望ましい学校規模を設定しない」と明記されている点は、地域の実情に配慮した柔軟な姿勢として非常に評価できる。（教育）
・募集停止の基準については、原則ということであるが、地域との丁寧な協議をお願いしたい。（行政）
・小規模校の、地域の活性化に果たす役割の大きさを考慮してほしい。（教育）

(3) 通学区域

－

(4) 通学等の支援

・学びを集約することにより、公共交通機関で通学できない生徒が増えることが予想されることから、寮や下宿の整備を検討する必要があるのではないか。（PTA）
・再編が進むことにより、親元を離れて生活する生徒への対応についても、より細やかな対応を期待する。（教育）
・人口減少に伴い高校再編は避けられないが、生徒の通学の負担が増えることから、下宿や寮など通学支援を検討していただきたい。（産業）
・学びを集約し、寮を整備するとのことだが、寮に係る経費を懸念して進学をあきらめる家庭もあると思われることから、改めて検討していただきたい。（PTA）
・水産及び調理師養成施設の集約については、気仙地区から宮古市への通学は難しいため、保護者の負担を軽減するために寮や下宿の整備を検討していただきたい。（教育）
・今回の再編計画はこれでよいと考えるが、教育の機会の確保という点から、寮の整備は必要だと考える。（産業）
・寮の整備について、シェアハウスのような形での建設が望ましいと感じている。（PTA）
・自分の町から高校がなくなることへの不安は大きく、高校卒業までは親元から通わせたいという家庭の声が根強い。家庭の理解や支援体制の整備が不可欠であり、寮や下宿の導入には慎重な対応が求められる。（教育）
・寮の整備が進んでも、家族の支援が必要な生徒にとっては進路選択の制約となり得る。進学を諦めざるを得ないケースも懸念される。（PTA）

２　高等学校教育の充実に向けた方策

(1) 高校の特色化・魅力化

・生徒自身に響くような、高校の特色化・魅力化を含めたアプローチの工夫が必要ではないか。（PTA）
・県教委には、各高校の特色づくりに向けて積極的に声掛けを行い、市町村や学校が連携しやすい環境を整えてほしい。（教育）
・地域校について、高校があることの地域のメリットは計り知れないが、存続するためには特色化・魅力化が必要であり、そのための当該高校の教員の負担を危惧している。（教育）
・小規模校を選んでもらうためには、各学校の特色を学校や地域が様々な場面でＰＲすることが大切であり、県教委にもＰＲについて協力いただきたい。（産業）
・私立高校の魅力があるというよりは、私立高校は情報の提示の仕方が上手であるという印象を感じている。県立高校でも、生徒や保護者への情報提供の仕方を改善する必要がある。（PTA）
・地元の子ども達が自分の夢が実現できると感じられるような魅力を、各県立高校が出していく必要があるのではないか。特に、普通科についてはどの学校も一律な印象を受ける。（教育）
・高校の集約が進む中、それぞれの学校が持つ特色や魅力を早い段階で示すことで、中学生が進路をより深く理解し、納得のいく選択ができるようになると考える。（教育）

(2) いわて留学（県外募集）

・当初案におけるいわて留学の目指す姿について、支援の詳細が分からず具体性に乏しいと感じている。（行政）
・いわて留学は県にとって重要であり、他県からの生徒受け入れが地域活性化や人口交流に貢献している。（教育）
・いわて留学における県外からの受け入れ枠を拡大し、市町村の努力に応じて柔軟に対応できる仕組みにしてほしい。（教育）
・いわて留学などを通して、岩手県としての人材育成方針や特色ある取組を明確に示していくことが必要である。（行政）
・いわて留学については、都市部の生徒が自然豊かな地域で学ぶ機会として非常に有意義であると考えているが、制度運用には一定のハードルもあるため、今後の改善と支援をお願いしたい。（教育）
・小規模校の存続にあたっては、いわて留学が非常に有効な手立てだと考えており、生徒募集の条件について、入試条件の一層の緩和や条件整備を進めて欲しい。（教育）

３　学校・学科の配置

(1) 普通高校

－

(2) 専門高校

・職業教育のセンター・スクールについて、盛岡農業高校や盛岡工業高校でも定員を満たしていない学科もあることから、地域の産業のニーズを把握したうえで、地元企業が求める人材の育成に努めてもらいたい。また、産業界と連携し、地元就職率の向上に向けた仕組みづくりを検討していただきたい。（行政）
・盛岡工業高校の学科改編にあたっては、地域の産業実情に合わせ、建築・土木・電気設備など建設関連の特色を持たせてほしい。また、センター・スクールとしての役割を果たすため、盛岡工業高校と黒沢尻工業高校でそれぞれ特色ある学科を設け、県内全体をカバーできる体制を整えてほしい。（産業）
・専門学科については、物づくりという観点で、県として専門高校への魅力を高めるためのキャリア教育をさらに先導する必要があるのではないか。（教育）

・人手不足解消の観点から卒業後すぐに社会で貢献できる人材の育成、地域に根ざした工業・農業などの職種に対応した育成を目指してもらいたい。（産業）

(3) 総合学科高校

・紫波総合高校については、今後の方向性を見据えた検証が必要であり、魅力発信や系列構成の見直しなど、次の展開を意識した取組を進めてほしい。（教育）

(4) 定時制・通信制高校

・中学校で不登校を経験した生徒を受け入れるチャレンジ枠の拡充をお願いしたい。（教育）

(5) 中高一貫教育校

・計画に併設型中高一貫教育を明記したことについては評価するが、既に一関第一高校の検証結果が明らかになったのであれば、積極的に、早期に取り組むことを期待する。（教育）
・中高一貫教育について、花巻市が想定している中高一貫校の併設中学校は１学年１学級から２学級で、花巻北高校の敷地に校舎を建設するものであり、花巻市内或いは周辺市町の既存の中学校への影響は少ないと考えている。（行政）
・一関第一高校が学級減となると、中高一貫により進学する生徒 80 人に対して募集枠が少なくなり、バランスが崩れてより狭き門になってしまうことに理不尽さを感じている。（産業）

Ⅳ　再編プログラム

１　全体プログラム

・生徒数の減少が進む中、県内全体および各地区のバランスを考慮した高校配置を求める。（行政）
・子どもたちが夢や希望を持ち、将来の進路を自由に選択できるよう、普通科・専門学科をバランスよく配置してほしい。（行政）
・学科の名称について、昔から同じであることから、変更してもよいのではないか。（産業）

２　地区別プログラム

(1) 盛岡地区

・盛岡工業高校の校舎移転については、１カ所で学びが完結するような配慮をお願いしたい。（行政）
・地域の努力がある中で平舘高校の家政科学科が募集停止となれば、関係者の意欲が損なわれる懸念があるため、猶予期間の延長を強く要望する。（行政）
・紫波総合高校については、紫波町と連携し、交通費の補助や給食の提供など、地域と一体となった支援の仕組みを検討してほしい。（産業）
・平舘高校の家政科学科については、令和９年度からの募集停止ではなく、状況を見ながら判断する猶予を設けてほしい。（教育）
・統合が進むことで、平舘高校で行われているムラサキの栽培など、学校の特色が失われる懸念もあるため、地域性を踏まえた判断をお願いしたい。（教育）

(2) 中部地区

・大迫高校に関しては、小規模校を選択して市内や県外から生徒が入学している特色のある学校であり、令和８年度に募集停止しなかったことについて評価する。（行政）
・花北青雲高校の情報工学科は、他の工業系以外の学科との交流により柔軟な教育ができ、地元就職者も多い。１学級の募集停止基準の 20 名以下を考慮せず、再来年度から募集停止というのは行き過ぎである。（行政）
・黒沢尻工業高校については、令和９年度に既存の１学科を半導体関連の学科に再編するということで、地域の産業構造の観点から一定の評価をしている。（行政）

・社会状況を鑑みると、計画の考え方は必然という思いがあるが、遠野市にとって遠野緑峰高校は大事な高校で、その精神を引き継いでいきたい。（行政）
・花北青雲高校は地域の産業界に人材を供給している学校であり、産業界としては、情報工学科を存続して企業に役に立つ人材の育成に当たっていただきたい。（産業）
・花北青雲高校に関しては、地域や地域産業担う人材を供給できる大事な学校であり、工業のバランスだけで募集停止としていいものか疑問がある。（PTA）
・黒沢尻工業高校は、センター・スクールとしてこれから期待されていくことと思うが、半導体関連学科の設置等の評価を踏まえて、情報工学科の募集停止を検討してもいいのではないか。（教育）
・北上市に半導体関連の学科と施設の２つができるのは、非常に大きなことで、北上市における黒沢尻工業高校の存在感が高まるという期待を持っている。（教育）
・西和賀高校は北上市の中学生にとっても大切な進路の選択肢の１つで、まちづくりや北上線の存続に大きな影響があることから、今後も大事にしていただきたい。（教育）
・遠野緑峰高校が統合することにより、学びの質の低下が危惧されることから、農業を学びたい強い意志を持った生徒が安心して学べる環境を整備して、農業を担う人材育成に力を入れていただきたい。（教育）
・大迫高校の入学者数は２年連続 20 人に満たない状況ではあるが、今年度は大迫中学校にも志望している生徒がいるので、今後の志願者の数を見ながら判断いただきたい。（教育）
・県南工業高校の状況が分からないまま、学びを集約するために花北青雲高校の情報工学科を募集停止するのは無理があると感じる。（行政）

(3) 県南地区

・杜陵高校奥州校については、奥州市在住の生徒が多く、金ケ崎高校校舎への移転による通学への課題があるため配慮が必要である。（行政）
・大東高校の学級減等の判断は、令和８年度からの新計画からの地域の取組や結果を踏まえて行うべであり、令和９、10 年度の入試結果を見た上で、複数年の数値から判断するべきではないか。（行政）
・一関第一高校の学級減について、内進生がいる中での入試への影響を保護者としては懸念している。（PTA）
・金ケ崎高校の募集停止については、他の同様の条件の高校との整合性に疑問があり、状況を見守る期間を設けてもよいのではないか。（教育）
・金ケ崎高校の水沢高校への統合について、地域として非常に残念であるが、在校生や来年、再来年に入学する生徒は、金ケ崎高校の校舎で卒業できるとの説明を受け、一定の安心感を得たところである。（教育）
・金ケ崎高校の在校生の中には統合に不安を抱いている生徒もおり、心情面が懸念されることから、今後、金ケ崎高校を希望する生徒が不利益を受けることのないよう、従来と同じ条件で安心して入学できる体制を整えていただきたい。（教育）
・杜陵高校奥州校の移転に関して、各校で登校時間や、制服や私服といった様々な違いが存在する。そのため、両校の生徒が安心して学校生活を送れるよう、学校側に十分な配慮を望む。（教育）
・産業に必要な人材を育成することは地域の発展に不可欠であり、新たに設置される県南工業高校については、単なる統合ではなく、企業が求める人材を輩出する前向きな新しい学校として設計してほしい。（教育）
・一関第一高校の学科改編については、教科横断的な学びや県政課題に対応した人材育成につながると期待しているが、普通科と探究科の違いが不明確であり、志願を検討する中学生や保護者にとって分かりにくいことから、再編計画の中で、どのような人材育成が行われるのかを明記して示す必要があるのではないか。（教育）
・大東高校の情報ビジネス科について、生徒数減少に伴う募集停止の基準を設けることは理解できるが、基準を今年度から適用するのは受け入れがたい。（教育）

(4) 沿岸南部地区

・沿岸部の人口減少や少子化の背景には東日本大震災の影響がある中、当初案に東日本大震災の影響を考慮する文言がない。ぜひ、沿岸部の状況を考慮して検討していただきたい。（行政）
・水産の学科や調理師の学科は復興に必要であり、現在の状況だけで判断するのではなく、復興を見据えた検討を行っていただきたい。（行政）
・医系コースの設置等、魅力的な取組は内陸部の高校のみである。高田高校では、震災以降、国際交流や大学交流等で魅力化を図りたいと考えているので今後検討していただきたい。（行政）
・大船渡東高校の食物文化科の募集停止については承服いたしかねる。事業者と生徒が共同した取組ができるというのは大きな強みであり、食物文化科が募集停止となるのは理解できない。（行政）
・釜石商工高校は地域の企業からは即戦力となる人材の育成を求められており、学級減に際しては地域に求められる学科をバランスよく設置していただきたい。（行政）
・地域や地域産業を担う人材の育成という観点から、高田高校の海洋システム科の募集停止については強く反対する。（産業）
・大船渡東高校の厨房設備はすごく立派であり、有名な調理専門学校の設備にも匹敵するとの評価をいただいている中、集約は非常に残念であると感じており、食物文化科を存続させていただきたい。（産業）
・集約先となる宮古水産高校への通学のハードルが高いことから、結果的に集約先の学校の生徒確保も厳しくなるのではないか。（産業）
・気仙地区では今年度入試で４学級分の欠員があったことから学級減の必要性は理解するが、学級数を減らしても専門学科の学びを確保するため、例えば総合学科のコースとして学びを維持できないか検討していただきたい。（教育）
・釜石高校が仮に学級減となった場合こそ手厚い配慮が必要であり、学級減になったことにより生徒が不利を受けないような教員配置等を検討していただきたい。（教育）
・釜石商工高校についても、仮に、新しい学科となる場合には、地域の意向を踏まえた教育内容としていただきたい。（教育）
・当初案については、沿岸南部地区の重要な産業である水産や調理師の将来が切り捨てられるという印象を感じた。（教育）

(5) 宮古地区

・水産、調理師養成施設の拠点として位置付けされ、大いに評価をしている。（行政）
・宮古商工高校と宮古水産高校の校舎の集約は、工期を守っていただいた上で充実した学びの環境を作っていただきたい。（行政）
・推計では、宮古北高校が令和 12 年度に募集停止の見込みになっているが、募集停止をする際には、宮古北高校を志願する子どもたちの受け皿について配慮いただきたい。（行政）
・宮古水産高校に、水産と調理師養成施設の学びを集約することについては理にかなっている。生徒数の減少の中においては、教育や設備を集中し、宿泊施設を整備することにより、子どもたちの教育の質の向上や、水産関係の後継者育成に繋がるものと評価している。（行政）
・宮古地区内の各校の募集定員数について、早急に見直しの検討をお願いしたい（行政）
・これからの水産業は、養殖がかなり重要となることから、養殖科の創設をお願いしたい。（産業）
・岩泉高校は、地域との連携、給食の提供、郷土芸能同好会等の特色があり、交通事情も踏まえ地域に必要な高校であるため、存続を望む。（産業）
・岩泉高校への林業科の設置を検討し、全国から林業を学びたい生徒を集めてもよいのではないか。（産業）
・水産の学びなどの集約は賛成である。南北が長い本県にとって、集約して教育の質を上げるということは非常によいと思う。（PTA）
・宮古高校の学級数を減らすことで、山田高校の入学志願者が 20 人を超える可能性もあることから、検討していただきたい。（PTA）

(6) 県北地区

・久慈翔北高校は本年４月に統合されたばかりであり、水産系列および調理師養成施設の廃止は、生徒の選択肢を狭めることにつながると懸念されている。（行政）

・久慈地域では水産業が基幹産業であり、経済・文化・コミュニティの面でも不可欠な存在である。地元での人材育成が重要であり、水産系列の停止は容認できない。（行政）
・久慈翔北高校は多様な学びの選択が可能な学校であり、地元就職率にも好影響を与えている。総合学科の系列廃止は地元定着率の低下にもつながる懸念がある。（行政）
・町ではこれまで高校・中学校・地域と連携し、大野高校の入学者確保に取り組んできたが、今後も地域みらい留学の受け入れを継続予定であり、１学級校の募集停止基準の適用について柔軟な検討を求める。（行政）
・種市高校の海洋開発科については、潜水技術の学びの拠点としての機能維持が示されており、今後も教育環境の整備と支援を継続していただきたい。（行政）
・久慈翔北高校の水産系列の選択停止については、地域ごとの漁業の特性を踏まえ、地元での教育が不可欠と考える。（行政）
・宮古への集約が進められた場合、通学距離の問題などから地域で水産を希望する生徒が減少することが懸念される。（行政）
・調理師資格を取得し地元企業に就職する生徒もおり、こうした進路希望にどう応えていくかが課題となっている。（教育）
・大野高校から種市高校への通学は困難であり、地域性を踏まえると大野高校の存続は必要と考える。（教育）
・久慈市内の高校に加え、通学可能な葛巻高校も進路の選択肢となっているが、宮古の高校は通学が困難で希望する生徒はほぼいない。（教育）
・福岡高校の１学級減について、大変残念であるが、少子化が進む中、高校再編の必要性については、概ね理解するところ。（行政）
・軽米高校の学級減について、大変厳しく受けとめている。学級減となっても、教員が大幅に減らされることがないようにお願いしたい。（行政）
・伊保内高校は、学力や経済的な理由により進学先を選択する生徒にとっては、最終的なセーフティネットとしての役割が大きい。（産業）
・学級減については仕方がないことと理解しているが、ハード面の整備等により魅力アップしていかなければ、さらに福岡高校を希望する中学生が減るのではないか。（PTA）
・福岡高校を進学だけの学校ではなく、１クラスを就職コースとすることで、学級減をしないという手もあるのではないか。（教育）
・今後も、県北地域のセンター・スクールとして、各自の希望に応じた進学に対応していくためにも、福岡高校には幅広い科目の開設が必要不可欠であり、そのためには進学型単位制の導入が必要ではないか。（教育）
・今回の再編計画に示された軽米高校の学級減について、本日の説明では賛成できかねる。（教育）
・軽米高校が１学級になった場合について、激変緩和ということで何かしらの支援をお願いしたい。（教育）

Ⅴ　その他

１　第３期県立高等学校再編計画全般

・本計画に賛同しており、県内の子どもたちに多様な学びの場を提供することは時代に即した良い取組であると評価する。（産業）
・今回の再編計画については、地域の教育の在り方を踏まえた納得解として進めていただきたいと考えている。多くの人が不安を感じる中でも、改善を重ねながら合意形成を図ることが重要である。（教育）
・大枠としては県教委の計画案に賛成である。年度ごとの志願状況に合わせて様々な見直しが求められるこの過渡期に、住民心情に寄り添って当初案を提示したことに敬意を表する。（教育）
・少子化や多様性への対応を考えると、県立高校の学科再編や統廃合、定員見直しは避けて通れない課題であると認識している。（教育）
・今のタイミングが県立高校の在り方を考える最後のチャンスであり、再編計画については中高生にも意見を聞き、子ども中心の教育の在り方を議論する必要がある。（PTA）
・児童、生徒や地域の意見を聞いて反映していくということについて評価しており、小規模校をどのように維持するのかという視点で進めてほしい。（行政）

・今回示された案については、概ね理解した。特に、小規模校については、丁寧に扱っていただき、今後も各市町村の意見や要望に耳を傾けていただきたい。（教育）
・現状と課題を踏まえて、よくまとめられた計画だと感じている。（教育）
・地区の中学校長からは、出生数や児童生徒数の減少を踏まえた県の高校再編計画は丁寧でよく考えられているとの評価が多く寄せられた。（教育）
・再編計画について、岩手の復興教育の理念が反映されており評価する。（教育）

２　私立高校との調整

・少子化、人口減少が進む中、盛岡市内の高校への入学者の集中を緩和する取組を進めていただきたい。特に、私立高校との募集定員の調整については、県として取組を行う必要があるのではないか。（行政）
・近年は私立高校への専願受験が増加傾向にあり、かつての滑り止め的な受験は減っていることから、今後も私立への流れは続くと考える。（教育）
・私立高校は魅力があり、授業料の無償化によりますます私立高校に生徒が流れる状況になるのではないか。（産業）

３　策定手続き

・保護者も不安に感じる部分もあることから、パブリック・コメント等、様々な意見に丁寧に対応していただけるとありがたい。（PTA）

４　その他

・教員の担い手が不足していることを危惧しており、教員の仕事は大変であるというイメージを払拭するために、教員のやりがいや魅力についてＰＲを行い、人材を確保することが必要ではないか。（行政）
・教職員の志望者減少が懸念される中、小中高を通じた教員確保に継続的な取組を求める。（行政）
・募集停止や学級減を括弧書きで明記すると、生徒数減少を誘導する結果になりかねないため、記載には十分な配慮が必要である。（教育）
・今回の当初案に係る資料の中で、推測とはなっているが募集停止となるような記載があり、一般の方に誤解を与える可能性がある。資料については慎重に公表していただきたい。（教育）
・宮古高校校舎が、今年度 50 年を経過し、古くなっている。体育館の改修計画も出ているようだが、校舎、設備の老朽化について、配慮いただきたい。（行政）
・当初案において大野高校の募集停止が括弧書きで記載され、報道でも大きく取り上げられた。在校生や家族、進学希望者への影響を考慮し、可能であれば記載を控えてほしい。（行政）
・福岡高校校舎の全面改築をお願いしたい。築 58 年が経過し、校舎全体の老朽化、設備面での不自由さが顕著になってきており、志願者減少の１つの要因とも考えている。（行政）
・子どもの数が絶対的に減っていく中で、先を見据えた校舎改修や、建て替え等を検討してもらいたい。（産業）

２ 意見交換会（第１回）発言内容（要旨）

Ⅰ　第３期県立高等学校再編計画の策定について

１　策定の趣旨

－

２　計画の性格

－

３　計画の期間

－

Ⅱ　現状と課題

１　岩手の未来を担う人材の育成

－

２　高等学校の多様化への対応（「共通性の確保」と「多様性への対応」）

－

３　少子化による生徒数減少への対応

－

４　地域や地域産業と高等学校教育との関わり

－

５　専門的な知識を持つ人材の育成

－

Ⅲ　第３期県立高等学校再編計画の方針

１　基本的な考え方

(1) 全体方針

・人材育成のために予算をしっかりと確保するべきであり、現在の教育委員会の予算は足りない。
・毎日の授業が充実し、生徒がやりがいをもって学校に来る環境を作ることも高校の魅力化であり、教員が授業に向き合う時間をしっかり確保することが、教育の質の保証に繋がるものと考える。
・再編の必要性は十分理解しているが、高校は単なる学習の場ではなく、地域の文化・産業・活性化に深く関わる重要な存在である。
・地域に高校がなくなると過疎化が一気に進んでしまうという現状が全国的にも起きている。
・岩手県でも、広い県土の中で、中学校卒業予定者数の推移をみれば、地域に学校を残すということが現実的ではない部分もあると思う。
・生徒数の減少を統合の理由としているが、県教委として高校を維持するために、これまでどのような努力を行ってきたのかが伝わってこない。
・地域に高校を残して学びの機会を保障するということは一つの考え方だが、学びの質を保証することはそれ以上に大切なことではないか。
・高校がなくなると地域が寂れると言われるが、地域の活性化は大人、行政の問題であり、大人の都合で、生徒の学ぶ機会が阻害されることがあってはならない。

(2) 学校・学級の規模

・１学級校の募集停止基準について、通学の負担が増加することを懸念している。学校の存続が厳しくなっているのは理解するが、果たしてこういう考え方でよいのか疑問がある。
・募集停止の判断については、原則の取扱いのみならず、地域事情を考慮した柔軟な対応を強く要望する。
・募集停止の基準については、数字で判断するのではなく、地元自治体と相談したうえで判断することも必要なのではないか。
・県内の中学校では１学級の定員を 35 人としていることから、高校においても１学級定員を 35 人、或いは 30 人としていくことも必要なのではな

いか。
・１学級の定員について、専門高校は普通高校とは違うので、40 人は多いのではないかと感じている。少人数であるからこそ、生徒に向き合って技術を教えることができる強みがあるのではないか。
・将来、伊保内高校への入学者が 20 人以下になり、募集停止になる恐れがあるが、高校は義務教育の延長であり、どの子どもも高校までは最低限学べる体制を保障することを希望する。

(3) 通学区域

－

(4) 通学等の支援

・地域から学校がなくなれば、遠くの学校に通わざるを得ないこととなり、保護者の負担も増すこととなる。その点に関して、保障や補助といったことが必要ではないか。
・寮の整備は財政が厳しい状況の中で実現が難しいのではないか。また、寮の運営に係る負担についても懸念がある。
・保護者の立場で考えた場合、通学支援や住環境の整備は非常に重要な要素である。寮であれば一定の安心感があるものの、下宿は保護者の不安が大きい。
・少子化や地域格差が進む中で、教育の質と機会均等を確保するためには、保護者負担の軽減策も併せて検討する必要があると思われ、下宿費への支援も含めた制度設計が求められる。
・水産の学びが集約されても教育の質が維持され、久慈翔北高校や高田高校の生徒も学べる環境を整備していく考えは評価できるが、通学困難な地域の生徒にとっては、下宿代や交通費などの負担が大きく、保護者にとって不安要素となる。
・統廃合や集約は避けられない流れであることは理解しているが、寮や下宿費の補助などの経済的支援策が必要であり、生徒・保護者が安心して進路選択できる環境づくりが求められる。

２　高等学校教育の充実に向けた方策

(1) 高校の特色化・魅力化

・各市町村にコーディネーターの配置を要請するとのことだが、高校のコーディネーターは教員やカリキュラム等の理解が必要であると考える。
・私立高校が特色をアピールしている中、県立高校の魅力化、特色化の取組については小規模校に対して重点的に取り組んだ方がよいのではないか。

(2) いわて留学（県外募集）

・いわて留学については、取り組んで初めて課題や効果が見えてくる面もあるため、先生方の意識改革や研修などの支援も必要ではないか。
・いわて留学では、普通科は定員の 10%しか受け入れらないので、県北沿岸の振興を謳っているのであれば、いわて留学の枠を県北沿岸地区は拡大できないか。

３　学校・学科の配置

(1) 普通高校

・進学校は別として、専門学校等への進学となるレベルの高校については必要と言えるのか疑問である。

(2) 専門高校

・工業科の生徒については、そこまで専門化しなくとも、地元に入ってくれれば、地元企業としては立派な社会人に育て上げることができる。
・自動車とか半導体とか一部の産業に偏るのも問題があるのではないか。

(3) 総合学科高校

－

(4) 定時制・通信制高校

・単位制の導入を検討するとのことだが、ロードマップ等を作成し、スピード感を持って取り組んでいただきたい。
・後期計画期間中の方向性として示されている定時制課程と通信制課程の連携については、沿岸地域にも単位制で柔軟に授業が履修できる高校の設置が必要と考える。

(5) 中高一貫教育校

－

Ⅳ　再編プログラム

1　全体プログラム

・各市町村に最低でも１校は高校があるべきと考える。

2　地区別プログラム

(1) 盛岡地区

・平舘高校では家庭クラブの活動に力を入れて取り組んでおり、入学者数だけでなく、生徒の頑張りについても把握したうえで検討する必要があるのではないか。
・平舘高校の家政科学科の募集停止については、入学者を増やすための取組を実施した上で、募集停止を検討する期間を設けた方がよいのではないか。
・平舘高校は地域からの評価がかなり高く、生徒の雰囲気も大変良い。入学者数を増やす取組の成果が出るまで、募集停止については猶予をいただきたい。
・平舘高校の家政科学科の学びは、地元の人に支えられ、地域と連携した学びを行っていることから、平舘高校の普通科の中に、家庭科の学びをコースとして維持する考えがあってもよいのではないか。
・家政科学科を希望する生徒の学びを保障するためにも、令和９年度の募集停止と断言するのではなく、猶予を与えていただきたい。

(2) 中部地区

・花北青雲高校の再編により、生徒が黒沢尻工業高校に流れると、地元企業への就職者数が減少する可能性があり、地元企業の活性化のためにも再編の見直しを要望する。
・生徒の進路選択は中学生時点で決まるため、判断できない生徒が地元の花北青雲高校に進む例が多いようであり、そうした生徒が、地元企業を就職先として選んでいる。
・バスで通う生徒にとって、遠野高校と遠野緑峰高校にそれぞれ通うこととなった場合に、定期券を購入する際の保護者の負担は増えてくるのではないか。
・実習移動型ということで、農業の実習する際に、遠野緑峰高校に行くというのであれば、バスを購入した上で運転士を雇ってという形の方が、スムーズなのではないか。

(3) 県南地区

・杜陵高校奥州校の集約により、定時制高校の拠点を整備するという方針には賛成であるが、定時制の夜間部は、21 時頃に終了することから、歩道の拡充等、通学路の安全対策を講じる必要がある。また、最寄り駅が無人駅であることから、防犯上の対策も必要であると考える。
・生徒数が減少しているということであれば、黒沢尻北高校や水沢高校の募集定員を減らす等、地域全体の募集定員を調整することも必要なのではないか。
・金ケ崎高校へは、小規模校を理由に進学している生徒もいることから、統合により生徒の選択肢が無くなることを危惧しており、金ケ崎高校の存続を要望する。

・金ケ崎高校は水沢高校とではなく、杜陵高校奥州校と統合してはどうか。空き校舎の有効活用にもなり、様々な活動も充実するのではないか。
・岩谷堂高校の農業及び工業系列の選択の募集停止について、総合学科は多様な学びを選択できるようにするということが設置当初の目的だったと思うが、系列を減らし、生徒の選択肢を減らすということであれば、総合学科の意義がなくなるのではないか。
・大東高校について、地元からの入学者を増やす取組を進めたいと考えていることから、商業科の募集停止について猶予をいただきたい。
・岩谷堂高校の総合学科の系列を減らすことで、総合学科の意義が薄れるのではないか。現在も、それぞれの系列を選択する生徒がいることから、現状の系列を維持していただきたい。

(4) 沿岸南部地区

・食物文化科の生徒は非常に優秀である。入試で普通高校に問題なく入学できる生徒もたくさんおり、生徒会執行部として活動する生徒や、模擬試験の上位にいる生徒もいる。食物文化科の廃止で、そうした生徒がいなかったらと仮定した場合、学校が無くなることに繋がるのではと危惧している。
・当初案の全体方針の説明があったが、はっきり言って大船渡東高校はすべてこの方針に則っている学校である。地域や地域産業を担う人材の育成、専門的知識を持つ人材の育成は大船渡東高校そのものである。
・大船渡東高校は食物文化科なしでは存在し得ない。当初案が出た際には非常に驚いた。正直なところ、近くに釜石商工高校があるので、話があるならば商業学科ではないかと予想していた。本校の看板を奪うという行為は残念でたまらない。
・大船渡東高校は新築してから 18 年しか経過しておらず、一般的な耐用年数を考えるとあと 50 年は使用可能である。また、高田高校は津波の被災により建て替えられたことから 10 年しか経過していない。新しく宮古に建てるよりは、今の校舎を活用するべきではないか。
・進学する道を狭めることは、希望する進路の実現とは逆行していると感じる。気仙地区の４校すべてが定員割れしている状況であり、少子化に伴う削減ということであれば、普通高校の募集定員を減らし入試の競争力を上げることが必要ではないか。
・学びの集約により、金額面での負担が増える。保護者の中には、同じ経費をかけるなら宮古を選ばず、内陸部の学校若しくは宮城県内の学校を選ぶのではないかという意見もある。現在、食物文化科へは毎年 20 数名入学しているが、地元にあってこその前向きな進路選択であり、宮古へ入学する生徒はいないのではないか。
・大船渡市にはアマタケやさいとう製菓という企業もあり、食物文化科の食に対する部分では強みの部分である。大船渡市にとって大切な学科であることから再考をお願いしたい。
・高田高校の海洋システム科も地域にとって大切な学科である。海洋システム科が無くなった際の、ワカメの養殖等の産業の将来を危惧している。
・水産の学びを宮古に集約しても、生徒や保護者の負担が増え、実際に通う生徒は少ないと思うので、現在の立派な校舎を活用するという意味でも海洋システム科の存続を希望する。
・大船渡高校の募集定員を減らし、専門高校の学びをしっかりと残して地元に根ざした人材の育成を行っていただきたい。
・部活動の交流等で様々な先生方と話をしていると、普通高校の先生方は、生徒の質の低下をすごく嘆いており、普通高校の学級減を優先していただきたいと考える。
・現在は家庭と農業が棲み分けしながらお互いを高め合っており、家庭と農業が一緒になることで、現在の取組の質を維持できるか疑問がある。

(5) 宮古地区

・宮古北高校では、教育上特別な支援を必要とする多くの生徒に対し進路指導を含めて、丁寧に指導していただいており、募集停止となった場合、中学校現場としては、大変不安がある。
・集約により、生徒が専門的な水産教育を受けられる環境が整うことは必要だが、一方で、久慈翔北高校、高田高校の水産の専門教職員が、教員定数の関係で、宮古で引き続き教育活動を継続できるのか懸念している。
・水産分野の学びの集約について、必要性を感じている。

・水産の学びの集約については、教育資源の集中という観点から一定の理解はできるものの、通学が困難である地域の生徒・保護者にとっては、経済的、時間的な負担が大きくなることが懸念される。
・厳しい状況があることは理解しているが、特色ある教育活動を継続するためにも、宮古北高校を残してほしい。
・宮古水産高校への集約にあたっては、将来の進路に応じた多様な学びが選択できる学校を目指してほしい。

(6) 県北地区

・久慈翔北高校の家庭系列は地域に根差した伝統ある系列であり、調理師免許取得者が地元で活躍している実態がある。検定と調理師免許は重みが異なるため、学びの集約の影響が懸念される。
・大野高校に通いたい生徒がいても、交通手段がなく進学を断念するケースがある。市町村の努力だけではバス路線の維持が困難であり、交通の課題が進学の障壁となっている。
・福祉系列の生徒は介護施設等での実習や地域連携活動を行っており、調理師免許を取得した生徒も地元の飲食店等で活躍している。こうした地域貢献の実態を踏まえた評価を求めたい。
・軽米高校の連携型中高一貫教育の継続を検討する必要があり、学級減はその結果を待つべきではないか。
・地域検討会議では軽米町の教育長が反対しており、自治体に理解を得られない中で計画を進めるのは、県と市町村の連携が崩れる恐れがある。
・福岡高校の学級減は仕方ないと思うが、教員数も減るのであれば、進学に影響があるのではないか。
・北桜高校の電気情報システム科は大きく定員を割っており、学科の教育内容に関連する企業への就職が少ないことから、地域産業を踏まえた教育内容の検討が必要である。
・二戸地区においては、普通高校１校、専門高校１校となるのは、もはや避けられなく、現在の高校が疲弊する前に、一刻も早く拠点校づくりを進めるべきではないか。
・福岡高校の１学級減の案は残念であるが、昨今の入試状況を見ればやむを得ない。しかし、配置教員数が減ることで、教育環境が整わないことが危惧されることから、拠点校については、県の予算で特別に教員を措置していただきたい。

Ⅴ　その他

１　第３期県立高等学校再編計画全般

―

２　私立高校との調整

・私立高校で特色ある取組を行っている中、無償化が始まることにより、私立高校を志望する生徒が増え、小規模校の入学者がさらに減ることを危惧している。
・これまで県立高校だけが定員を減らし、私立高校は定員がほぼ変わっていないので、県立高校と私立高校が連携して募集定員を減らすことはできないのか。

３　策定手続き

―

４　その他

・募集停止要件に該当する可能性があることが示されたことで、学校選択への悪影響や地域への打撃が懸念される。生徒確保のための魅力発信を進めているが、募集停止への不安がイメージ悪化に影響することは事実である。
・「募集停止（括弧書き）」という表現では、今後の見通しが不透明であり、地域住民に不安を与えている。報道でも具体的な説明がなかったため、誤解や憶測が広がっている。
・進学に伴う制服代やパソコン購入費などの負担により、生活費が圧迫される家庭がある。県としての経済的支援を検討してほしい。

	・現場では部活動の規模が小さくなっており、地域移行で一体的に活動体制を整えてほしい。 ・市町村議会の議員がこの意見交換会に出ているが、事前に行われた検討会議でも議員から意見を聞く機会を設けるべきではないか。

３　その他（第３期県立高等学校再編計画に係る出前説明会発言内容（要旨））

実施団体	発言内容（要旨）
洋野町立大野中学校 PTA	・制服の魅力や国公立大学の推薦合格等の実績などからも大野高校は魅力があり、ぜひ存続してほしい。 ・大野高校を、専門学科に学科改編し、大野高校の特色化、魅力化に繋げてはどうか。 ・高校が地元からなくなると子どもたちが他地区へ進学し、地域衰退を招く。また、学校がないことで、他地区へ進学、就職した子どもたちは子育てが困難という理由で地元に戻ってこない。 ・部活動の活性化に向けた環境整備を希望する。スポーツで活躍する生徒が、県内でスポーツに取り組める高校の環境を整えてほしい。
軽米高校同窓会	・軽米高校には、他地域からは入学できないというイメージを与えるのではないか。 ・中高一貫教育の在り方を見直さない限り、再び２学級とすることは困難なのではないか。 ・学級減に伴う教員配置については、激変緩和をお願いしたい。 ・軽米高校の２学級を継続してほしい。軽米高校は八戸に近く、県外からの受け入れを増やしていく余地が十分ある。 ・地域校の考え方と募集停止、学級減の基準を設けることに矛盾があるのではないか。基準の運用にあたっては、地域との協議を十分に重ねた上で、柔軟な対応をお願いしたい。 ・高校においても、少人数学級の導入について検討してほしい。 ・私立高校の無償化によって、県立高校への進学者減が予想される。軽米からは、八戸の私立高校に流れることが危惧される。
広田湾漁業協同組合	・地域産業を担う人材育成という観点から、高田高校の海洋システム科の募集停止は、組合長として反対する。 ・県教委としては、生徒数の減少、教員不足を理由に水産系学科の募集を停止するということだが、水産業の担い手不足を解消するために、水産系学科を存続し、水産業を守るのが本来の姿ではないか。 ・陸前高田市の水産を学びたい生徒が、宮古水産高校に通学するのは困難ではないか。 ・水産の担い手確保のため、行政、高田高校、地元水産業が連携し、水産教室を年に数回開催しているが、それがなくなれば担い手不足が加速することが危惧される。 ・宮古水産高校に集約するのであれば、高校卒業後に大学進学させることを考えると、自宅から通学するのと変わらない費用で済むような支援をしてほしい。 ・市としても漁業の担い手育成に取り組んでいるとところで、今後も継続するつもりであり、市の産業の活性化、水産業の発展のためには、海洋システム科を存続させていただきたいというのが市長の考え方である。
大船渡東高校 PTA	・宮古に新校舎を建設するコストを考えると、大船渡東高校の校舎を引き続き使用した方がよいのではないか。 ・調理師養成施設が大船渡からなくなることはインパクトが大きい。内陸では、調理師養成施設や高校を卒業してからの専門学校も複数あり、沿岸地域の実情を考慮すれば、募集停止は早急ではないか。 ・大船渡東高校では、調理師養成施設に指導者として関わる地域の方がたくさんおり、環境は充実している。また、卒業生に教員を目指す者もおり、人材を輩出している学校である。 ・家庭科の学びと調理師養成施設の学びはレベルが違うという認識を持っていただきたい。 ・本校は地域の学びを支えていると感じており、学級減となることで、地元に就職する人材が少なるのではないかと懸念している。 ・当初案には地理的要因によって、教育の機会を損なわないとあるが、今回の集約はエリアがあまりにも広すぎており、この趣旨に反するのではないかと感じた。

金ケ崎町	・近年は、町と連携した魅力化の取組により、何とか減少を食い止めてきた中で統合案が示されたことは、非常に大きなダメージであり、もう少し生徒の様子を見てから判断しても良かったのではないか。 ・就職希望の生徒は黒沢尻北高校や水沢高校に進学する傾向が強まり、金ケ崎高校の生徒数減少につながっている。地域の産業構造を踏まえ、金ケ崎高校を就職対応可能な高校として残す方向で再考してはどうか。 ・少人数教育を特色とする金ケ崎高校は、通信制課程などを設けて残すべきではないか。 ・今後生徒数が 3,000 人、5,000 人と減少していくことが予測される中で、県立高校の在り方について、より長期的な視点で再編を進めるべきではないか。 ・「金ケ崎町に高校が残る」という方向性が示されたことは、非常に意義のあることだと受け止めており、もしそれが、全日制普通科に加えて定時制や通信制などの多部制を備えた形で残るのであれば、進路選択の幅が広がり、生徒にとっても魅力的な選択肢となるのではないか
平舘高校同窓会	・いわて留学については、地元自治体の財政負担が大きい。県として支援するべきではないか。 ・募集停止となれば、進路を変更せざるを得ないことから、小学校高学年くらいの子どもたちのうち、家政科学科への進学を希望している子どものことを考慮し、募集停止の時期を後ろにずらすことはできないのか。 ・居住地によっては、盛岡への通学が困難な子どももいることを考慮し、募集停止時期の見直しを検討してもらいたい。 ・廃止にするということは、子どもたちの夢をくじくことになることから、どうやったら平舘高校を存続させることができるのかを検討してほしい。 ・平舘高校の家政科学科でしかできない学びがあり、家政科学科を募集停止するということは、地域の文化を消失させることを意味し、文化の火を消していいのかと感じている。
花北青雲高校同窓会	・盛岡工業高校、黒沢尻工業高校という選択肢もあるが、距離的な面もあり、花北青雲の工業科だからこそ入学したいという生徒もいると思うので、再度検討してもらいたい。 ・花北青雲高校は、黒沢尻工業高校とはまた違った工業を学べる場としての意味があり、地域に必要とされる学校である。募集停止とするのではなく、学びを厚くする再編としていただきたい。 ・生徒を主語とした教育環境の構築を掲げているのであれば、工業科の募集停止については再考してもらいたい。 ・花北青雲から工業科がなくなることは、学校としての特色、魅力が失われることになるのではないか。 ・花北青雲の工業科は地域に求められて作られた学科であることを考えれば、やはり残すべきであると考える。
山田町	・今後、沿岸部では人口減少が進むことが予想されるが、２年連続で志願者が 20 人を下回った場合に募集停止とするという規則については、柔軟な対応をお願いしたい。 ・かつて田中角栄氏が提唱した「１都道府県に１医学部」という考え方に倣い、「１市町村に１高校」という配置を望む。特に沿岸部の教育環境の維持・充実を求めたい。 ・今後、人口減少に伴い生徒数も減っていく中で、特色ある学校づくり、魅力ある学校づくりに取り組むことが重要である。 ・１学級校における募集停止基準の撤廃が実現しなかったことは残念ではありますが、柔軟な対応をしていきたいとの発言があったことを信じ、今後の対応に期待する。

事務報告４

第３期県立高等学校再編計画（当初案）に係るパブリック・コメントの実施状況について

「第３期県立高等学校再編計画」策定の参考とするために実施した、パブリック・コメントの意見聴取結果について別紙のとおり報告いたします。

令和７年 10 月 20 日

第３期県立高等学校再編（当初案）に係るパブリック・コメントの実施状況について（報告）

１　期　　間

令和７年８月６日（水）～令和７年９月 12 日（金）

※地域検討会議　８月20日（水）～８月 29 日（金）６地区８会場
意 見 交 換 会　８月19日（火）～８月 28 日（木）６地区７会場
出 前 説 明 会　９月３日（水）～９月 12 日（金）８会場

２　意見件数

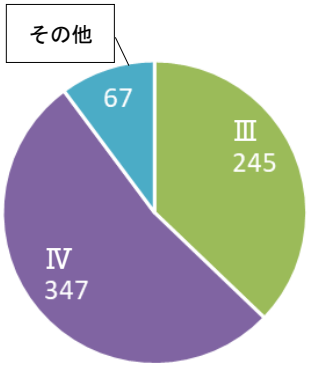
意見件数　659　（内訳：団体９、個人 650）

受付方法	意見提出人数（人）	意見件数（件）
郵送	1	3
ファックス	2	2
メール	84	109
地域検討会議	224	322
意見交換会	63	124
出前説明会	61	99
計	435	659

３　意見の取りまとめ

再編計画の章、章内の番号、章内のカッコ番号で 30 に分類した。

意見	意見数
Ⅰ　第３期県立高等学校再編計画の策定について	0
Ⅱ　現状と課題	0
Ⅲ　第３期県立高等学校再編計画の方針	245
Ⅳ　再編プログラム	347
その他	67
合計	659



※項目別の結果は【参考資料】参照

４　意見の状況について

（１）**意見が最も多かった項目：Ⅳ 再編プログラム（347 件）**
具体的な学校の再編案に対する地域別の反対意見が中心。
沿岸南部地区（85 件）
・大船渡東高校食物文化科（44 件）
内容　通学時間・交通費・設備の充実などから存続要望。
・高田高校海洋システム科（17 件）
内容　地理的距離・通学困難・地域産業との関係から存続要望。
県北地区（84 件）
・久慈翔北高校：水産系列・調理師養成施設（15 件）
内容　地域産業との連携や特色ある教育継続の視点から存続要望。
中部地区（52 件）
・花北青雲高校情報工学科（26 件）
内容　地元産業とのつながりや IT 人材育成の観点から存続要望。

（２）**意見が２番目に多かった項目：Ⅲ 第３期再編計画の方針（245 件）**
再編の基本方針に関する意見が多く、制度設計への要望が目立つ。
全体方針（89 件）
・経済的支援（寮・下宿費補助）や地域実情を踏まえた柔軟な運用を求める声。
学校・学級の規模（36 件）
・進路選択肢の減少への懸念。学級規模を縮小した少人数教育の提案。
通学支援（31 件）
・公共交通の課題から、寮・下宿の整備や交通費補助の必要性を指摘。

５　調査結果の取扱い

（１）**第３期県立高等学校再編計画への反映**
項目毎に意見内容を分類・整理し、策定案等への反映を検討する。
なお、速やかに取り組むべき意見は順次対応していく。

（２）**公表**
県ＨＰ（広聴広報課　パブリック・コメント）において結果を公表するとともに、その旨を周知する。

６　今後のスケジュール

・　成案の公表と同日に、結果について県ＨＰに公表する。

【参考資料】第３期県立高等学校再編計画（当初案）に対してパブリック・コメントにおける意見項目の分類と分類ごとの意見数

	意見の内容【ローマ数字】	意見の内容【章内の数字】	意見の内容【カッコ番号】	意見数
1	Ⅰ　第３期県立高等学校再編計画の策定について	1　策定の趣旨		0
2		2　計画の性格		0
3		3　計画の期間		0
4	Ⅱ　現状と課題	1　岩手の未来を担う人材の育成		0
5		2　高等学校の多様化への対応		0
6		3　少子化による生徒数減少への対応		0
7		4　地域や地域産業と高等学校教育との関わり		0
8		5　専門的な知識を持つ人材の育成		0
9	Ⅲ　第３期県立高等学校再編計画の方針	1　基本的な考え方	（１）全体方針	89
10			（２）学校・学級の規模	36
11			（３）通学区域	5
12			（４）通学等の支援	31
13		2　高等学校教育の充実に向けた方策	（１）高校の特色化・魅力化	28
14			（２）いわて留学（県外募集）	19
15		3　学校・学科の配置	（１）普通高校	5
16			（２）専門高校	19
17			（３）総合学科高校	0
18			（４）定時制・通信制高校	5
19			（５）中高一貫教育校	8
20	Ⅳ　再編プログラム	1　全体プログラム		5
21		2　地区別プログラム（前期プログラム）	（１）盛岡地区	40
22			（２）中部地区	52
23			（３）県南地区	48
24			（４）沿岸南部地区	85
25			（５）宮古地区	33
26			（６）県北地区	84
27	その他	1　再編計画全般		28
28		2　再編計画策定手続きについて		3
29		3　広報（周知）について		4
30		4　その他		32

○項目別結果と主な意見
※原文のまま掲載。ただし、一部抜粋、誤字等の修正をして掲載

Ⅰ　第３期県立高等学校再編計画の策定について
　１　策定の趣旨　（意見数０）
　２　計画の性格　（意見数０）
　３　計画の期間　（意見数０）

Ⅱ　現状と課題
　１　岩手の未来を担う人材の育成　（意見数０）
　２　高等学校の多様化への対応（「共通性の確保」と「多様性への対応」）（意見数０）
　３　少子化による生徒数減少への対応　（意見数０）
　４　地域や地域産業と高等学校教育との関わり　（意見数０）
　５　専門的な知識を持つ人材の育成　（意見数０）

Ⅲ　第３期県立高等学校再編計画の方針
１　基本的な考え方
（１）全体方針（意見数 89）
・　中学校での進路指導がますます大事になると感じており、高校の選択を含め、将来何をしたいか明確な目的意識を持つ必要がある。ただし、目的があっても家から通える範囲に学びの選択肢が無いと、生徒は地元に残らないことから、個人的には、家から通える範囲に生徒の学びを確保する必要があると考える。
・　中学校で不登校の生徒の進路として通信制高校を選択する生徒が増えてきているが、人との関わりを大切にし、個別支援の充実を掲げている県立高校や私立高校の取組が、今後ますます重要になると思われることから、不登校を経験した生徒の受け皿としての役割についても検討していただきたい。
・　多様性への対応という部分を学校の魅力の一つとして位置付けていただきたい。中学校では配慮の必要な生徒が増えており、そうした生徒の、進学して頑張りたいという気持ちに応えられる県立高校であることを期待する。
・　地域に人材を残すためには、子ども達が地域と繋がる経験が必要である。地域の産業と繋がり、地域を理解することが大切であり、そのためには高校のカリキュラムを工夫する必要があるのではないか。
・　今後ますます地域経済を支えるための人材確保が重要であり、特に、農業等の地域産業の担い手確保が喫緊の課題である。また、県内就職者だけでなく、県外から岩手県に戻ってくる人材を増やす必要があり、高校教育でも産業界と連携した取組を進める必要がある。
・　医師確保については再編計画に具体的な記載はできかねると思うが、気仙地区からも医師を目指す生徒が入学できる高校を設置していただきたい。
・　統廃合や集約は避けられない流れであることは理解しているが、それに伴うソフト面、特に寮や下宿費の補助などの経済的支援策が必要であり、生徒・保護者が安心して進路選択できる環境づくりが求められる。
・　小規模校にはそれぞれの特色があり、１学級校の募集停止基準を柔軟に運用すべき。市町村からも数字に縛られるべきではないとの声があり、高校再編にあたっては、地域の実情や教育的価値を十分に加味していただきたい。
・　基本的な考え方の教育の質の保証において、広い県土と多くの中山間地を抱える本県の地理的状況を踏まえ、生徒の教育の機会と保障に向けた学校の配置に取り組むとあるが、この基本を守っていただきたい。
・　盛岡地区においては、職業教育のセンター・スクールや私立高校との関わりも考慮し、再編計画の検討に当たっては、全県的な議論を行う必要があるのではないか。
・　中卒者数の減少を踏まえ、５つの基本方針を策定しており、その方向性は妥当であると評価している。一方で、各論では、人材育成、通学費や通学距離、地域社会や産業界との関係等、様々な具体的な課題が浮上している。
・　長期ビジョンに向けた子どもからの意見聴取において、農業、工業、商業が選べる高校に進学したいといった意見があった。今回の計画は、子どもからの意見を反映されていないと感じる。

（２） 学校・学級の規模（意見数 36）

・　少子化に伴い、統合や学級数の減、募集の停止は仕方がないと思う。しかし、高校進学時に進路の選択肢が減ってしまうのではないかと心配になる。学級数・募集停止に関する規則については要検討と思います。併せて、高校入試の在り方や中学での基礎学力向上も一つの課題ではないかと思います。

・　小規模校について、各市町村の方々の思いはよくわかる。残して欲しいが、これからもっと生徒数が減り、20 人のクラスになると、部活、勉強も含めて、いろいろなハンデが出てくる。

・　中学校卒業予定者数が減少している中、１学級定員を 40 人で維持していく必要があるのか、疑問に感じる。

・　１学級の定員について、これから生徒数が減っていく中で、本当に１学級 40 人が適正なのか。定員は国が示しているものだと思うが、岩手県独自に１学級 35 人や 30 人にすることによって、一人一人の生徒に対して手厚い授業ができるのではないか。

・　小規模校のメリットは、生徒一人一人に目を向けることができ、生徒の希望する進路に対し、時間をかけた手厚いサポートが受けられることである。また、人数が少ないので、学年を超えての交流があり、コミュニケーション能力も身につきやすい。

（３）通学区域（意見数５）

・　県立高校のメリットは、自宅から通学ができ、経済的負担が比較的少ない点にあると考える。一方で、私立高校や都市部の高校に進学するには、寮や下宿を伴うケースが多く、経済的に余裕のある家庭でなければ選択が難しいのが現状である。

・　当初案においては生徒の通学負担の増加が懸念されるという印象を持った。公共交通機関の維持についての働きかけや、通学の安全の確保のための取組が必要ではないか。

（４）通学等の支援（意見数 31）

・　保護者の立場で考えた場合、通学支援や住環境の整備は非常に重要な要素である。寮であれば一定の安心感があるものの、下宿は保護者の不安が大きい。

・　義務教育ではないため、進学に伴う費用は家庭の責任とされがちだが、少子化や地域格差が進む中で、教育の質と機会均等を確保するためには、保護者負担の軽減策も併せて検討する必要があると思われる。市町村によっては交通費補助を行っている例もあり、下宿費への支援も含めた制度設計が求められる。

・　寮の整備を検討するとのことであるが、財政が厳しい状況の中で実現が難しいのではないか。また、寮の運営に係る負担についても懸念がある。

・　学びを集約することにより、公共共通機関で通学できない生徒が増えることが予想されることから、寮や下宿の整備を検討する必要があるのではないか。

２　高等学校教育の充実に向けた方策

（１）高校の特色化・魅力化（意見数 28）

・　高校の集約が進む中で、それぞれの学校が持つ特色や魅力を早い段階で示すことで、中学生が進路をより深く理解し、納得のいく選択ができるようになると考える。

・　私立高校が特色をアピールしている中、県立高校の魅力化、特色化の取組については小規模校に対して重点的に取り組んだ方がよいのではないか。

・　各学校の特色化、魅力化を進めるということであるが、今後、中学校卒業予定者数が大きく減少する中で、全ての高校で入学者が増えることは無いのではないか。一方で、特色化、魅力化に係る教員の負担増が危惧され、授業準備等、生徒の教育に係る時間が削られることを懸念している。

（２）いわて留学（県外募集）（意見数 19）

・　いわて留学は評価されており、さらに地域と学校が一緒になって魅力化について積極的に取り組み、お互いに強化すべきだと考えている。

・　いわて留学は、地域にとって大きい拠り所としており引き続き多

角的な支援をいただきたい。

- いわて留学の制度を活用し、留学生による学校紹介など、魅力発信の工夫を検討してほしい。
- いわて留学の制度は、少子化が進む中、重要な取組であると感じており、県の支援もいただきながら、今後も維持するための取組を進めていきたいと考えている。

３　学校・学科の配置

（１）普通高校（意見数５）

- 地元の子ども達が、他の地域の学校に行かなくても自分の夢が実現できると感じられるような魅力を、各県立学校が出していく必要があるのではないか。特に、普通科についてはどの学校も一律な印象を受ける。また、体験入学の実施方法の工夫等により、もっと地元の小中学生に高校の魅力を発信できる工夫が必要なのではないか。

（３） 専門高校（意見数 19）

- 少子高齢化や教員不足が進む中、ある程度の高校再編はやむを得ないと考える。特に専門高校については、センター・スクールの設置が必要という考えに賛同する。
- １学級校を地域校として位置付け、地域の学びを保障するとあるが、この考え方を専門学科にも適用できないのか。普通高校だけが地域の学びではなく、専門学科の学びを保障することも大切なのではないか。
- 水産分野の学びの集約について、必要性を感じている。
- 専門学科については、物づくりという観点で、県として専門高校への魅力を高めるためのキャリア教育をさらに先導する必要があるのではないか。
- 教育の質を高めるためにも、専門分野ごとの特色ある学科編制と施設整備を進めてほしい。

（３）総合学科高校（意見数０）

（４）定時制・通信制高校（意見数５）

- 「多様な学び方」の保障のため、公立校でも通信制課程の新設について積極的に検討してほしいです。
- 定時制課程と通信制課程の連携については、沿岸地域にも単位制で柔軟に授業が履修できる高校の設置が必要と考える。
- 「定時制・通信制高校」について、単位制の導入を検討するとのことだが、ロードマップ等を作成し、スピード感を持って取り組んでいただきたい。

（５）中高一貫教育校（意見数８）

- 意欲ある子どもたちが、地元の高校に通いながら、安定した家庭環境の中で安心して難関大学や医学部を目指し、勉学に取り組める状況を創出することが求められている。また、一関第一高校に県立中学校を併設している併設型の中高一貫教育は探究的な学びの実施や大学進学等において一定の実績を上げているとされているところである。そのことから、本県の公共交通の要衝であり特に岩手県中部を中心とする生徒が通学する上での利便性が高く、花巻市外からも多くの入学者がいる花巻北高校に、一関第一高校に続く併設型中高一貫教育校を早期に設置すべきである
- 軽米町では、中高連携となっているが、中学校から高校への接続にあっては、町立と県立という関係もあって、つながりが薄いと感じている。

Ⅳ　再編プログラム

１　全体プログラム（意見数５）

- 学級数の削減や学科改編等を行なった学校に対しては、生徒の学びの質を確保するため、教職員の加配措置及び必要な予算措置を講じてほしい。
- 県内の高校の選択肢が少なくなることで、私立高校や他県の高校への進学者が増えることを懸念している。

２　地区別プログラム（前期プログラム）

（１）盛岡地区（意見数 40）

盛岡地区全体に関する意見

・　盛岡一極集中についてだが、現在でも、盛岡地区にはたくさんの高校がある。盛岡以外の地域にも高校を残すために、盛岡に集中している高校の定員を少なくして、学級減にして、あるいは統合して、そして、岩手県のどこに住んでいてもお金の心配なく高等教育が受けられる環境にしてほしい。そのために、地方の高校にしわ寄せになっている再編計画を改めて、盛岡一極集中をやめ、盛岡の子どもたちにも通ってもらうこともあってよいと考える。

盛岡第二高校に関連する意見

・　現時点において、盛岡ブロックのうちの盛岡中心校であっても、盛岡二高校の入試志願倍率がここ数年ほぼ１倍と、ほぼ全入であり、基準には該当しないものの、盛岡一極集中させないためにも、学級減してもよいのではないか。男子生徒が入試を受けられる学校、入学できる学校であることを大きくアピールしていく必要があると考える。同様に盛岡農業高校・盛岡工業高校においても、大きく定員割れしている学科もあることから、盛岡一極集中させないためにも、其々１学級減と学科の改編が必要ではないか。

盛岡農業高校に関連する意見

・　盛岡農業高校の存在により地域は恩恵を受けているが、専門高校から国公立大学への進学者は少ない。過去には帯広畜産大学などへの入学の実績もあり、専門性のある人材の育成が重要である。

盛岡工業高校に関連する意見

・　盛岡工業高校は現在地のままでよい（移転先で実習施設等を整備できるのか。）

・　盛岡工業高校の校舎移転については、１カ所で学びが完結するような配慮をお願いしたい。

・　盛岡工業高校の学科改編にあたっては、地域の産業実情に合わせた学科編成を望む。盛岡地区では建設業が多いため、盛岡工業高校には建築・土木・電気設備など建設関連の特色を持たせてほしい。センター・スクールとしての役割を果たすため、盛岡工業高校と黒沢尻工業高校でそれぞれ特色ある学科を設け、県内全体をカバーできる体制を整えてほしい。

沼宮内高校に関連する意見

・　学校が置かれている実態をしっかり把握してほしい。地元が本当に存続を望んでいるのか、本音を聞いてほしい（存続を願う会的な意見ではなく。）沼宮内高校は金ケ崎高校のように、近隣の学校に通いやすい場所にあるので存続の意味がないのではないか。

葛巻高校に関連する意見

・　葛巻高校で山村留学制度を導入し、今年で 11 年目になるが、この間、寄宿舎等の整備も行い、充実した体制づくりに努めてきた。その成果も出ており、町や県内での就職や関係人口の増加に繋がっている。

平舘高校に関連する意見

・　平舘高校の家政科学科と盛岡農業高校の人間科学科の内容はほぼ同じということであるが、平舘高校では家庭クラブの活動に力を入れて取り組んでいる。入学者が少ないのはその通りであるが、数字だけでなく、生徒の頑張りについても把握したうえで検討する必要があるのではないか。

・　平舘高校の家政科学科の募集停止については、いきなり令和９年度の募集停止ということで驚いた。保護者の中にも、この案が生徒のためになっていないという話もある中、入学者を増やすための取組を実施した上で、募集停止を検討する期間を設けた方がよいのではないか。

・　地域の中に学びを残すことが、地域産業を守ることにも繋がることから、家政科学科をいきなり募集停止にするのではなく、普通科に家政科学科の学びを取り入れる等の学科改編を進める必要があるのではないか。

・　家政科学科の学びは盛岡農業高校で学べるということであるが、似て非なるものであると考える。家政科学科を募集停止するということは、地域の文化消失させることを意味する。家政科学科の募集停止については、猶予を与えてもらいたい。

紫波総合高校に関連する意見

・　紫波総合高校については、今後の方向性を見据えた検証が必要であり、魅力発信や系列構成の見直しなど、次の展開を意識した取組を進めてほしい。

（２）中部地区（意見数 52）

中部地区全体に関する意見

・　中部地区や釜石市の高校の学科改編や学級減は、遠野市の中学生の進路決定に大きく関わるので、様々な状況によって突然学級減となる場合は、生徒の経済状況等を考慮して進めていただきたい。

花巻北高校に関する意見

・　娘は花巻北高校に入学できる学力があるが、あえて花北青雲高校に入学した。弟の方が学力は低いが、花巻北高校に入学している。花巻北高校は、かつてのような学校ではなく、入ろうと思えばだれでも入れる学校となっている。進学校の定員を削ることで質を維持するということも必要ではないか。

花巻農業高校に関する意見

・　花巻北高校、花巻農業高校、花北青雲高校、どちらも校舎は古めと観察する。かつ花巻農業高校は石鳥谷にある農場に片道約７キロかかる。花北青雲高校までは約９キロである。重複している教科もあるようだ。花北青雲高校は工業学科の学級減とのことで、この際に、部活でも学校行事でも力を合わせるのはいかがか。

大迫高校に関する意見

・　大迫高校は地域校として存続することになるが、教育上特別な支援を必要とする生徒を含めて様々な生徒が在籍している。そのような生徒が伸び伸びと学習をする特色ある学校が設置されていることは、地域にとって価値のあることである。県外からの受け入れやインクルーシブな教育環境は、共生社会の考えからも大切で、このような役割を持つ学校は今後も必要だと思う。

・　大迫高校については、教育上特別な支援を必要とする生徒が多く在籍しているが、充実した学校生活を過ごしている。入学者数は２年連続 20 人に満たない状況ではあるが、今年度は大迫中学校にも志望している生徒がいるので、今後の志願者の数を見ながら判断いただきたい。

・　大迫高校は地域と密接に連携しており、神楽の継承、ブドウ栽培、早池峰山の自然研究、地域イベントへの参加など、地域全体で生徒を支えている。

花北青雲高校に関する意見

・　黒沢尻工業高校の電子科を１学級減らして花北青雲高校の情報工学科を設置したから今回はそこを減らすというのは、あまり説得力のある議論ではない。花北青雲高校の情報工学科は、他の工業系以外の学科と交流があり柔軟な教育ができ、岩手県内、花巻市内に就職する生徒が多く、計画に記載されている企業の求める人材を養成するという観点からも非常に重要である。１学級校の募集停止基準の 20 名以下を考慮せず、再来年度から募集停止というのは行き過ぎで、もう少し様子を見ていいのではないか。

・　花巻地区も少子化が進んでおり、人材確保が喫緊の課題であるが、花北青雲高校は地域の産業界に人材を供給している学校である。花北青雲高校の生徒は地元志向が強く、産業界としても情報工学科を存続して企業に役に立つ人材の育成に当たっていただきたい。特に最近はＩＴ化やＡＩが重要となり、情報工学が必要になってくる。

・　中部地区の工業学科が話題になっているが、県南工業の計画が延期された。中部地区と県南地区は隣接しており、どちらのセンター・スクールにも影響があることを考えると、花北青雲高校で工業の学びの配置バランスを考慮するというのは理解できない。単なる工業系の数合わせという印象を受けるので募集停止を再考していただきたい。

・　岩手の未来を担う人材育成の中で地域産業を担う人材の育成は極めて重要なことで、中部地区の産業振興を図る上で、計画における工業学科の取扱いについて、半導体関連や自動車関連産業を見据えた在り方に特化している印象を受ける。花北青雲高校情報工学科は、地元企業への就職、大学進学、公務員志望、教員志望、様々な進路選択を視野に入れた指導をしている。教育課程では、情報工学の生徒が、商業科や家庭科の科目を選択できる。部活動が活発である等、様々な動機で入学してくる生徒がおり、市外から入学する生徒も多い。花北青雲高校の情報工学科は、黒沢尻工業高校の電子科から分離したという説明であったが、現在は校風が全く異なるものになっているのが現実である。

遠野緑峰高校に関連する意見

・　社会状況を鑑みると、計画の考え方は必然という思いがあるが、遠

野市にとって遠野緑峰高校は生徒数以上に大事な高校で、地域の活動や海外との交流活動を評価しており、その精神を引き継いでいきたい。教育の根本は子どもたちにとってどうあるべきかであり、県と地域が一緒に学校の在り方を考えていく必要がある。

- カリキュラムにおいて、この日は遠野緑峰高校の方の校舎に登校するといった場合に、例えば保護者の目線から考えると、バスで通う生徒がいたとして、この日は遠野高校にこの日は遠野緑峰高等学校高校にとなった場合に、定期券を購入する場合、当然保護者の負担は増えてくるのではないか。
- 遠野緑峰高校においては、農場、牛舎、農業機械等の管理について配慮いただきたい。実習する場所が物理的に遠くなることで、日々の観察が疎かになり、農業への興味・関心の育成が進まないのではないかと懸念している。遠野緑峰高校の特徴として特色あるプロジェクト活動が行われており、農業科と商業科が協働した学習がされている。統合後も商業分野を関連させた農業の学習を進めて欲しい。

黒沢尻北高校に関連する意見

- 黒沢尻北高校の志願者の減少については、中部地区において、同じく進学の割合が高くかつ同規模の花巻北高校への志願者の動向どのような影響するかについて、機会をとらえてお知らせいただきたい。

黒沢尻工業高校に関連する意見

- 黒沢尻工業高校の半導体関連への学科再編は非常に大きなものと捉えている。北上市に設置された、いわて半導体関連人材育成施設（I-SPARK）は、企業人材の技能・知識の教育の場として期待が寄せられており、高校の半導体関連学科と互いによい影響を与えつつ、北上市の地域振興やまちづくりの方向性と軌を一にし、北上市らしい生涯学習体系を形づくると考えている。この時期に半導体関連の学科と施設の２つができるのは、非常に大きなことで、北上市における黒沢尻工業高校の存在感が高まるという期待を持っている。
- 花北青雲高校の工業科よりも、黒沢尻工業高校の学科の方が定員割れしている。黒沢尻工業高校を学級減とするべきではないのか。花北青雲高校の工業科を廃止したとして、黒沢尻工業高校に進学するのか疑問である。
- 黒沢尻工業高校をセンター・スクールとすることには疑問がある。

西和賀高校に関連する意見

- 西和賀高校は今年度から２学級になり、今後は学級数の維持に期待しているが、岩手県全体で生徒が減少している中で、生徒の確保の難しさを感じている。西和賀高校と町の商工会が弁当を商品化する計画を立てているなど、地域と高校が協働していくことが大切で、生徒が入学してよかったと思えるように地域も努力していかなければならない。
- 西和賀町では、魅力発見ラボというもので、高校と町の企業が連携して商品開発事業等に取り組んでいるので、いわて留学等も含めて様々な形で伴走支援をお願いしたい。

（３）県南地区（意見数 48）

県南地区全体に関する意見

- **金ケ崎高校は**進学に力を入れたことが要因で、生徒数が減少したのではないかと感じている。各学校の方針は、県が策定したものなのか、それとも当時の校長が独自に定めたものなのか。その点が明確であれば、もっと早い段階で改善できたのではないか。 また、今後生徒数が 3,000 人、5,000 人と減少していくことが予測される中で、県立高校の在り方について、より長期的な視点で再編を進めるべきではないか。

水沢高校に関連する意見

- 今回の再編計画が突然示され、非常に驚いている。金ケ崎高校の統合案も心配だが、水沢高校の現状も懸念している。水沢高校は現在も 240 人の募集定員があるが、偏差値が下がり、入りやすい学校になってしまっている。水沢高校は地域の中核校として、学級数を減らしてでも、レベルの高い学校にすべきではないか。

前沢高校に関連する意見

- 前沢高校については、バドミントンが盛んで地域との連携も強く、特色ある教育活動として評価できる。

金ケ崎高校に関連する意見

- 今回の説明を通じて、当初案の中ではあるが「金ケ崎町に高校が残る」という方向性が示されたことは、非常に意義のあることだと受け止めている。もしそれが、全日制普通科に加えて定時制や通信制など

の多部制を備えた形で残るのであれば、進路選択の幅が広がり、生徒にとっても魅力的な選択肢となると考える。

- 金ケ崎高校へは、小規模校を理由に進学している生徒もおり、統合により生徒の選択肢が無くなることを危惧しており、金ケ崎高校の存続を要望する。
- 金ケ崎町にはトヨタや塩野義といった一流企業が立地しており、これらの企業は専門高校だけでなく普通高校からも人材を募集している。そうした中で、金ケ崎高校が進学重視の方針に傾き、就職希望者を受け入れないような体制になってしまった。結果として、就職希望の生徒は黒沢尻北高校や水沢高校に進学する傾向が強まり、金ケ崎高校の生徒数減少につながっている。地域の産業構造を踏まえ、金ケ崎高校を就職対応可能な高校として残す方向で再考してはどうか。
- 当初案に示されている令和10年度の金ケ崎高校と水沢高校の統合については、県が定める「学級数の増減、募集停止に関する規則及び基準」の「１学級校の募集停止」に該当しないので、撤回を要望する。なお、令和７年９月10日に関係者と意見交換を行ったところ、金ケ崎高校の入学者数を確保するには今まで以上に学校の魅力化が必要であるとの認識が示され、「金ケ崎高校を進学だけでなく就職コースもある高校にしてはどうか」「金ケ崎高校を全日制、定時制、通信制が併設する高校としてはどうか」といった意見が出された。
- 金ケ崎高校の統合は唐突すぎるので再考をお願いする。金ケ崎高校の入学者数については、一時期、様々な要因により、急激に減少してきたが、金ケ崎町の支援等もいただきながら魅力化の取組を行い、少子化が進む中にあっても令和５年度からは少しずつ入学者数も増えてきたところであった。令和７年度は、岩手県交通バスの路線廃止等も逆風となり、生徒数が減ったのは事実であるが、そういう状況にあっても金ケ崎高校へ入学したい生徒がおり、さらに、これまで少なかった地元中学校からの生徒数も増えたところであった。少子化の進展により今後の生徒数が減少することは理解するが、一方で、多様性が求められている時代であり、小規模校を望む生徒も存在する中、高校全体の定員の調整や今後の入学者数の動向等を勘案しないまま、今年度の入学者数減をもって、募集停止、統合ということは唐突すぎて理解できないので、再考をお願いする。

杜陵高校奥州校に関連する意見

- 杜陵高校奥州校については、奥州市在住の生徒が多く、金ケ崎高校校舎への移転による公共交通の課題があるため交通整備への配慮が必要である。また、体育館の有効活用も検討してほしい。
- 杜陵高校奥州校の集約により、定時制高校の拠点を整備するという方針には賛成であるが、定時制の夜間部は、21時頃に終了することから、歩道の拡充等、通学路の安全対策を講じる必要がある。また、最寄り駅が無人駅であることから、防犯上の対策も必要であると考える。
- 現在、杜陵高校の移転が予定されていると報道で知った。金ケ崎高校へ入ることができる、という話であった。通信制は専用校舎がないために、日々狭苦しい思いをしていたところであり、ありがたい計画だと思った。ただ、全日制高校の教室では、通信制の生徒にはつらいものとなってしまうことが予想される。人数が多い科目によってはギチギチになってしまって、教室に入れない子が発生するのではないか。現在は、特別教室に多めの机を入れて、人とあまり近くならないように配慮して学習している。その点が移転先では対応できるのかが不安要素としてある。また、定時制の生徒も一緒に移転することになると、夜間の通学が徒歩になる可能性があり、安全面や負担が心配である。近くに線路があるが、駅は遠いため、夜間の通学生にとっては大変かと思う。

岩谷堂高校に関連する意見

- 岩谷堂高校の系列は６つあることで進路に迷っている生徒が在学中に自分に合った系列を選ぶことができるので無くさないでほしい。生産生物系列と産業工学系列がなくなってしまうと岩谷堂高校の実践的なスキルや魅力的な体験がなくなってしまい生徒にとって大切な経験ができない。特に生産生物系列がなくなるということは生産生物系列の作ったリンゴジュースやジャムがなくなり流通情報系列の生徒が模擬出店の経験ができなくなって地域の人々との繋がりが薄れる。また、中学生との田んぼの稲刈り体験もなくなり中学生にとっての大事な行事もなくなってしまう。各系列で自由な学習や経験を積むことができるのは岩谷堂高校にしかできないことだと思う。

・　岩谷堂高校の 農業系列及び工業系列選択中止について、不明な点や理解しがたいところがあり意見を述べる。そもそも今回の提案は「高校再編計画」であり総合学科内の系列の選択中止を提案すること自体が計画の趣旨から逸脱した提案だと感じる。よって、他高校の統合や募集停止の陰に隠れてしまい、これまで反論の意見が出されてはいないのではないか。全国初の総合学科である岩谷堂高校の特色である系列選択制が少なくなると総合学科としての魅力低下につながる。ひいては、入学希望者が減少することに繋がることは必然である。むしろ、全国に先駆けて設置した岩手県としては、特色ある総合学科のより一層の充実を図り、他県からも入学してもらえるような学校運営は現状の選択制を継続させることによって、可能であると思われる。岩手では人口減少に少しでも歯止めをかけようと様々な施策を打ち出している。岩谷堂高校は、近隣の工業高校や商業高校等に比較しても県内への就職数は多いと思われる。具体的な数字は判らないが地元就職率も併せて高いはずである。このことは、岩谷堂高校の圏内に優良な就職先やブランド力が高い農産物があるからであり、ずれた感覚ではないと思う。人口減少の要因として出生率の低下がよく発表されている。若者が県内に就職して生活をしていくことこそが、人口減少対策としてなによりも有効性が高いと感じる。このことから考えても、今回の岩谷堂高校に関する教育委員会の計画は、将来の人口減少をより加速させようとする提案になっていると思われる。再検討を求める。
・　岩谷堂高校の農業及び工業系列の選択の募集停止について、総合学科は多様な学びを選択できるようにするということが設置当初の目的だったと思うが、系列を減らし、生徒の選択肢を減らすということであれば、総合学科の意義がなくなるのではないか。
・　岩谷堂高校の農業・工業系列の廃止案については、地域産業の発展に対応した教育内容の進化が必要。また、両系列の教育は地域の企業や人材需要に直結しているため、地元産業への配慮が求められる。
・　岩谷堂高校では、農業系列の生徒が栽培・製造した製品を商業系列の生徒が販売することで、岩谷堂高校だけでなく、江刺の魅力も伝えることが出来ていると感じている。その為、農業系列がなくなってしまうと地域への貢献が難しくなるのではないかと考えている。

大東高校に関連する意見

・　大東高校について、地元中学校からの入学者が少ない現状を鑑み、学校とも意見交換をしながら地元からの入学者を増やす取組を進めたいと考えているところ。すぐに行動に移りたいと考えているが、入学者を増やすための取組を行うため、商業科の募集停止について猶予をいただきたい。

（４）沿岸南部地区（意見数 85）

沿岸南部地区全体に関する意見

・　少子化により学校規模が小さくなることで、部活動や生徒会活動といった子ども達にとってやりたいことができる環境が無くなってしまうことを危惧している。そうなると、学校の魅力もなくなり、沿岸南部地区から人材が流出することに繋がるのではないか。
・　当初案は均衡ある県土の発展とはいえず、沿岸部の衰退を感じる。持続可能な社会の作り手とあるが、地域住民に聞き取ったところ、漁協等との連携が高く評価されており、中学生や小学校高学年の児童生徒も食物文化科への進路選択を考えており、愛郷心を強く持っていることを感じた。
・　気仙地区は県内の地区で一番ほかの地区に中学校３年生が出ていかない地区と言われている。その理由は気仙地区には大船渡東高校の４つの専門学科や高田高校の水産学科と専門学科がバランスよく配置されているからである。普通科だけの地区であれば他地区へ出ていくが、気仙地区はバランスが取れている地区であることから、これからもよろしくお願いしたい。

高田高校に関連する意見

・　高田高校海洋システム科の存続を強く求める。高田高校の海洋システム科について、令和 10 年度以降の募集停止とする案が示されていることに対し、地域住民の一人として深い懸念を抱いている。県の説明によれば、海洋システム科の教育機能は宮古市にある宮古水産高校へ集約する方針とされているが、これは気仙地域に住む生徒やその保護者にとって、現実的とは言えないと感じている。岩手県は日本で最も面積の広い県であり、特に沿岸南部の陸前高田市やその周辺地域から宮古市までの距離は非常に大きく、公共交通機関を乗り

継いでの通学は困難を極める。加えて、もう一つの水産系学科である久慈翔北高校水産系列も同様に遠方であり、日々通学できる範囲にはない。仮に進学を望むとしても、中学校卒業後すぐに地元を離れ、下宿や寮での生活を余儀なくされることになる。このような状況では、家庭的にも経済的にも進学を断念せざるを得ないケースが多く、結果として進路選択の機会そのものが失われてしまうことが危惧される。教育の機会均等という観点からも、こうした状況は大きな課題であり、地域ごとの実情を無視した集約ではなく、地元に根ざした教育機会の維持が必要だと強く感じている。さらに、海洋システム科は単に海で働く人材の育成という役割だけでなく、これまで地域の多様な学びのニーズをもつ生徒たちの受け皿としても重要な存在であった。学びのペースや方法において特別な配慮を必要とする生徒たち、たとえば、一般的な普通科の学習内容には難しさを感じる子どもたちにとっても、海洋システム科は高校卒業資格を得て、社会で自立し、活躍するための基盤を築くことができる貴重な場であった。このような環境があったからこそ、「自分にもできることがある」「社会の一員として役立ちたい」という前向きな気持ちが育まれ、実際に多くの卒業生が地元や社会で活躍している。その意味で、海洋システム科の果たしてきた役割は決して小さなものではなく、地域の教育の多様性と公平性を支える柱の一つであったと考えている。どうか、地域に根ざした教育の場を安易に失うことなく、県内すべての生徒が自分に合った進路を選び、安心して学び、将来に希望を持てるよう、高田高校の海洋システム科の存続について、今一度ご再考いただくよう、心よりお願い申し上げる。

- 県立高校の再編計画を拝見したが、高田高校の海洋システム科の統合先が宮古水産高校と聞き、無理がある計画だと思う。少なくとも、統合先に通学を考える生徒はおらず、寮を作っても入る生徒は少ないだろう。理由は、高田高校は隣に気仙沼市があり、そこには同じ海洋系の高校もあるからである。通学時間は、宮古まで３時間半に対して、気仙沼市の高校は電車で１時間半である。車ならもっと短時間で着く。高校生に寮生活をさせたい保護者は、一部のスポーツが盛んな高校に限られ、宮古水産高校はその選択肢には入らないだろう。そうなれば、県の再編計画では集約化が図られると想定していても、予想よりはるかに少ない生徒しか入学しないため、水産高校の価値を下げる事になる。一次産業である漁業は、岩手県の重要な産業であるが、本当に県が重要と受け止めていれば、こんな計画は立てないと思う。産業の担い手を作り出す実業系の高校を、もっと大事に捉えて欲しい。
- 高田高校の海洋システム科も地域にとって大切な学科である。海洋システム科が無くなった際の、ワカメの養殖等の産業の将来を危惧している。水産の学びを宮古に集約しても、生徒や保護者の負担が増え、実際に通う生徒は少ないと思うので、現在の立派な校舎を活用するという意味でも海洋システム科の存続を希望する。
- 高田高校の海洋システム科については、現在、水産業がグローバルしている中、６次産業化に対応する人材育成に取り組んでいる。また、ビジネス知識の習得や産業振興に貢献する取組を実施するなど、海洋システム科は魅力ある学科となっており、今後入学者が増えるのではないかと考えているところ。
- 市としても漁業の担い手育成に取り組んでいるところで、今後も継続するつもりであり、市の産業の活性化、水産業の発展のためには、海洋システム科を存続させていただきたいというのが市長の考え方である。
- 高田高校に特進クラスをつくってほしい。地元の高校からハイレベルな大学へ進学できるクラスをつくってもらいたい。

大船渡高校に関連する意見

- 大船渡高校の募集定員を減らし、専門高校の学びをしっかりと残して地元に根差した人材の育成を行っていただきたい。
- 部活動の交流等で様々な先生方と話をしていると、普通高校の先生方は、生徒の質の低下をすごく嘆いている。現在は伝統校、進学校の威厳というものが持てないと感じており、大船渡高校の１学級減が先なんじゃないかとの話があったが、個人的にも普通高校の学級減を優先していただきたいと考える。
- 大船渡高校はＢＲＴで大船渡高校前というバス停、もしくは、スクールバスが欲しい。

大船渡東高校に関連する意見

- 調理師養成施設だけを集約することに疑問を感じる。説明では、教員が少なくなっており、集約が必要だとのことであるが、教員を増やす取組を県教委として講じているのか。生徒数が減少する中、食物文化科の生徒は毎年 20 人程度入学しており、一定の生徒の希望があるということではないか。食物文化科で学んだ生徒には、将来地元に戻って教えたいという気持ちもあり、そういった思いを汲んでもらい、食物文化科を残していただきたい。
- 大船渡東高校では、調理師養成施設に指導者として関わる地域の方がたくさんおり、環境は充実している。また、卒業生に教員を目指す者もおり、人材を輩出している学校である。
- 大船渡東高校の食物文化科のビジネスコンテストでの発表を何度か聞いたことがあるが、大変立派である。集約がやむを得ないとしても、同じような学びが担保されるような再編としていただきたい。
- 学びの集約により、金額面での負担が増える。保護者の中には、同じ経費をかけるなら宮古を選ばず、内陸部の学校若しくは宮城県内の学校を選ぶのではないかという意見もある。現在、食物文化科へは毎年 20 数名入学しているが、地元にあってこその前向きな進路選択であり、宮古へ入学する生徒はいないのではないか。
- 近年の志願者数、入学者数は他学科に比べても多い。今年の３年生は大船渡市、陸前高田市、釜石市の多数の中学校から入学しているなど広く支持されている
- 大船渡東高校食物文化科の再編計画に反対し存続を求める。大船渡東高校の食物文化科既存調理設備の充実・促進を求める。大船渡東高校は新築してから 18 年経過しているが、耐用年数から鑑みるにあと 30 年は使用可能である。既存の施設の充実（職員の待遇、設備の更新、教育環境の向上等）を計るべきと考える。また、本校の実習室は 18 年経過しているとは思えないぐらい綺麗に使用されている。
- 再編計画では均衡ある県土の発展とは言えず、均衡ある県土沿岸の衰退が危惧される。持続可能な社会の創り手となる人材の育成に叶う再編計画案とは思えず、広い県土、過疎化する沿岸部において、専門高校卒業生の多くが地元就職し、地域産業を担う人材となっていることを理解すべきである。地域住民に大船渡東高校について聞き取りをすると、漁協や農場と連携した取組や、郷土料理の研究を長年続けていることが高く評価されており、中学生や小学校高学年生も食物文化科への進路選択を考え愛郷の意識を強く持っていることを感じた。更に地域に密着した地元学、ふるさと教育にも力点を置くべきと考える。
- 三陸鉄道で通学するためには、朝４時半に起床し盛駅 5：43 に乗車、夜 9:51 に下車。夜 11 時以降に就寝。生徒の睡眠の時間を５時間程度に強いるのか。これでは自宅学習は不可能である。また、電車通学の場合は、電車の振動が眼に悪いため読書禁止と聞いている。往復５時間の通学時間をどう過ごせば良いのか。更に三鉄は強風警報や、倒木、津波避難等でたびたび運休している。盛駅に送り迎えされる親御さんのご苦労が目に見えるようである。汽車の定期代は月 27,745 円年間 33 万円の負担になるし、居住地を宮古市に移すとなると月 10 万円以上の家計負担になる。現在食物文化科は毎年 20 数人入学しているが、家計の負担増や通学の不安を思うに、宮古へ入学を希望する生徒はおそらく０人。多くても１人程度になってしまうことが安易に想像できる。

釜石高校に関連する意見

- 釜石市でも、医系コースの設置を要望してきたが、現状では盛岡 1 校のみとなっていることから、ぜひ沿岸部にも医系コースを設置し、地元の生徒が盛岡に行かなくても医学部に進学できるという選択肢を作っていただきたい。医系コースの設置は、学力の底上げや人口減対策にも繋がる。

釜石商工高校に関連する意見

- 釜石商工高校は令和 11 年度に学級減の見込みであるとのことだが、地域の企業からは即戦力となる人材の育成を求められており、地域に求められる学科をバランスよく設置していただきたい。

（５）宮古地区（意見数 33）

宮古地区全体に関する意見

- 宮古エリアについて、何も水産高校と言う名前に拘らない、改革をしてほしい。久慈や大船渡エリアみたいに、名前も変え、統合した方が、世の道筋に合っていると思う。実習船も１台は、新しくなったの

に、学ぶ生徒も５人以下とか聞いているし、船の職員も足りず、随時募集が有る様である。もう１つの船は、動かせずに、大船渡に泊まったまま有ると見聞きしている。税金の無駄遣いである。宮古市にも、総合高校を。孤立した学校を作らない、人が集まり、学び、人数が必要なクラブも出来る、統合学校を宮古市にも必要だと思う。

- 下閉伊地区は経済的、地理的に通学が困難となる可能性がある地域であり、沿線地域とは異なる。地元の高校にしか行かせられない家庭はある。地元で学び、地域で暮らしたいと願う子どもたちの育成が、地域産業を担う人材づくりにつながると考える。インクルーシブ教育の充実や、学力・キャリア支援も含め、具体的な計画が必要と考える。
- 宮古地区の中学校長からは、令和６年度以降の出生数や児童生徒数の減少を踏まえ、当初案は丁寧でよく考えられているとの評価が多く寄せられた。一方で、学級減や募集停止に関する話題も多く、学級減によって募集停止を回避できる可能性も議論されたが、長期的な生徒数の推移を見れば限界があるとの認識も共有された。

山田高校に関する意見

- 沿岸被災地の人口減は内陸部とは事情が異なる。山田高校は地域の将来を担う人材育成の場として存続が必要であり、町もこれまでに様々な支援を行ってきた。山田高校の地域に根差した活動は、地元高校の存在意義の大きさを示すものであり、生徒の地域貢献活動の実績、成果を考慮したうえで、各地域の事情に即した柔軟な考え方を盛り込んだ計画にしていただきたい。
- 宮古地区内の各校の募集定員数について、早急に見直しの検討をお願いしたい。山田中学校は、宮古地区内で最多の在籍数だが、地元の山田高校への進学者が少ない状況である。

宮古高校に関する意見

- 宮古高校が、今年度 50 年を経過し、校舎が大分古くなっている。体育館の改修計画も出ているようだが、校舎、設備の老朽化について、配慮いただきたい。

宮古北高校に関する意見

- 推計では、宮古北高校が令和 12 年度に募集停止の見込みになっている。人数は概ね推計の通りと考えているところだが、募集停止をする際には、宮古北高校を志願する子どもたちの受け皿について配慮いただきたい。
- 宮古北高校は、中学校時代の経験にとらわれず、高校から新たなスタートを切ることができる学校である。放課後の生徒会活動やボランティア活動など、学校独自の取組を通じ、地域との協力、協働が深まっており、地域産業を担う人材の育成にもつながっていると感じている。厳しい状況があることは理解しているが、特色ある教育活動を継続するためにも、宮古北高校を残してほしい。

宮古商工高校に関する意見

- 宮古商工高校と宮古水産高校の校舎の集約は、令和９年度完成予定とされているが、現在、物価高騰により入札不調が多く続いており、地域住民も懸念をしていることから、工期を守っていただいた上で充実した学びの環境を作っていただきたい。

宮古水産高校に関する意見

- これまで宮古水産高校の行く末を懸念し、漁協を中心に存続協議会を設置し検討してきたところ。今回、水産、調理師養成施設の拠点として位置付けされ、大いに評価をしている。一方、非常に範囲が広いため、全地区において合理的で丁寧な説明が必要だと考えている。
- 宮古水産高校への集約にあたっては、特色ある教育内容の充実が求められると思う。宮古市が下宿制度を導入した背景は、漁業の担い手の確保が目的にあったが、現状では進路が漁師以外の選択肢となる生徒が多い。将来の進路に応じた多様な学びが選択できる学校を目指して欲しい。
- 宮古水産高校に、水産と調理師養成施設の学びを集約することについては理にかなっている。それぞれの自治体で様々な意見もあると思うが、人口減少、生徒数の減少の中においては、教育や設備を集中し、宿泊施設を整備することにより、子どもたちの教育の質の向上や、水産関係の後継者育成に繋がるものと評価している。

岩泉高校に関する意見

- 岩泉高校の令和 10 年度の学級減の推計について、出生数などの客観的なデータに基づいたものであると理解した。岩泉高校は、生徒の挨拶や地域住民との交流を通じて、地域に活力をもたらしており、中高連携や商工連携を軸に活発に教育活動が展開されている。小学生

への技術指導や陸上記録会への協力、街中探検、防災教育など、多様な取組を通じて、子どもたちが高校生に憧れを抱き、進路選択にも良い影響を与えている。

・　岩泉高校は少人数だが、野球部も単独チームとして出場している。小規模校でありながら、町民にとって希望の光となっていることから、岩泉高校の存続をお願いする。病院、高校がなければ岩泉町は町として体をなさない。広大な面積の県土において、小さな学校が果たす役割は非常に大きい。県と町がワンチームなって、生徒がここの学校で学んでよかったと感じられる環境を整備し、将来は地元で活躍できるような環境づくりを進めていきたい。

（６）県北地区（意見数 84）

県北地区全体に関する意見

・　二戸地区の地域住民説明会の場において、福岡高校の拠点校化をという発言があったが、福岡高校は定員割れながらも学校の基準等により、今年度１名の受検生が涙をのんでいる。福岡高校が拠点校となった場合、受検から漏れた生徒のためにも、九戸郡の１学級校になろうとしている軽米高校・１学級校である伊保内高校を校舎制、或いは遠隔教育を活用するなど、地元自治体にのこす必要があるのではないか。今後生徒数減少が見込まれる北桜高校の総合学科も、学科のあり方を検討し始めるべきではないか。少子化による生徒数減少の中ではあるが、県北地区への通信制高校の設置、或いは現在ある学校を通信制に変更することも検討してほしい。

久慈翔北高校に関する意見

・　「久慈翔北高校海洋科学系列の募集停止及び食物系列の調理師養成施設の廃止計画を撤回し、存続させること」地域の基幹産業を支える人材育成の重要性に鑑み、廃止の計画そのものを見直していただくことが、当市の将来を担う子どもたちの定住、県北地域の産業の振興にもつながるものと考えている。海洋科学系列については、当地域の漁業特性（ウニ、アワビ等の磯根漁業、イカ釣り等の漁船漁業、定置漁業、サーモン等の魚類養殖漁業等）に特化した専門コースを設置するなど、宮古水産高校との差別化を図り、小規模でも特色ある教育機関としての存続を要望する。また第３期県立高等学校再編計画（当初案）全体に関わり、専門教員の確保について、更なる採用条件の緩和等を進めるなど、工夫をしながら採用を強化すべきであると考える。併せて、生徒の学習機会を確保するため、「通学・居住への経済的支援」「安全・安心な通学手段の確保」の支援策について、県が責任をもって実施することを要望する。久慈翔北高校は本年４月に統合されたばかりであり、水産系列および調理師養成施設の廃止は、生徒の選択肢を狭めることにつながると懸念されている。

・　宮古水産高校への集約案は、通学の困難さや保護者・生徒への負担増を招く可能性があり、進学の選択肢を狭めることが危惧される。生徒数減少や教員確保の課題は理解しつつも、単なる効率化ではなく、地域産業と文化を支える人材育成の場として、両系列の存続を強く求める。

・　地域では水産業が基幹産業であり、経済・文化・コミュニティの面でも不可欠な存在。地元での人材育成が重要であり、水産系列の停止は容認できない。

・　調理師養成施設についても、調理師を目指す生徒が一定数おり、資格取得後に地元で活躍する若者の存在が地域振興に寄与している。廃止による影響は大きく、存続を強く要望する。

・　久慈翔北高校の水産系列の選択停止については、地域ごとの漁業の特性を踏まえ、地元での教育が不可欠と考える。通学や寮生活に伴う負担が増すことから、経済的な不公平感を軽減する支援を求める。

種市高校に関する意見

・　種市高校の海洋開発科については、潜水技術の学びの拠点としての機能維持が示されており、町としても安堵している。全国の海洋土木業界からも強い存続要望があり、今後も教育環境の整備と支援を継続していただきたい。

・　久慈市の水産系教育について、宮古水産高校への集約方針が示されているが、種市高校の海洋開発科との連携・集約は検討されなかったのか。種市高校には久慈市からの通学者も多く、内容も比較的近いように感じるが、検討の余地はなかったのか。

大野高校に関する意見

・　大野高校は地域校として位置付けられたが、町ではこれまで高校・中学校・地域と連携し、入学者確保に取り組んできた。今後も地域み

らい留学の受け入れを継続予定であり、１学級校の募集停止基準の適用について柔軟な検討を求める。

・　大野高校から種市高校への通学は困難であり、地域性を踏まえると大野高校の存続は必要と考える。地域おこし協力隊などの支援も受けながら、地域と連携した教育活動を継続している。

軽米高校に関する意見

・　県教育委員会では、学校の特色化、魅力化を一層推進し、生徒に選んでもらえる学校にということを述べているが、学級減となった場合、教員数の減少も心配され、軽米高校のこのコース別学習などのすばらしい教育活動をどのように充実させていこうとしているのか。軽米高校の教育活動の充実と特色化、魅力化の一層の推進を図るために、２学級の維持も含め、その方策について、効果的な支援を強くお願いする。

・　軽米町は軽米高校に対して毎年 1,000 万円を超える支援をしているが、地元からの進学率が 50%を割っている現状で中高一貫教育を続けることは疑問である。その疑問が解決されない中で学級減を判断するのは妥当とは思えない。

・　連携型入試の結果が出るまで待つのであれば、無理をして軽米高校に志願する必要はないと考えるのではないか。また、地域連携型中高一貫教育の継続を検討する必要があるのではないか。中高一貫教育について検討するのであれば、学級減はその結果を待つべきではないか。

伊保内高校に関する意見

・　今回の計画において、新たに伊保内高校が地域校として指定されたことについて感謝する。伊保内高校は、学力や経済的な理由により進学先を選択する生徒にとっては、最終的なセーフティネットとしての役割が大きい。20 人を切った場合についても、地域に対し丁寧に説明していただき、将来的にも、ぜひ大事にしていていただきたい。

福岡高校に関する意見

・　福岡高校については、近年、募集定員に満たない状況が続いていたため、学級減については懸念していたところ。福岡高校を進学だけの学校ではなく、１クラスを就職コースとすることで、学級減をしないという手もあるのではないか。福岡高校で学び、安心して就職できる環境が整うのであれば、志願者数は増えるのではないかなと思っている。

・　７月の知事要望においても要望したところであるが、最優先事項として、福岡高校校舎の全面改築をお願いしたい。築58年が経過し、教室やトイレ、暖房設備を初め、校舎全体の老朽化、設備面での不自由さが顕著になってきており、今の社会環境、或いは教育環境に合わない校舎が、志願者減少の１つの要因とも考えている。

・　二戸地区においては、普通高校１校、専門高校１校となるのは、もはや避けられないだろう。それであれば、現在の高校が疲弊する前に、一刻も早く拠点校づくりを進めるべきではないか。まず福岡高校を拠点校と定めることによって、十分な教員を配置し、豊かな教育施設を整備することが、将来を見据えると大事なことではないか。地域に高校を残して学びの機会を保障するということは一つの考え方だが、学びの質を保証することはそれ以上に大切なことではないか。

北桜高校に関する意見

・　北桜高校についても学級減するということだが、統合したばかりで学級減をするのかと感じている。統合に当たっては、二戸市に工業の学びを残すために地元が苦渋の選択をし、２校の連携は模索の途中である。統合した北桜高校をどのような姿にしたいのか、生徒の数しか見ていないのではないか。

その他

１　第３期県立高等学校再編計画全般（意見数 28）

・　今回の案は、様々な地域の声を踏まえて取りまとめられたものと理解しており、感謝している。

・　今回の再編計画については、地域の教育の在り方を踏まえた納得解として進めていただきたいと考えている。多くの人が不安を感じる中でも、改善を重ねながら合意形成を図ることが重要である。

・　生徒数の減少が進む中、県内全体および各地区のバランスを考慮した高校配置を求める。子どもたちが夢や希望を持ち、将来の進路を自由に選択できるよう、普通科・専門学科をバランスよく配置してほしい。

２　第３期県立高等学校再編計画策定手続きについて（意見数３）

・　学級減或いは学校統合の際には、保護者或いは地域住民に対して、時間をかけて丁寧な説明と慎重な議論を行い、合意形成がされたうえで進まれることを望みたい。

３　広報（周知）について（意見数４）

・　子育て世代の保護者が参加しやすいように、地域ごとの実施、土日開催や時間帯等を検討した方がよいと考える。

・　報道によって高校の印象が誤って伝わり、生徒や保護者が進路選択時に不安を感じるケースがある。

４　その他（意見数 32）

・　これまでの高校再編計画期間中、県立高校だけが定員を減らし、私立高校は男女共学化等の変更はあったものの、定員はほぼ変わっていないので、県立高校と私立高校が連携して募集定員を減らすことはできないのか。

・　来年度から私立高校の授業料無償化が始まり、公立高校も含めて選択肢が広がる中で、保護者と経済的な面を含めた相談を行う機会も増えている。中学生自身が、高校生活の実態や困りごと、費用面などについて具体的な情報を得ることで、より納得感のある進路選択が可能になると考える。

事務報告５

第３期県立高等学校再編計画（当初案）に係る子どもからの意見聴取の実施状況について

「第３期県立高等学校再編計画」策定の参考とするために実施した、子どもからの意見聴取結果について別紙のとおり報告いたします。

令和７年 10 月 20 日

第３期県立高等学校再編計画（当初案）に係る子どもからの意見聴取の実施状況について（報告）

１　対　　象

・　県内の学校に通う**小学校５年生から高校３年生**の個人又はグループ（友達どうし、班、学級、学年、学校）で回答を希望する子ども。

・　**特別支援学校、私立学校、高等専門学校の児童生徒を含む。**

２　期　　間

令和７年８月６日（水）～令和７年９月 12 日（金）

３　調査項目

Ｑ１　あなたがかよっている学校をえらんでください。

Ｑ２　あなたが高校について関心をもっているテーマを１つえらんでください。

（１）　いわての高校教育で大切にしている考え方について
（２）　高校の生徒数やクラスの数に関係すること
（３）　高校のクラスの数を変更するときのきまり
（４）　通える高校の範囲
（５）　高校をより良くするための取組
（６）　学校や学科の地区ごとのバランス
（７）　盛岡地区のこれからの県立高校の将来の姿
（８）　中部地区のこれからの県立高校の将来の姿
（９）　県南地区のこれからの県立高校の将来の姿
（10）　沿岸南部地区のこれからの県立高校の将来の姿
（11）　宮古地区のこれからの県立高校の将来の姿
（12）　県北地区のこれからの県立高校の将来の姿
（13）　その他

Ｑ３　Ｑ２でえらんだテーマについて、意見を聞かせください。（200 字以内）※最大３項目まで選択できる。

４　回答数

校種	回答数	意見数	意見が最も多かった項目
小学校、小学部	2,684	2,798	通える高校の範囲(630)
中学校、中学部	3,243	3,328	通える高校の範囲(703)
高等学校、高等部	1,580	1,624	高校をより良くするための取組(385)
合計	7,507	7,750	

※「長期ビジョン」策定に係る「子どもからの意見聴取」（R６.12～R７.１月実施）の意見数：5,582 件

※意見聴取の結果は【参考資料】参照

５　各校種別の主な回答内容

小学校、小学部：**「家から近い」等の通学の利便性**を求める意見が多い。

中学校、中学部：**「通いやすい」等の通学への負担軽減**を望む声が多い。

高等学校、高等部：**「施設の老朽化の改善」、「校則等の見直し」**等の環境改善を求める声が多い。

※　全体として、**生徒数は多い方がいい**という意見が多い。

６　調査結果の取扱い

（１）第３期県立高等学校再編計画への反映

項目毎に意見内容を分類・整理し、策定案等への反映を検討する。
なお、速やかに取り組むべき意見は順次対応していく。

（２）公表

県ＨＰに概要を公表するとともに、その旨を各学校等に周知する。

７　今後のスケジュール

・　成案の公表と同日に、結果について県ＨＰに公表する。

【参考資料】

○意見聴取の結果（意見数　7,750）

意見項目	小学校、小学部		中学校、中学部		高等学校、高等部		全体	
いわての高校教育で大切している考え方について	333	11.9%	479	14.4%	261	16.1%	1,073	13.8%
高校の生徒数やクラスの数に関係すること	333	11.9%	392	11.8%	243	15.0%	968	12.5%
高校のクラスの数を変更するときのきまり	61	2.2%	75	2.3%	48	3.0%	184	2.4%
通える高校の範囲	630	22.5%	703	21.1%	165	10.2%	1,498	19.3%
高校をより良くするための取組	421	15.0%	571	17.2%	385	23.7%	1,377	17.8%
学校や学科の地区ごとのバランス	137	4.9%	332	10.0%	137	8.4%	606	7.8%
盛岡地区のこれからの県立高校の将来の姿	246	8.8%	179	5.4%	126	7.8%	551	7.1%
中部地区のこれからの県立高校の将来の姿	64	2.3%	115	3.5%	18	1.1%	197	2.5%
県南地区のこれからの県立高校の将来の姿	100	3.6%	69	2.1%	45	2.8%	214	2.8%
沿岸南部地区のこれからの県立高校の将来の姿	37	1.3%	128	3.8%	50	3.1%	215	2.8%
宮古地区のこれからの県立高校の将来の姿	14	0.5%	31	0.9%	26	1.6%	71	0.9%
県北地区のこれからの県立高校の将来の姿	76	2.7%	61	1.8%	39	2.4%	176	2.3%
その他	346	12.4%	193	5.8%	81	5.0%	620	8.0%
合計	2,798		3,328		1,624		7,750	

小学校・小学部の特徴（全体 2,798 件）：小学校・小学部では、**「通える高校の範囲」に対する関心が他の項目に比べて非常に高い**ことが特徴である。

最も関心が高い項目：　通える高校の範囲：意見全体の 22.5%（630 件）を占め、全学校種の中でこの項目における意見の割合が最も高くなっている。

中学校・中学部の特徴（全体 3,328 件）：中学校・中学部では、全学校種の中で最も多くの意見（3,328 件）が寄せられており、**小学校と同様に「通える高校の範囲」への関心が非常に高い**一方で、高校の教育方針や改善策にも関心が集まっている。

最も関心が高い項目：　通える高校の範囲：意見全体の 21.1%（703 件）を占めており、件数では全学校種の中で最も多くなっている。

高等学校・高等部の特徴（全体 1,624 件）：高等学校・高等部では、**高校生自身が主体的に「より良くするための取組」に関心を寄せている**点が最大の特徴である。総意見数は他の学校種に比べて最も少ない。

最も関心が高い項目：　高校をより良くするための取組：意見全体の 23.7%（385 件）を占め、全学校種の中でこの項目への関心が最も高い。

【参考資料】子どもからの意見聴取の結果　:（１）いわての高校教育で大切している考え方について

小学校、小学部の主な意見（n=333）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	非具体的・不明確な回答	「まだわからない/考えていない」等	150	45.0%
2	情報要求/方針への関心	「どんな教育を大切にしているか詳しく知りたい」等	105	31.5%
3	将来の夢/専門分野の学習	具体的な将来の職業（ゲーマー、トリマー、野球選手、ＣＡ、イラストレーター等） 高校で学びたい内容（美術、料理、スポーツ、医学等）	65	19.6%
4	環境/安全/利便性/平等	「いじめのない学校」、「安心して通える学校」、「家から近い学校」、「生徒を大切にする学校」	13	3.9%

※　高校教育の内容や方針そのものに対する**情報要求**と、**具体的な将来の夢や専門分野の学習への関心**が目立つが、回答そのものが非具体的である意見が最も多い。

中学校、中学部の主な意見（n=479）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	情報要求/教育方針への関心	「各高校の教育方針について具体的に知りたい」、「その高校が求める生徒像を知りたい」等	210	43.8%
2	理想的な環境/生徒尊重/安全	「一人ひとりの意見を尊重する学校」、「いじめがなく、楽しく学習できる高校」等	100	20.9%
3	将来/進路/学力向上/夢の実現	「一人ひとりの夢の実現を後押ししてくれる学校」、「大学進学/就職に特化」、「学力向上」等	95	19.8%
4	非具体的・意見なし/肯定的	「特に意見はない」等	74	15.4%

※　高校選びが目前であることから、**教育方針そのものへの具体的な関心や疑問**が最も高い割合を占めた。

高等学校、高等部の主な意見（n=261）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	情報要求/方針の明確化	「何を大切にしているのか/教育方針を知りたい」、「目指す生徒像を明確にしてほしい」等	75	28.7%
2	多様性・環境・主体性	「特色、魅力ある教育活動」、「個性を大切にする」、「生徒の意見を尊重/自由な校風」 「いじめのない、安全な環境」、「教員の質の向上」、「多忙感の解消」等	75	28.7%
3	学力向上/進路/専門性	「学力向上/偏差値の上がる取組」、「就職や将来に繋がる学び」「大学進学を増やす/受験対策の充実」、「地域資源を活用する学校」等	60	23.0%
4	非具体的・意見なし	「特になし」、または肯定的な意見	40	15.3%
5	教育制度への提言	「授業時間/長期休業の調整」、「ICT 教育の充実」、「具体的に高校名を挙げて統廃合への疑問」等	11	4.2%

※　**教育理念・方針が自分たちに伝わっているか、**また、その方針が**個性の尊重や生徒の自律につながっているか**という、より実践的・批判的な視点が含まれた意見が多い。

【参考資料】子どもからの意見聴取の結果　:（２）高校の生徒数やクラスの数に関係すること

小学校、小学部の主な意見（n=333）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	人数の多さを希望/交流重視	「人数が多い方が楽しい/良い」、「たくさんの友達と話せる/遊べる」、「たくさん友達を作りたい」等	90	27.0%
2	人数・クラス数を知りたい	「生徒数/クラス数が気になる/知りたい」、「それぞれの高校の生徒数が知りたい」等	80	24.0%
3	少子化/統合/廃校への懸念	「生徒が減っていくのが気になる」、「高校の数が減ると困る」等	65	19.5%
4	少人数/個別対応への希望	「人数が少ない方がいい/緊張しない」、「先生が少人数だと寄り添ってくれる」等	55	16.5%
5	意見なし/その他	「意見なし」等	43	12.9%

※　**人数が多いことへの好奇心や、友達を増やしたいという願望が最も多く**、次いで高校の生徒数やクラス編成に関する情報要求が続いた。

中学校、中学部の主な意見（n=392）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	少子化/統合/廃校への懸念と対応	「生徒数が減っていて心配」、「統合によって通いづらくなる」、「統合で通学が不便になる」等	120	30.6%
2	人数の多さを希望/交流を重視	「人数が多い方が楽しい」、「いろいろな人と繋がりたい」、「多い方が行事/部活が盛り上がる」	105	26.8%
3	人数・クラス数を知りたい	「高校のクラス数/人数が気になる」、「クラス減による入試倍率の上昇が心配」等	95	24.2%
4	少人数/個別対応への希望	「少人数で学習できる授業がいい」、「１クラス 30 人くらいがいい」等	55	14.0%
5	意見なし/その他	「意見なし」等	17	4.3%

※　少子化が**進路選択や通学環境に与える現実的な影響への懸念**が最も高い割合を占めた。

高等学校、高等部の主な意見（n=243）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	生徒数減少/統合/廃校への具体的懸念と対応	「少子化が進んでいてこれからの学校の姿が気になる」、「生徒数が減ると部活や行事の規模が縮まる」、「廃校の危機」、「高校を減らす以外の解決策があるか知りたい」等	110	45.3%
2	クラス編成/人数配分の課題と提案	「１クラスの人数が多く教室が狭い/窮屈に感じる（盛岡地区の高校）」、「クラスの生徒数を減らすべき/工夫が必要」、「文系理系で人数差が大きい」等	65	26.7%
3	定員・募集人数に関する懸念	「生徒数がどのように変化するか知りたい」、「募集人数はそのままで良いのか」等	35	14.4%
4	人数の多さの利点/希望	「人数が多い方が楽しい」、「多様な意見の交流を図りたい」、「部活/行事は生徒が多い方がいい」	25	10.3%
5	意見なし/その他	「意見なし」等	8	3.3%

※生徒数の減少が学校運営（行事、部活、学力）に与える深刻な影響と、現在のクラス規模の不満や編成への具体的提案に集中した。

【参考資料】子どもからの意見聴取の結果　:（３）高校のクラスの数を変更するときのきまり

小学校、小学部の主な意見（n=61）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	不明確な回答/意見なし	「わからない」、「特になし」、「クラス数を変更する時の決まりを知りたい」等	28	45.9%
2	少子化/廃校/統合への懸念	「行きたい高校がなくなるのが心配」、「高校が減ると困る」等	13	21.3%
3	クラス人数調整の要望（少人数）	「人数が少ない方が集中できる」、「全生徒の人数に応じてクラス数を変えてほしい」等	10	16.4%
4	友人関係/クラス編成の配慮	「仲が良い人ともわかれるのが嫌」、「生徒の仲を理解してクラスを組んでほしい」等	5	8.2%
5	その他（学校生活・学習）	「自分にあった職業について学べる学校は残して欲しい」、「歴史ある学校は残してほしい」	5	8.2%

※　テーマに関する**具体的な情報やルールを知りたいという関心**と、**クラスの人数が減ることによる学校の存続への不安**が上位を占めた。

中学校、中学部の主な意見（n=75）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	不明確な回答/基準への関心	「何を基準にしてクラスを決めているのか知りたい」等	25	33.3%
2	少子化/統合/受験への影響懸念	「クラスが減ると倍率が上がり大変にならないか」、「統合により通いづらくなる」等	17	22.7%
3	人数の多さ(クラス増/楽しさ)	「たくさんの人と交流できる」、「人数が多いほうがいい」、「友達を増やしたい」等	13	17.3%
4	人数調整（少人数化/適正化）	「１クラスの人数を減らす」、「少人数で学習できるクラスがほしい」等	12	16.0%
5	人間関係/クラス編成の配慮	「仲の良い人と別れるのをなくしてほしい」、「知らない人と一緒だと心細い」等	8	10.7%

※　**クラス数の変更が受験や通学環境に与える影響を懸念する声**と、少子化による学校統合への具体的な疑問や反対意見が中心となった。

高等学校、高等部の主な意見（n=48）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	不明確な回答/基準への関心	「何を基準にクラスの数が決まっているのか知りたい」等	15	31.3%
2	少子化/統合/廃校への懸念	「クラスの少数化が進み学校がなくなるのではないか心配」等	10	20.8%
3	クラス人数/教室環境の適正化	「１クラスの人数が多く教室が狭い（盛岡地区)」、「合格者を減らしたほうがいい」等	8	16.7%
4	学力水準維持/統合反対/クラス減容認	「クラスを減らさないと学校のレベルが下がる」、「クラスを減らせば質のいい生徒を入学させられる」、「統合に反対」等	7	14.6%
5	生徒の意見尊重/編成の柔軟性	「変更する時は生徒の意見を聞いた方がいい」等	4	8.3%

※　**少子化による学校レベルの低下や、教室環境の悪化**といった、**学校運営に関する具体的な問題指摘と、制度や基準についての情報要求**が同程度に多く見られた。

【参考資料】子どもからの意見聴取の結果　:（４）通える高校の範囲

小学校、小学部の主な意見（n=630）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	情報要求/非具体的回答	「わからない/まだ分からない」、「範囲を知りたい/どこまで通えるか気になった」等	340	54.0%
2	近い距離/通いやすさの希望	「家から近い方がいい」、「通いやすい/楽だから」、「自転車で通える距離」等	130	20.6%
3	将来の夢/専門分野の学習	「野球をするのに十分な設備がある高校」、「パティシエになりたいから料理を習いたい」等	60	9.5%
4	遠距離通学の困難さ	「遠ければ通いづらい/大変」、「親に迷惑をかけるから」、「近くにすぐ通える高校が欲しい」	50	7.9%
5	通学範囲の拡大/自由化の希望	「範囲を広げてほしい」、「好きな高校に行けたほうがいい」等	45	7.0%

※　高校教育に対する情報不足や、**近い距離を求める傾向が顕著**です。約半数の回答が「わからない」「特にない」といった非具体的なもの。

中学校、中学部の主な意見（n=703）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	近い距離（利便性・親の負担減）	「家から近い方がいい」、「通学が楽だから/時間が短くなる」、「遠いと親に迷惑かける」等	270	38.4%
2	受験情報/範囲に関する情報	「自分の学力で通える高校を知りたい」、「どれくらいの偏差値で行けるか」等	180	25.6%
3	学区制の緩和//範囲拡大要求	「学区外でも受験はできるところがいい」、「学区制をなくしてほしい/平等にしてほしい」等	100	14.2%
4	非具体的・意見なし	「特になし/ない」等	85	12.1%
5	遠距離通学の支援	「バスや電車を増やす/発達させるべき」、「学生寮が充実していると良い」、「交通費/電車賃が高い/補助を出してほしい」等	68	9.7%

※　**通学の身体的・経済的負担を避けたいという切実な願い**と、**自分の学力でどこまで行けるか**という受験の情報要求が中心となった。

高等学校、高等部の主な意見（n=165）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	近い距離/通学負担軽減/利便性	「家から近い方が通いやすい」、「通学に時間がかかるのは難しい/辛い」等	50	30.3%
2	学区制の撤廃/範囲拡大	「学区外受験制度を無くすべき」、「学区をなくす、もしくは枠をもう少し広げた方がいい」等	45	27.3%
3	交通手段/費用/インフラ支援	「バスや電車の本数を増やしてほしい」、「交通費助成/通学料金を下げてほしい」等	30	18.2%
4	意見なし/その他	「ない/特になし」等	25	15.1%
5	高校の配置/地域格差の是正	「高校が１箇所（盛岡）に集中しすぎないようにすべき」、「配置バランスが大事」等	15	9.1%

※　**通学の現実的な負担と、制度的な公平性（学区制）の是非に関する具体的な提言**が最も大きな割合を占めた。

【参考資料】子どもからの意見聴取の結果　:（５）高校をより良くするための取組

小学校、小学部の主な意見（n=421）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	情報要求/不明確な回答	「わからない」、「特にない」等	161	38.0%
2	安全・安心な環境/いじめ対策	「いじめがない高校」、「毎日楽しい高校」、「みんなが安全に暮らせる高校」等	89	21.4%
3	生徒の意見尊重/自由化/校風	「一人一人の意見や相談を聞いてほしい」、「ルールを変えられる」、「制服なしで私服」等	45	10.7%
4	行事/交流/地域活動	「文化祭を盛り上げる」、「地域や小学校、中学校との関わりを増やす」、「ボランティア活動」	41	9.7%
5	施設・学習環境/教員の質	「きれいな校舎」、「授業の数を減らす」、「勉強をわかりやすく教えてほしい」	35	8.3%

※　安全で楽しい学校環境と、**生徒の意見を聞いてほしいという要望**が中心。取り組み自体への賛同や情報要求が大きな割合を占めた。

中学校、中学部の主な意見（n=571）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	情報要求/取り組みへの関心	「どのような取り組みをしているのか知りたい」等	151	26.3%
2	校則の緩和と自由化/生徒主体	「校則の改善/自由化」、「生徒の意見を聞いてより良い学校に」等	99	17.5%
3	学習指導・進路支援・専門性	「将来の夢を追いかけられる取組」、「社会に出た時に役立つ授業」、「地域等と連携した授業」	90	15.8%
4	施設/ＩＣＴ化/快適性	「古い設備を新しく建て替える」、「教室以外にもエアコン」、「遠隔授業/タブレット活用」	86	14.9%
5	安全・安心な環境/いじめ対策	「いじめをなくす/隠れたいじめに気づく取組」、「生徒が安心して通える教育」等	79	14.0%
6	非具体的意見/行事/交流	「特になし/ない」、「文化祭や体育祭等の行事の期間を長くする」、「行事を増やす」等	46	8.1%

※　**校則の見直しと学習環境の ICT 化や進路への繋がりを重視**する意見が目立つ。

高等学校、高等部の主な意見（n=385）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	校則の緩和と自由化/生徒主体	「校則の見直しや廃止（メイク禁止など)」、「制服やジャージ登校の自由化」等	89	23.4%
2	施設・設備・環境の改善要求	「校舎の老朽化やトイレの改善」、「冷暖房/空調の整備（特別教室、体育館含む)」等	86	22.1%
3	情報要求/不明確な回答	「特になし」	75	19.5%
4	学習指導・進路支援・学力向上	「授業時間の短縮（45 分統一)」、「学力向上」、「進路指導の充実」等	61	15.6%
5	学校の魅力化・発信/地域連携	「学校の魅力や良さを広める」、「その学校でしかできないことの創出」等	39	10.4%
6	安全・人間関係/心理的サポート	「いじめ/嫌がらせ対策の徹底」等	35	9.1%

※　**校則や制度の柔軟化**と、**老朽化した施設・設備の改善**という、現在の学校生活の快適性および自己決定権に関わる要求が多い。

【参考資料】子どもからの意見聴取の結果　:（６）学校や学区の地区ごとのバランス

小学校、小学部の主な意見（n=137）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	情報要求/非具体的・意見なし	「わからない」、「特になし」等	63	43.8%
2	専門学科の設置/多様化の希望	「動物/トリマー/美容/料理などの専門学科が欲しい」、「工業や農業などをバランスよく」等	27	21.9%
3	地域格差/近さ重視・地元校存続	「家から近い高校を無くさないでほしい」、「学びたい学科が近くの地域からなくなるのは反対」	25	18.2%
4	バランス/平等性の要求	「もっとバランスを良くしたほうがいい」、「地区のバランスが取れていると思った」	22	16.1%

※　テーマに関する**具体的な情報要求と、将来の夢に直結する専門学科の設置希望**、そして地元から高校や学びの場がなくなることへの懸念が中心

中学校、中学部の主な意見（n=332）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	地域格差/中心地集中への懸念	「特定の学科や偏差値の高い学校が一つの地区に密集しない方がいい」、「高校が沢山ある地区とない地区がある」、「盛岡地区の高校は多いが、沿岸や県北の方は大変」等	119	36.1%
2	専門性/多様な学科の要望と不足	「自分の将来に合う学科があるところに行きたい」、「学科の種類が少なく、家から遠くて進学を断念する人がいる」等	191	27.1%
3	不明確な回答/意見なし	「どんな学科があるか気になる」、「バランスを知りたい」「特にない」等	75	22.6%
4	統合・廃校への懸念/クラス編成	「学校の統合でやりたいことができなくなってしまうのではないか」、「少子化で学校が減るのは仕方がないが、高校を決めるのが難しくなる」等	47	14.2%

※　**特定の学科や高レベル校が地域（盛岡など）に集中している現状に対する不満と是正要求**が最も多く、進路選択の幅と通学の負担に関する懸念が色濃い。

高等学校、高等部の主な意見（n=137）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	地域格差/中心地集中への批判と是正	「盛岡に魅力的な高校が集まっていて、他の地区だと通学の面で諦めざるを得ない」、「長時間に及ぶ登校時間は生活や学習の大きな障害になり得る」、「盛岡地区外から通うと下宿や一人暮らしになり負担が大きい」等	65	47.5%
2	学科の多様化・地域での設置要望	「行きたい学科が近くにないと学びたいことが学べない」、「複数の学科がない場合が多い。学科を増やせば進路の道が開ける」、「工業系は十分あるが、IT や商業系の学科が少ない」、	41	29.2%
3	統合/再編への懸念と学力・伝統の維持	「再編をしすぎると、それぞれの高校の伝統がなくなってしまう」、「生徒数が減っても定員を減らさないと偏差値が下がり規律が乱れる」等	17	13.1%
4	意見なし/その他	「特に不満なし」、「バランスをよくしていけばいいと思う」等	14	10.2%

※　**地理的な不平等（盛岡集中）による通学負担**と、学区制や学科の配置という制度そのものへの批判的意見が際立つ。

【参考資料】子どもからの意見聴取の結果　:（７）盛岡地区のこれからの県立高校の将来の姿

小学校、小学部の主な意見（n=246）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	非具体的回答/漠然とした賛同	「わからない」、「特になし」　、「気になった」　、「いいと思います」等	231	93.9%
2	楽しさ/部活/行事/環境の維持	「部活動を増やしてほしい」、「部活やいろんな行事が増えていてほしい」等	5	2.0%
3	学習内容/専門性の要望	「科学/医療を学びたい」、「進学校で勉強したい」等	5	2.0%
4	距離/交通/通学の利便性	「遠いところは控えたい」、「交通機関の利便性向上」、「自転車の通学を快適に」等	3	1.1%
5	その他（文化・地域活動の継承）	「高校の部活や文化が受け継がれていってほしい」、「ベルマーク回収などの環境に良い活動」	2	1.0%

※　テーマに対する**抽象的な関心や肯定的意見が圧倒的多数**を占めました。具体的な要望としては、専門的な学習への希望が見られる。

中学校、中学部の主な意見（n=179）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	情報要求/非具体的回答/その他	「将来どのような姿になるのか知りたい」、「盛岡にある高校について知りたい」、「特にない」	170	95.0%
2	学科・専門性/進路/教育内容の要望	「学びたいことが盛岡の高校にある」、「進学校を増やしてほしい」、「美容学科、スポーツ学科などを増やしてほしい」等	3	1.7%
3	交通手段/利便性/環境整備	「バスや電車がなく通学が大変」、「安全で過ごしやすい学校」	2	1.1%
4	少子化/統合/定員への懸念	「少子化によってのこれからの高校が気になる」、「盛岡地区の定員の減少が気になる」	2	1.1%
5	入試制度/その他	「特色入試は高校にだけメリットがあり生徒にはないので見直すべき」	2	1.1%

※　テーマ自体に対する情報不足や関心が圧倒的に高い割合を占めた。具体的な提言としては、**進路に関わる学科の要望や交通手段の改善**が見られた。

高等学校、高等部の主な意見（n=126）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	情報要求/非具体的回答/その他	「自分の学校がどのようになるのか気になる」、「どうなっていくのか」、「特になし」等	102	81.0%
2	少子化/統合/存続への懸念と対応	「統合されて母校がなくなる不安」、「どうすれば高い質を保って教育を提供できるか」、「少子化の中でどう対応していくのか」等	7	5.6%
3	教育内容・学力の質向上/単位制の導入	「進学型単位制を他の高校でも取り入れてほしい」、「受験や就職で他県の学生と戦える教育」、「盛岡第一や盛岡第三の倍率を上げてレベルを上げる取組に期待」等	7	5.6%
4	交流/地域貢献/部活改革	「学校同士の交流」、「盛岡への地域貢献」、「公立高校の推薦制度見直し（部活のため）」等	6	4.8%
5	校則・制度の柔軟化/自由化	「私服化」、「時代に合わせて校則を変えていくべき」、「LGBT に対応した制服導入」等	4	3.2%

※　**盛岡地区での少子化/統合への懸念**と、校則や制度の柔軟化、および**教育の質の維持**という具体的な課題意識に基づいた提言が目立つ。

【参考資料】子どもからの意見聴取の結果　:（８）中部地区のこれからの県立高校の将来の姿

小学校、小学部の主な意見（n=64）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	非具体的回答/情報要求	「わからない/なし/特にありません」、「中部地区の将来の姿というのが気になった」等	46	71.9%
2	地元校存続/近さ/現状維持の希望	「北上の高校が減らないでほしい」、「近くて通いやすいし、家族と一緒に過す時間が増やせる」、「将来、中部地方の県立高校に通おうとしているので大きな変化がないと嬉しい」等	12	18.8%
3	将来の夢/専門分野への希望	「中部地区のバレーボールが強い高校に行きたい」、「保育士になりたいので増やして欲しい」、「中部地区の学校で勉強して公正取引委員会や警察『岩手県警』にはいりたい」等	6	9.4%

※　テーマ自体が難解であることによる情報要求や非具体的回答が最も多く、具体的な要望は**地元の高校の存続と将来の夢**に関するものであった。

中学校、中学部の主な意見（n=115）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	情報要求/非具体的回答	「将来の姿について知りたい」、「特にありません」、「中部地区のこれからの将来の姿を知りたい」、「中部地区にある高校について知りたい」等	97	84.4%
2	学科の多様化/専門性への希望	「この地区で学べることの幅を広くしてほしい」、「中部地区でいろいろな選択ができるようにしてほしい」、「工業系の学校が減ってほしくない」等	9	7.8%
3	人数/活気/増設への希望	「数を増やしていけばいいと思う」、「人数が少なくならないでほしい」等	4	3.5%
4	安全・環境/その他肯定的意見	「行きやすいと思える学校が増えてほしい」、「良くなってほしい」等	5	4.3%

※　このテーマに関する情報要求や漠然とした関心が圧倒的多数を占めた。具体的な意見としては**学科の多様性や選択肢の拡大**を求める声があった。

高等学校、高等部の主な意見（n=18）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	非具体的回答/不明確な回答	「特にない/なし」、「どのような姿になるか気になる」等	9	50.0%
2	少子化・統合・存続への懸念/情報要求	「高校がなくなっていってしまうのか気になる」、「定員割れもする中でどうやって運営していくのか気になる」、「黒北が将来どうなるかが気になる」等	7	38.8%
3	交通手段/通学困難への対策要求	「統廃合が進むと通学が困難になる」	1	5.6%
3	地域の特徴/魅力創出の必要性	「人を呼び込んでいくために他の県とは違う特徴を教育や施設で作っていく必要がある」	1	5.6%

※　少子化に伴う学校の運営や存続、特に**通学している母校の将来について具体的な懸念**を示す意見が最も多く寄せられた。

【参考資料】子どもからの意見聴取の結果　:（９）県南地区のこれからの県立高校の将来の姿

小学校、小学部の主な意見（n=100）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	非具体的意見/漠然とした回答	「わからない/なし/特になし」、「将来の姿が気になる」、「いいと思います」等	91	91%
2	安全・安心/学習内容への希望	「安心して通える学校」、「いじめ等がないほうが勉強しやすい」、「木工やプログラミングをしたい」、「部活は、みんなで協力できている部活になっていてほしい」等	5	5%
3	通学・地域活性化に関する要望	「少子化や人手不足が深刻な地域を活性化できるような取組」、「みんなが通いやすい場所にする」、「遠くに通うために電車をいっぱい走らせてください」等	4	4%

※　将来の姿というテーマに対する情報不足や漠然とした関心が圧倒的多数を占めています。具体的な要望としては、**安全な学校環境や地元校の存続、通学の利便性**に関するものが僅かに見られた。

中学校、中学部の主な意見（n=69）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	非具体的意見/漠然とした回答	「特にない/なし」、「県南地区の将来の姿について知りたい」、「県南地区がいい」等	57	82.6%
2	少子化/統合・廃校への懸念と対応	「人口が減少する中で高校どうなっていくのか」、「なるべく学校を減らさないでほしい」、「統合した場合「どうなるのか」が気になる（水沢高校と金ケ崎高校の統合）」、行きたい高校を選べなくなることへの懸念	5	7.2%
3	専門性/特色の要望と魅力向上	「それぞれの高校の特色を強く出してほしい」（偏差値や部活以外の魅力）、「一関工業高校はバスケが強いし、もっと強くなりたい」等	4	5.8%
4	安全・環境/通学の配慮	「いじめ等がないほうが勉強しやすい」、「部活は、みんなで協力できている部活になっていてほしい」、「家からの距離」等	3	4.3%

※　情報要求が大多数を占めますが、**少子化による学校統合や廃校が自分の進路に影響**することへの具体的な懸念が次に続いた。

高等学校、高等部の主な意見（n=45）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	非具体的意見/その他	「特にない」、「少子化が進んでいるが、高校は今後どうなっていくのかが知りたい」等	39	86.6%
2	少子化/統合による存続への懸念	「自分の母校がなくなるのではないかという不安がある」、「県南地区は、定員割れの高校がほとんど」、「県南地区の高校の PR をもっとしてほしい」、「過疎化が進んでいる」等	3	6.7%
3	施設老朽化/環境・校則の改善要望	「統合して新しい校舎にしてほしい」、「校舎の老朽化（ゴキブリ、異臭、冷房不可）」、「多様性に対応できる高校にしてほしい」等	3	6.7%

※　**少子化に伴う母校の存続に対する強い不安**と、**老朽化した施設・校則の改善**という、現役生ならではの具体的な問題意識が中心であった。

【参考資料】子どもからの意見聴取の結果　:（10）沿岸南部地区のこれからの県立高校の将来の姿

小学校、小学部の主な意見（n=37）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	非具体的意見/漠然とした回答	「わからない」、「特にない/なし」、「将来のことを考えている」等	13	35.1%
2	地元愛/近さ/現状維持（統合反対）	「高校は統合しないでほしい」、「現状維持がいい」、「できるだけ近い高校にいきたい」、「沿岸南部地区の高校に入りたい」、「陸前高田市内の校舎がきれいなので楽しく過ごしたい」等	11	29.7%
3	楽しい学校生活/部活/環境改善	「みんなと楽しく生活したい」、「部活の種類を増やしてほしい」等	7	18.9%
4	専門性/地域特有の学習	「地元の水産業について学習」、「東日本大震災についての学習」等	6	16.2%

※　**地元の高校への希望**や学校生活の楽しさを求める意見が多く、高校の将来像に関するテーマにもかかわらず、「わからない」「特にない」といった非具体的意見が約３分の１を占めた。

中学校、中学部の主な意見（n=128）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	情報要求/非具体的意見	「特にない/なし」、「将来の姿が気になる/知りたい」、「自分が住んでいる地域だから」等	66	51.6%
2	少子化/廃校への懸念	「人がいなくなり高校も無くなっていく」、「学校数が減り将来が制限される」等	17	13.3%
3	専門学科の維持/特色要望/削減反対	「食物文化科がなくなるのをどうにかしてほしい」、「海洋システム科は無くならないでほしい」、「食物文化科がなくなったら農芸科で頑張りたい」等	17	13.3%
4	統合後の進路・レベル・体制への懸念/学力向上	「統合後の進学/就職の区別」、「国公立大学に合格という考え方があってほしい」、「文武両道」、「定員割れが多い中で進学校に成績があまり良くない人の入学について」等	10	7.8%
5	交通手段/通学負担への要望	「通学が心配」、「定期代や寮費の補助を充実させるべき」等	9	7.0%
6	活気の維持/部活/地域交流	「部活の種類を増やしてほしい」、「校則の変更や制服の改善」、「地域との交流をもっと」等	9	7.0%

※　「特にない」という回答が最も多く、具体的な要望としては、**地元校の存続や学科の維持**、そして**通学に関する支援**が多く見られた。

高等学校、高等部の主な意見（n=50）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	存続への懸念（廃校不安）	「生徒数が目に見えて減っているのが心配」、「いつかは母校がなくなるのではないか」等	18	36.0%
2	再編反対と通学負担の懸念	「集約はやめてほしい」等	12	24.0%
3	専門学科の維持/特色教育	「海洋/家庭科の廃止は地域産業の空洞化につながる」、「地域探究科をもっと」等	8	16.0%
4	学力向上/進路支援（寮/特進）	「沿岸と内陸の学力差をなくす取り組みが必要」、「寮などの制度を充実させるべき」、「普通科の中に特進コースや理数科を設けては」等	8	16.0%
5	自己言及/その他	「自分が通っているから」、「通学の交通手段の時間が極端に限られている」等	4	8.0%

※　沿岸地区の**生徒数減少に伴う学校の存続への不安と、統合・再編による学習機会の損失**への懸念が強く表れた。

【参考資料】子どもからの意見聴取の結果　：（11）宮古地区のこれからの県立高校の将来の姿

小学校、小学部の主な意見（n=14）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	楽しさ/部活・人数への希望	「楽しく通える」、「宮古が好きだから」、「部活や授業のレベル」、「人数が多い高校がいい」等	6	42.9%
2	地元校存続/地域への学校設置/専門性要望	「岩泉高校を残してほしい」、「宮古に農業高校が欲しい」、「宮古水産高校で学び漁師になりたい」	5	35.7%
3	非具体的回答/将来への漠然とした関心・懸念	「特にありません」、「かっこいいから」、「学校が無くなったら困る」	3	21.4%

※　楽しさや部活動、そして**地元校の維持や学校設置を望む意見**が上位を占めた。このテーマも「わからない/なし」といった非具体的な回答が一定数を占めた。

中学校、中学部の主な意見（n=31）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	不明確な回答/その他	「将来の姿について知りたい」、「特にありません」、「環境整備して欲しい」、「地元が好き」等	10	32.3%
2	専門性/特色/魅力向上	「人が引き付けられるような学科」、「学べることの幅の拡大」、「偏差値が高い学校」等	9	29.0%
3	少子化/統合・廃校への懸念・反対/存続要望	「高校の数が減少していて心配」、「高校数が減り将来が制限される」、「統合しない方がいい」、「岩泉高校が閉校になるのか気になる」等	8	25.8%
4	交通手段/通学負担軽減の要望	「スクールバスの手配」、「通学支援」等	4	12.9%

※　テーマに関する情報要求や漠然とした関心が最も多かったものの、**専門学科の多様化や魅力創出**に関する具体的な要望も多く見られた。

高等学校、高等部の主な意見（n=26）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	少子化/廃校への懸念・維持要望	「生徒数が減っているため」、「学校が減るのか」、「宮古の学校がなくなってほしくない」等	8	30.8%
2	非具体的回答/自己言及	「特にない/なし」、「なんとなくで選んだ」、「自分が通っているところだから」	6	23.1%
3	再編による影響/通学負担	「統合により家から遠くなり通うのが大変」、「交通の不便が出るのではないか」等	5	19.2%
4	専門学科の維持/教育の質	「専門分野の高校を残して欲しい」、「学びの質が低下してしまわないか心配」等	3	11.5%
5	施設・環境/安全対策の要望	「津波対策をどうするのか」等	3	11.5%
6	学校数/定員調整の要望	「宮古高校の定員を減らした方が良い」等	2	7.7%

※　**少子化や統合に伴う学校の存続への強い懸念**と、非具体的な意見が二大テーマとなった。また、**再編による通学負担の増加や学びの質の低下**を心配する声が多く見られた。

【参考資料】子どもからの意見聴取の結果　：(12) 県北地区のこれからの県立高校の将来の姿

小学校、小学部の主な意見（n=76）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	非具体的意見/漠然とした回答	「わからない/なし/特になし」、「難しくてよくわからない」、「将来の姿について知りたい」等	50	65.8%
2	地元校の存続/再編への意見	「県北地区の高校はなくならないでください」、「種市高校はなくなってほしくない」等	7	9.2%
3	専門分野/学科/進学への希望	「大学に進学できるような高校に入りたい」、「専門高校を増やしてほしい」等	7	9.2%
4	格差是正/環境/自由化の要望	「岩手県もほかの県と同じ受験方法にしてほしい」、「自由な時間が多いといい」等	7	9.2%
5	部活動/スポーツ/活気の維持	「バスケ部があるところ」、「野球ができるところ」等	5	6.6%

※　テーマの難しさによる「わからない/なし」**将来の夢に直結する専門分野の学習**に関するものが中心であった。

中学校、中学部の主な意見（n=61）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	非具体的意見/漠然とした関心	「将来の姿について知りたい」、「これからどうなるか気になる」等	35	57.4%
2	少子化/統合・廃校への懸念と反対/存続要望	「高校がなくなってほしくない」、「伊保内高校を残してほしい」、「福岡高校を残してほしい」、「県北の学校は減らないでほしい」、「小規模だとしても残して欲しい」等	10	16.4%
3	専門性/進学校の要望	「県北地区に新しく進学校を建ててほしい」、「食物系列でまなびたい」等	7	11.5%
4	統合・再編に関する懸念/提言（合併/学科減）	「久慈高校と久慈翔北高校を統合して校舎を分けて行った方がよい」、「系列を減らすとその系列で学びたい人が学べなくなる」等	5	8.2%
5	環境改善/交流/その他提言	「他校との交流を増す」、「福岡高校の校舎をきれいにしてほしい」等	4	6.6%

※　将来の姿そのものへの情報要求や非具体的回答が半数以上を占めましたが、**具体的な学校の統合や廃校への反対意見**も多く寄せられた。

高等学校、高等部の主な意見（n=39）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	学校存続への懸念と情報要求	「学校がほとんど無くなってしまうのではないか心配」等	19	48.7%
2	地域校の存続/維持要望（高校・学科名含む）	「一つに集約せず、分校として町に一つの高校を維持し続けてほしい」、「少しでも多くの高校を残して欲しい」、「海洋開発科を無くして欲しくない」等	6	15.4%
3	非具体的/意見なし/その他	「特にありません/なし」、自分の出身だから、沿岸だから	5	12.8%
4	学力・教育の質向上/格差是正/入試制度の見直し	「盛岡との教育格差をなくしてほしい」、「定員割れだからと諦めず高等教育機関として相応しい教育をしてほしい」、「入学制度を工夫すべき」、「学区外制の枠を見直すべき」等	5	12.8%
5	施設改善/魅力向上/生徒確保策	「福岡高校の校舎が限界のため建て替え」、「いわて留学を実施すべき」等	4	10.3%

※　県北地区特有の**少子化による学校の存続への強い懸念**と、盛岡地区との教育格差の是正に関する具体的な提言が上位を占めた。

【参考資料】子どもからの意見聴取の結果　:（13）その他

小学校、小学部の主な意見（n=346）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	非具体的・意見なし/	「わからない」、「特にない」、「まだ考えていません」、「難しくてよくわからない」等	154	44.5%
2	部活動の強さ/種類/活発さ	「サッカーが強い高校に行きたい」、「野球ができる高校」、「スポーツ強豪校」等	77	22.3%
3	将来の夢/専門的な学科	「パティシエになれる学科」、「農業、工業を学びたい」、「デザイナーに関係する授業」等	54	15.6%
4	校則・自由化/制服/学習柔軟性	「制服可愛いところ」、「校則が厳しくない高校がいい」、「時間や場所を決められる学校」等	23	6.6%
5	県外/他校への関心/進学目的	「県外の学校に行きたい」、「仙台育英高等学校に行きたい」、「花巻東高校に入りたい」等	18	5.2%
6	高校の統合/学校数への意見	「高校を増やして欲しい」、「生徒数が少ない高校は統合させた方がいい」等	11	3.2%
7	安全・いじめ/人間関係/環境	「いじめがない高校がいい」、「安心して通学できる楽しい学校」等	9	2.6%

※　高校教育に対する情報不足や関心のなさ、および具体的な**将来の夢（部活・職業）に関する情報要求**が上位を占めた。

中学校、中学部の主な意見（n=193）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	非具体的・意見なし/不明確	「特にない/なし」、「よくわからない」、「もっと高校について知りたい」等	60	31.1%
2	部活動の強さ/種類/活発さ	「部活で決めたい」、「部活の強さ。全国レベル」、「部活動に興味がある」等	27	14.0%
3	将来/専門性/学習内容の要望/進路支援	「自分の進みたいことを全力でサポートしてくれる場所」、「大学に進学できる学校を増やしてほしい」、「声優科などの学科を多くして欲しい」、「天文学の専門学科があればいい」等	27	14.0%
4	施設・環境/安全/人間関係	「校舎を新しくしたほうがいい」、「人間関係が良好な場所」、「トイレのきれいさ」、「生徒一人一人の心のケアや意見を聞いてくれる先生」等	16	8.3%
5	入試制度/学力レベル/偏差値	「何点でどこの高校に入れるのかリアルな数字を知りたい」、「推薦をなくすのは未来を築く人の夢を奪っている」、「複数の高校を受験できる制度」等	12	6.2%
6	校則・制度の柔軟化/自由化/服装	校則を緩くしてほしい」、「意味の無い校則の見直し」、「リボンとネクタイ、ズボンとスカートから好きな組み合わせを選べるようにして欲しい」等	10	5.2%
7	交通/通学負担/距離の改善	「登下校が大変な人と大変じゃない人の差をなくしてほしい」、「学校を近くして欲しい」、「経済的に心配になる」（交通費、送迎）等	10	5.2%
8	学校統合/生徒数減少への懸念	「高校の数を減らさないでほしい」、「統廃合により、それぞれの学校の特徴的な学科がなくなり、ますます生徒数減少が進行してしまうのではないか」、「統合をしないで欲しい」等	10	5.2%
9	県外校/他校への関心	「県外の高校について関心がある」、「宮城/八戸の高校で部活を頑張りたい」等	8	4.1%

※　この自由記入欄においても「特にない/わからない」という非具体的回答が最も多くを占めた。具体的な関心事としては、**将来の進路に関する情報要求**が高い傾向が見られた。

高等学校、高等部の主な意見（n=81）

順位	意見	主な意見内容の例（意見の多い順）	意見数	割合
1	非具体的・意見なし/情報要求	「特にない/なし」、「何も知らないから」、「意見はまとまっていません」等	27	33.3%
2	校則・服装・制度の自由化/提言	「髪の毛に関する校則はいらない」、「髪染めとかピアスを全面 OK にして欲しい」、「服装の規則が緩くなって欲しい」、「バイクの免許を取らせて欲しい」、「バイトを許可」等	11	13.6%
3	学科/教育内容/進路（専門性質）	「それぞれの高校から科をなくしていくのはやめてほしい」、「学力の向上」、「大学のような専門的な自分の学びたいことを学びたい」等	11	13.6%
4	その他（地元配慮，心理士，教師の質など）	「県外からの留学生のお世話をする前に地元の子に手をまわし、大事にするべき」、「先生の質が悪い」、「心理士やカウンセラーを重要視する必要がある。」等	8	9.9%
5	交通/通学負担の軽減	「家で勉強できる時間が人によって異なっていること」、「下校時間のバスの本数をもう少し増やして欲しい」、「バス通学が容易になってほしい」等	7	8.6%
6	学校統合/廃校/少子化への懸念	「高校統合がある中でこれからどんな風に岩手県の高校が変わっていくのか気になる」、「自分が通っている高校が無くなってしまうのは嫌」、「廃校後の使用方法が気になる」等	7	8.6%
7	部活動/行事/交流	「高校同士の関わりを増やしたらいいと思う」、「部活動の在り方はどのように変化するのか気になる」、「行事が盛り上がるには生徒数が多くないと」等	6	7.4%
8	施設・設備/環境改善	「学校を綺麗にしてほしい。トイレが臭うし、狭い」、「設備が綺麗であるか」等	2	2.5%
9	休暇/遠隔授業	「長期休暇なのに短い」、「遠隔授業とか入れてもいいと思う」等	2	2.5%

※　「特にない/関心がない」という意見と、**校則や服装などの制度的な自由化を求める**具体的な意見が上位を占めた

事務報告６

いわて留学セミナーの開催について

10 月 31 日に開催するいわて留学セミナーについて、別紙のとおり報告いたします。

令和７年 10 月 20 日

いわて留学セミナーの開催について

1　開催趣旨

県内各市町村の担当者を対象に、小規模校維持等に向けた高校魅力化を推進する取組等について、県内外の事例提供やパネルディスカッションを通じて理解を深めることで、県立高校と地域の継続的・自律的な取組につなげることを目的に開催するもの。

2　開催期日・場所

令和７年 10 月 31 日（金）13：30～16：40　サンセール盛岡　３階鳳凰

3　参加者

- **市町村担当者　60 人程度（教育委員会のみならず、首長部局の職員も対象）　←メインターゲット**
- 県立学校長等　10 人程度（いわて留学実施校等のうち、希望する者）
- 事務局　15 人程度（教育長、教育局長、教育次長兼学校教育室長、教育委員、学校教育室職員）
- その他　知事部局（ふるさと振興部等）数名、報道関係者

※　マスコミ公開での開催とするもの。(10/20 教育委員会議了後に記者クラブ投げ込み予定)

※　セミナーの様子について、後日、市町村及び県立学校職員を対象にオンデマンド配信を予定

4　プログラム

13：00-13：30　開場・受付

13：30-13：40　開会行事

13：40-14：40　**基調講演**

岩本　悠　氏（ＰＦ代表理事、中央教育審議会委員）

14：40-15：10　**全国事例紹介**（ＰＦ）

15：10-15：30　休憩

15：30-16：30　**事例紹介・パネルディスカッション**

・葛巻町教育委員会	**こども教育課　課長補佐**	**遠藤　香津良**	**氏**
・住田町教育委員会	**教育次長**	**多田　裕一**	**氏**
・ファシリテーター		岩本　悠	氏
	（魅力化アドバイザー）	小野寺　綾	氏

16：30-16：40 閉会行事

※閉会後に**個別相談会**を実施（市町村→ＰＦ）≪事前希望制≫

5　教育委員の皆様の御出席について

御出席いただける場合は、当日、13：30 までに会場までお越しくださるようお願いいたします。

いわて留学セミナー

県内各市町村の担当者を対象に、小規模校維持に向けた高校魅力化を推進する取組等について、県内外の事例提供やパネルディスカッションを通じて理解を深めることで、県立高校と地域の継続的，自律的な取組につなげることを目的に開催するもの。

日時

令和７年
10月31日（金）13:30～16:40
（開場13:00～）

開催場所

サンセール盛岡　3階鳳凰の間
盛岡市志家町1-10

申込方法

左記の二次元コードよりお申込みください。
定員：60名（後日オンデマンド配信を予定しています。）

※申込締切：10月17日（金）

講師

・一般財団法人
地域・教育魅力化プラットフォーム
代表理事
・文部科学省中央教育審議会委員
岩本　悠 氏

主催・共催

主催：岩手県教育委員会　共催：（一財）地域・教育魅力化プラットフォーム

お問合せ先

岩手県教育委員会事務局　学校教育室　高校改革担当
019-629-6206
DB0003@pref.iwate.jp

タイムスケジュール

13:00-13:30　開場・受付

13:30-13:40　開会行事

13:40-14:40　基調講演

講師
・一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム
代表理事
・文部科学省中央教育審議会委員
岩本　悠氏

14:40-15:10　全国事例紹介

15:30-16:30　事例紹介・パネルディスカッション

パネリスト
葛巻町教育委員会事務局
こども教育課　課長補佐
遠藤　香津良氏

パネリスト
岩手県教育委員会魅力化アドバイザー
小野寺　綾氏

パネリスト
住田町教育委員会教育次長
多田　裕一氏

ファシリテーター
・一般財団法人
地域・教育魅力化プラットフォーム
代表理事
・文部科学省中央教育審議会委員
岩本　悠氏

16:30-16:40　閉会行事

16:40-　個別相談会

議案第14号

岩手県立高等学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則

岩手県立高等学校の管理運営に関する規則（昭和32年岩手県教育委員会規則第３号）の一部を次のように改正する。

改正前

別表第１　高等学校の全日制の課程、定時制の課程及び通信制の課程の学級編制（第３条関係）

学校名	区分	全日制の課程		定時制の課程		通信制の課程	
		学科名	学級数	学科名	学級数	学科名	学級数
［略］							
岩手県立南昌みらい高等学校		普通科 体育科	28 2	［略］			
［略］							
岩手県立北上翔南高等学校		総合学科	14	［略］			
［略］							
岩手県立西和賀高等学校		普通科	4	［略］			
［略］							
岩手県立前沢高等学校		普通科	4	［略］			
岩手県立金ケ崎高等学校		普通科	6	［略］			
［略］							
岩手県立大東高等学校		普通科 ［略］	6 ［略］	［略］			
［略］							

改正後

別表第１　高等学校の全日制の課程、定時制の課程及び通信制の課程の学級編制（第３条関係）

学校名	区分	全日制の課程		定時制の課程		通信制の課程	
		学科名	学級数	学科名	学級数	学科名	学級数
［略］							
岩手県立南昌みらい高等学校		普通科 体育科	26 1	［略］			
［略］							
岩手県立北上翔南高等学校		総合学科	13	［略］			
［略］							
岩手県立西和賀高等学校		普通科	5	［略］			
［略］							
岩手県立前沢高等学校		普通科	3	［略］			
岩手県立金ケ崎高等学校		普通科	5	［略］			
［略］							
岩手県立大東高等学校		普通科 ［略］	5 ［略］	［略］			
［略］							

岩手県立大槌高等学校		普通科 地域探究科	2 4	［略］
［略］				
岩手県立久慈翔北高等学校		電子機械科 工業科 建設環境科 ［略］	2 1 2 ［略］	［略］
［略］				
岩手県立軽米高等学校		普通科	6	［略］
［略］				
岩手県立福岡高等学校		普通科	12	［略］
［略］				

備考１　［略］

２　岩手県立大槌高等学校の普通科については、令和６年度以後の入学に係る生徒の募集を停止する。

３　［略］

岩手県立大槌高等学校		地域探究科	6	［略］
［略］				
岩手県立久慈翔北高等学校		電子機械科 工業科 建設環境科 ［略］	1 2 1 ［略］	［略］
［略］				
岩手県立軽米高等学校		普通科	5	［略］
［略］				
岩手県立福岡高等学校		普通科	11	［略］
［略］				

備考１　［略］

２　［略］

備考　改正部分は、下線の部分である。

附　則

この規則は、令和８年４月１日から施行する。

岩手県立高等学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則案要綱

第１　改正の趣旨

岩手県立学校設置条例の一部改正に伴い、県立高等学校の学科の廃止について所要の改正をするとともに、県立高等学校の学級数について定めようとするものである。

第２　規則案の内容

１　県立高等学校の学科の廃止に伴い、次の学科を削ること。（別表第１関係）

学校名	区　分	課　程	学科名	学級数
岩手県立大槌高等学校		全日制	普通科	2

２　県立高等学校の学級数を次のとおり改めること。（別表第１関係）

学校名	区　分	課　程	学科名	学級数	
				現行	改正後
岩手県立南昌みらい高等学校		全日制	普通科	28	26
		全日制	体育科	2	1
岩手県立北上翔南高等学校		全日制	総合学科	14	13
岩手県立西和賀高等学校		全日制	普通科	4	5
岩手県立前沢高等学校		全日制	普通科	4	3
岩手県立金ケ崎高等学校		全日制	普通科	6	5
岩手県立大東高等学校		全日制	普通科	6	5
岩手県立大槌高等学校		全日制	地域探究科	4	6
岩手県立久慈翔北高等学校		全日制	電子機械科	2	1
		全日制	工業科	1	2
		全日制	建設環境科	2	1
岩手県立軽米高等学校		全日制	普通科	6	5
岩手県立福岡高等学校		全日制	普通科	12	11

３　備考の改正

令和６年度以後の募集を停止していた岩手県立大槌高等学校の普通科の廃止に伴い、別表第１の備考２の記載を削り、備考３を備考２とすること。（別表第１関係）

第３　施行期日

この規則は、令和８年４月１日から施行すること。（附則関係）

令 和 8 年 度

県立学校の編制について

岩 手 県 教 育 委 員 会

Ⅰ　令和８年度 県立高等学校の編制について

１　課程別・学科別募集学級数及び募集定員

令和８年度の課程別・学科別募集学級数及び募集定員の状況は、次の表のとおりである。

区分			募集学級数			募集定員		
			７年度	８年度	差	７年度	８年度	差
県立高等学校	全日制	普通科・理数科	122	118	▲４	4,880	4,720	▲160
		職業に関する学科	68	68	0	2,720	2,720	0
		総合学科	23	23	0	920	920	0
		小計	213	209	▲４	8,520	8,360	▲160
	定時制	普通科	13	13	0	520	520	0
		職業に関する学科	1	1	0	40	40	0
		小計	14	14	0	560	560	0
合計			227	223	▲４	9,080	8,920	▲160

２　ブロック別募集学級数増減

令和８年度のブロック別募集学級数増減の状況は、次の表のとおりである。

ﾌﾞﾛｯｸ	募集学級数 Ｒ７→Ｒ８	令和８年度募集学級数		学　校　名	令和７年度設置学科及び募集学級数	令和８年度設置学科及び募集学級数	令和８年度募集学級数増減		
		全日制	定時制				学　　科	増	減
盛岡	７０→７０	６５	５	(該当なし)					
岩手中部	３７→３７	３７	０	(該当なし)					
胆江	２３→２２	２０	２	金　ケ　崎	普　　通　２	普　　通　１	普　　通		▲１
両磐	２３→２２	２１	１	大　　東	普　　通　２ 情報ビジネス　１	普　　通　１ 情報ビジネス　１	普　　通		▲１
気仙	１４→１４	１３	１	(該当なし)					
釜石・遠野	１５→１５	１４	１	(該当なし)					
宮古	１７→１７	１６	１	(該当なし)					
久慈	１５→１５	１３	２	(該当なし)					
二戸	１３→１１	１０	１	軽　　米	普　　通　２	普　　通　１	普　　通		▲１
				福　　岡	普　　通　４	普　　通　３	普　　通		▲１
合計	２２７ → ２２３	２０９	１４				普通 普通・理数 農業 工業 商業 水産 家庭 総合 定時制		▲４
							計	０	▲４

３　学科改編

令和８年度における学科改編はない。

４　学校再編

令和８年度における再編を計画した高等学校はない。

５　年次進行に伴う県立高等学校の分校、課程及び学科の廃止（岩手県立学校設置条例該当事項）

令和６年度から募集を停止しており、令和７年度をもって令和５年度入学生が卒業する学科について、令和８年度に廃止しようとするものである。

地区 （位置）	学 校 名 （課程）	設置学科（学級数）			
		R5	R6	R7	R8
沿岸南部 （大槌）	大槌高校 （全日制）	普通科(6)	**普通科(4)** 地域探究科(2)	**普通科(2)** 地域探究科(4)	地域探究科(6)

Ⅱ　令和８年度 県立特別支援学校の編制について

１　令和８年度における設置を予定している県立特別支援学校の状況は、次の表のとおりとする。

学校名	区分	教育の 対象者	開設 学部	課程	学科	修業年限	理　由
二戸北星 支援学校	本校	知的障がい 肢体不自由	小学部			６年	特別支援学校未設置地区であった二戸地区に新たに設置しようとするものである。
			中学部			３年	
			高等部	全日制	普通	３年	
	奥中山校		小学部			６年	これまで盛岡みたけ支援学校の分校としていたが、地域特性を踏まえた学校運営を行うため、新設校の分校として設置しようとするものである。
			中学部			３年	

２　令和８年度における廃止を予定している県立特別支援学校の状況は、次の表のとおりとする。

学校名	区分	教育の対象者	開設学部	課程	学科	修業年限	理　由
盛岡みたけ支援学校	奥中山校	知的障がい肢体不自由	小学部			６年	これまで盛岡みたけ支援学校の分校としていたが、地域特性を踏まえた学校運営を行うため、新設校の分校として設置するために廃止しようとするものである。
			中学部			３年	

令 和 7 年 度

県立学校の編制について

岩 手 県 教 育 委 員 会

Ⅰ　令和７年度 県立高等学校の編制について

１　課程別・学科別募集学級数及び募集定員

令和７年度の課程別・学科別募集学級数及び募集定員の状況は、次の表のとおりである。

区分			募集学級数			募集定員		
			６年度	７年度	差	６年度	７年度	差
県立高等学校	全日制	普通科・理数科・体育科	124	122	▲２	4,960	4,880	▲80
		職業に関する学科	69	68	▲１	2,760	2,720	▲40
		総合学科	24	23	▲１	960	920	▲40
		小計	217	213	▲４	8,680	8,520	▲160
	定時制	普通科	13	13	0	520	520	0
		職業に関する学科	1	1	0	40	40	0
		小計	14	14	0	560	560	0
合計			231	227	▲４	9,240	9,080	▲160

２　ブロック別募集学級数増減

令和７年度のブロック別募集学級数増減の状況は、次の表のとおりである。

ブロック	募集学級数 Ｒ６→Ｒ７	令和7年度募集学級数		学校名	令和６年度設置学科及び募集学級数	令和７年度設置学科及び募集学級数	令和７年度募集学級数増減		
		全日制	定時制				学科	増	減
盛岡	７３→７０	６５	５	盛岡南	普通　４ 体育　１		普通 体育		▲４ ▲１
				不来方	普通　６		普通		▲６
				南昌みらい		普通　８	普通	８	
岩手中部	３７→３７	３７	０	北上翔南	総合　５	総合　４	総合		▲１
				西和賀	普通　１	普通　２	普通	１	
胆江	２３→２３	２１	２	(該当なし)					
両磐	２３→２３	２２	１	(該当なし)					
気仙	１４→１４	１３	１	(該当なし)					
釜石・遠野	１５→１５	１４	１	(該当なし)					
宮古	１７→１７	１６	１	(該当なし)					
久慈	１６→１５	１３	２	久慈東	総合　５		総合		▲５
				久慈工業	電子機械　１ 建設環境　１		電子機械 建設環境		▲１ ▲１
				久慈翔北		工業　１ 総合　５	工業 総合	１ ５	
二戸	１３→１３	１２	１	(該当なし)					
合計	２３１ → ２２７	２１３	１４				普通 普通・理数 体育 農業 工業 商業 水産 家庭 総合 定時制	９ １ ５	▲１０ ▲１ ▲２ ▲６
							計	１５	▲１９

３　学科改編

令和７年度における学科改編はない。

４　学校再編

新たな県立高等学校再編計画後期計画で、令和７年度の改編を計画した県立高校の状況は、次の表のとおりである。

ﾌﾞﾛｯｸ （位置）	学　校　名	現　　行	改編内容	改編の目的
盛岡 （盛岡市及び矢巾町）※	南昌みらい高校	盛岡南高校 普　　通　4 体　　育　1 不来方高校 普　　通　6	【統合】 南昌みらい高校 普　　通　8	盛岡南高校、不来方高校を統合することにより、単位制や総合選択制を取り入れた教育課程の実践及びスケールメリットを生かした学校活動や部活動のより一層の活性化をし、盛岡ブロックにおける特色ある学習活動等に取り組む大規模校を整備するものである。
久慈 （久慈市及び野田村）	久慈翔北高校	久慈東高校 総　　合　5 久慈工業高校 電子機械　1 建設環境　1	【統合】 久慈翔北高校 工　　業　1 総　　合　5	久慈東高校、久慈工業高校を統合することにより、工業の複数の学びの確保及び総合学科の多様な学びを維持し、久慈ブロックの将来を見据えた専門教育の拠点となる学校を整備するものである。

※南昌みらい高校の位置は矢巾町

５　年次進行に伴う県立高等学校の分校、課程及び学科の廃止（岩手県立学校設置条例該当事項）

令和７年度における県立高等学校の分校、課程及び学科の廃止はない。

Ⅱ　令和７年度 県立特別支援学校の編制について

令和７年度における県立特別支援学校の課程及び学科の変更はない。

令和6年度　県立学校の編制について

岩 手 県 教 育 委 員 会

Ⅰ　令和６年度 県立高等学校の編制について

１　課程別・学科別募集学級数及び募集定員

令和６年度の課程別・学科別募集学級数及び募集定員の状況は、次の表のとおりである。

区分			募集学級数			募集定員		
			５年度	６年度	差	５年度	６年度	差
県立高等学校	全日制	普通科・理数科・体育科	125	124	▲1	5,000	4,960	▲40
		職業に関する学科	69	69	0	2,760	2,760	0
		総合学科	24	24	0	960	960	0
		小計	218	217	▲1	8,720	8,680	▲40
	定時制	普通科	13	13	0	520	520	0
		職業に関する学科	1	1	0	40	40	0
		小計	14	14	0	560	560	0
合計			232	231	▲1	9,280	9,240	▲40

２　ブロック別募集学級数増減

令和６年度のブロック別募集学級数増減の状況は、次の表のとおりである。

ﾌﾞﾛｯｸ	募集学級数 (全日制、定時制)	学　校　名	令和５年度設置学科及び募集学級数	令和６年度設置学科及び募集学級数	令和６年度募集学級数増減		
					学　　科	増	減
盛岡	７３→７３ (全68、定5)	(該当なし)					
岩手中部	３７→３７ (全37、定0)	(該当なし)					
胆江	２４→２３ (全21、定2)	前　　沢	普通(普通)　2	普通(普通)　1	普通(普通)		▲1
両磐	２３→２３ (全22、定1)	(該当なし)					
気仙	１４→１４ (全13、定1)	(該当なし)					
釜石・遠野	１５→１５ (全14、定1)	大　　槌	普通(普通)　2	普通(地域探究)　2	普通(普通) 普通(地域探究)	 2	▲2
宮古	１７→１７ (全16、定1)	(該当なし)					
久慈	１６→１６ (全14、定2)	(該当なし)					
二戸	１３→１３ (全12、定1)	福岡工業	工業(機械ｼｽﾃﾑ)　1 工業(電気情報ｼｽﾃﾑ)　1				▲1 ▲1
		一　　戸	総　　合　　3				▲3
		北　　桜		工業(機械ｼｽﾃﾑ)　1 工業(電気情報ｼｽﾃﾑ)　1 総　　合　　3		1 1 3	
合計	２３２ → ２３１ (全217, 定14)				普通 普通・理数 体育 農業 工業 商業 水産 家庭 総合 定時制	2 2 3	▲3 ▲2 ▲3
					計	7	▲8

３　学科改編

令和６年度の学科改編の状況は、次の表のとおりである。

ﾌﾞﾛｯｸ	学　校　名	令和５年度設置学科及び募集学級数	令和６年度設置学科及び募集学級数	理　由
釜石・遠野	大槌高校	普　　通　　２	地域探究　　２	「普通教育を主とする学科」の弾力化（普通科改革）に基づき、大槌高校が目指す地域社会の魅力や課題等をテーマとした探究的な学びを通して、地域と協働しながら主体的に課題解決に向けて取り組む人材の育成や、変化の激しい時代を生きていくために必要な資質・能力等を育成する特色ある学びに応じた学科へ改編するものである。

４　学校再編

新たな県立高等学校再編計画後期計画で、令和６年度の改編を計画した県立高校の状況は、次の表のとおりである。

ﾌﾞﾛｯｸ（位置）	学　校　名	現　　行	改編内容	改編の目的
二戸（二戸市及び一戸町）	北桜高校	福岡工業高校 機械ｼｽﾃﾑ　１ 電気情報ｼｽﾃﾑ　１ 一戸高校 総　　合　３	【統合】 北桜高校 機械ｼｽﾃﾑ　１ 電気情報ｼｽﾃﾑ　１ 総　　合　３	福岡工業高校、一戸高校を統合することにより、専門分野に関する特色ある学科等の機能を維持しながら、二戸ブロックの専門教育の拠点となる学校を整備するものである。

５　年次進行に伴う県立高等学校の分校、課程及び学科の廃止
（岩手県立学校設置条例該当事項）

令和６年度における県立高等学校の分校、課程及び学科の廃止はない。

Ⅱ　令和６年度 県立特別支援学校の編制について

令和６年度に、県立特別支援学校の課程及び学科の変更はない。

議案第15号

岩手県立特別支援学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則

岩手県立特別支援学校の管理運営に関する規則（昭和32年岩手県教育委員会規則第４号）の一部を次のように改正する。

<table>
<tr><th>改正前</th><th>改正後</th></tr>
<tr><td>
別表（第２条関係）
<table>
<tr><th>学校名</th><th>区分</th><th>教育の対象者</th><th>部</th><th>課程等</th><th>学　科</th><th>修業年限</th></tr>
<tr><td colspan="7">［略］</td></tr>
<tr><td rowspan="3">岩手県立盛岡みたけ支援学校</td><td>本校</td><td colspan="5">［略］</td></tr>
<tr><td rowspan="2">奥中山校</td><td rowspan="2">知的障害者
肢体不自由者</td><td>小学部</td><td></td><td></td><td>６年</td></tr>
<tr><td>中学部</td><td></td><td></td><td>３年</td></tr>
<tr><td colspan="7">［略］</td></tr>
<tr><td>岩手県立久慈拓陽支援学校</td><td colspan="6">［略］</td></tr>
</table>
［略］
</td><td>
別表（第２条関係）
<table>
<tr><th>学校名</th><th>区分</th><th>教育の対象者</th><th>部</th><th>課程等</th><th>学　科</th><th>修業年限</th></tr>
<tr><td colspan="7">［略］</td></tr>
<tr><td>岩手県立盛岡みたけ支援学校</td><td></td><td colspan="5">［略］</td></tr>
<tr><td colspan="7">［略］</td></tr>
<tr><td>岩手県立久慈拓陽支援学校</td><td colspan="6">［略］</td></tr>
<tr><td rowspan="5">岩手県立二戸北星支援学校</td><td rowspan="3">本校</td><td rowspan="3">知的障害者
肢体不自由者</td><td>小学部</td><td></td><td></td><td>６年</td></tr>
<tr><td>中学部</td><td></td><td></td><td>３年</td></tr>
<tr><td>高等部</td><td>全日制</td><td>普通科</td><td>３年</td></tr>
<tr><td rowspan="2">奥中山校</td><td rowspan="2">知的障害者
肢体不自由者</td><td>小学部</td><td></td><td></td><td>６年</td></tr>
<tr><td>中学部</td><td></td><td></td><td>３年</td></tr>
</table>
［略］
</td></tr>
<tr><td colspan="2">備考　改正部分は、下線の部分である。</td></tr>
</table>

附　則

この規則は、令和８年４月１日から施行する。

令和７年10月20日提出

岩手県教育委員会教育長　佐　藤　一　男

理由

岩手県立学校設置条例の一部改正に伴い、岩手県立二戸北星支援学校の修業年限を定める等所要の改正をしようとするものである。これが、この規則案を提出する理由である。

岩手県立特別支援学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則案要綱

１　改正の趣旨

岩手県立学校設置条例の一部改正に伴い、岩手県立二戸北星支援学校の修業年限を定める等所要の改正をしようとするものである。

２　岩手県立学校設置条例の一部改正

二戸地区の特別支援学校として新たに岩手県立二戸北星支援学校を設置し、岩手県立盛岡みたけ支援学校奥中山校を廃止することとして、令和７年６月議会において、岩手県立学校設置条例（昭和 32 年岩手県条例第 11 号。以下「条例」という。）の一部を改正したものである。（詳細は別添のとおり）

３　規則改正の内容

（１）　岩手県立二戸北星支援学校の修業年限等を定めること。（別表関係）

条例の一部改正に伴い、特別支援学校の部科課程別の修業年限及び収容定員について定めている岩手県立特別支援学校の管理運営に関する規則（昭和 32 年岩手県教育委員会規則第４号）別表を改め、岩手県立二戸北星支援学校（本校・奥中山校）の修業年限等を次のとおり定めるものである。規定位置については、条例における規定順と同様に岩手県立久慈拓陽支援学校の次とする。

学校名	区　分	教育の対象者	部	課程等	学　科	修業年限
岩手県立二戸北星支援学校	本校	知的障害者 肢体不自由者	小学部			６年
			中学部			３年
			高等部	全日制	普通科	３年
	奥中山校	知的障害者 肢体不自由者	小学部			６年
			中学部			３年

※　収容定員は、別に定めている。

（２）　岩手県立盛岡みたけ支援学校奥中山校を削ること。（別表関係）

岩手県立盛岡みたけ支援学校奥中山校は、新設される岩手県立二戸北星支援学校の分校となるため、別表から削るものである。

４　施行期日

この規則は、令和８年４月１日（条例の一部改正の施行日）から施行すること。（附則関係）

岩手県立学校設置条例の一部を改正する条例をここに公布する。

令和７年７月14日

岩手県知事　達　増　拓　也

岩手県条例第62号

岩手県立学校設置条例の一部を改正する条例

岩手県立学校設置条例（昭和32年岩手県条例第11号）の一部を次のように改正する。

<table>
<tr><th>改正前</th><th>改正後</th></tr>
<tr><td>
（特別支援学校）
第３条　県立の特別支援学校を次のとおり設置する。
<table>
<tr><th>名　称</th><th>区　分</th><th>部</th><th>課程等</th><th>学　科</th><th>位　置</th></tr>
<tr><td colspan="6">［略］</td></tr>
<tr><td rowspan="3">岩手県立盛岡みたけ支援学校</td><td>本校</td><td colspan="4">［略］</td></tr>
<tr><td rowspan="2">奥中山校</td><td>小学部</td><td></td><td></td><td rowspan="2">二戸郡一戸町</td></tr>
<tr><td>中学部</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="6">［略］</td></tr>
<tr><td>岩手県立久慈拓陽支援学校</td><td colspan="5">［略］</td></tr>
</table>
</td><td>
（特別支援学校）
第３条　県立の特別支援学校を次のとおり設置する。
<table>
<tr><th>名　称</th><th>区　分</th><th>部</th><th>課程等</th><th>学　科</th><th>位　置</th></tr>
<tr><td colspan="6">［略］</td></tr>
<tr><td>岩手県立盛岡みたけ支援学校</td><td></td><td colspan="4">［略］</td></tr>
<tr><td colspan="6">［略］</td></tr>
<tr><td>岩手県立久慈拓陽支援学校</td><td colspan="5">［略］</td></tr>
<tr><td rowspan="5">岩手県立二戸北星支援学校</td><td rowspan="3">本校</td><td>小学部</td><td></td><td></td><td rowspan="3">二戸市</td></tr>
<tr><td>中学部</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>高等部</td><td>全日制</td><td>普通科</td></tr>
<tr><td rowspan="2">奥中山校</td><td>小学部</td><td></td><td></td><td rowspan="2">二戸郡一戸町</td></tr>
<tr><td>中学部</td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td colspan="2">備考　改正部分は、下線の部分である。</td></tr>
</table>

附　則

この条例は、令和８年４月１日から施行する。

別紙１

岩手県立学校設置条例の一部改正について

１　改正の内容及び理由等

（１）　岩手県立特別支援学校整備計画について

県教育委員会では、平成 19 年度から平成 22 年度までの４年間、前計画である「県立特別支援学校（盲・聾・養護学校）再編整備計画」において、「広大な県土、自宅通学生の増加、障がいの重度・重複・多様化を踏まえ、特別支援学校（盲・聾・養護学校）を適正規模で適正に配置すること。」、「知的障がいと肢体不自由など複数の障がいに対応できる学校の設置を検討すること。」、「すべての特別支援学校（盲・聾・養護学校）に高等部を設置すること。」等を主とする内容により、整備を進めてきた。

その後も特別支援学校に在籍する児童生徒数の増加や障がいの程度、児童生徒のニーズの多様化に対応するため、新たな計画を策定し、引き続き整備に取り組むこととしていたが、国のインクルーシブ教育システムを進めることを主旨とした制度改革に関する検討が始まり、特別支援学校の長期的な姿を見通すことが困難な状況となったことや、平成 23 年３月の東日本大震災津波の発生により特別支援学校整備計画の策定を中断し、それ以降、喫緊の諸課題について順次対応してきたところである。

県教育委員会では、前計画である「県立特別支援学校（盲・聾・養護学校）再編整備計画」の計画期間の終了から 10 年が経過し、**特別支援教育を取り巻く状況の変化により、特別支援学校の整備推進について、これまでの取組の成果と課題を整理しながら計画的に進める必要がある**と判断し、平成 31 年３月に策定した「いわて県民計画」、「岩手県教育振興計画」及び「いわて特別支援教育推進プラン」において、特別支援学校の整備計画の策定について明記し進めることとし、**令和３年５月**に「**岩手県立特別支援学校整備計画（令和３年度から令和 10 年度までの計画）**」（以下「整備計画」という。）**を策定**した。

当該整備計画は、特別支援学校の現状と県内各地域の実情を見直し整備するとともに、特別支援学校のあるべき姿を念頭に、**特別支援学校における校舎の狭隘化や老朽化、児童生徒の障がいの多様化等に伴う課題を解決し、児童生徒等が安全に安心して学べるよう、全県的な特別支援学校の教育環境を整備**していくことを目標に策定したものである。

（２）　二戸地区への特別支援学校の設置について

県教育委員会では、整備計画に基づく整備内容として「特別支援学校未設置地区における小中高等部一貫の特別支援学校の設置」を掲げており、小中高等部一体型の県立特別支援学校が未設置となっている二戸地区において、小中高等部一体型の新設校設置の整備を進めているところである。

＜整備計画記載内容（抜粋）＞

二戸地区については、**小・中・高等部一体型の県立特別支援学校が未設置**となっており、これまで分教室を開室して対応してきましたが、開室当初に比べ分教室や当該中学校の児童生徒が増加し狭隘化が著しいため、これらの解消が求められています。**点在している分教室を一貫校として集約し、狭隘化の中での教育活動の改善を図り、より質の高い教育を受けられるようにする**とともに、地域における特別支援教育の拠点としての更なるセンター的機能の充実に向けて、**本計画期間中に可能な限り早期の開校を目指します。**

（３）　**岩手県立二戸北星支援学校を設置することについて（第３条関係）**

ア　現状

県内には現在 17 校の特別支援学校（県立 15 本分校、国立１校、私立１校）が設置されている（別紙２）が、二戸地区には小・中・高等部一体型の特別支援学校が未設置のため、市町からの設置要望に応じて、下記のとおり分教室を開設して対応している。

＜岩手県立盛岡みたけ支援学校二戸分教室＞

・　小学部：二戸市立石切所小学校内に設置（平成 21 年４月開設）
・　中学部：二戸市立福岡中学校内に設置（平成 25 年４月開設）
・　高等部：岩手県立福岡工業高等学校内（※）に設置（平成 28 年４月開設）

※　現在は統廃合により岩手県立北桜高等学校工業校舎

イ　新たに設置する特別支援学校

整備計画に基づき、二戸地区に小・中・高等部一体型の県立特別支援学校を設置するものである。**新設する特別支援学校は、**現在、**北桜高校工業校舎内に設置している高等部がある敷地に、点在している小学部（石切所小）及び中学部（福岡中）を集約して小中学部棟を整備**し、北桜高校工業校舎と渡り廊下で繋ぐことで、**小中高等部一体型の特別支援学校とする**ものである。

また、本県では初となる、同一敷地内に**高校と特別支援学校が設置**されることとなり、両者間の交流及び共同学習等を通じた、**インクルーシブな学校運営のモデルとなることを想定**しているものである。

なお、特別支援学校の**就学対象**は、**知的障がい及び肢体不自由のある児童生徒**であり、通学区域は、二戸市、軽米町、九戸村、一戸町等を想定している。

ウ　新設校の校名及び開校時期等

・校　　名：**岩手県立二戸北星支援学校**
・区　　分：本校
・開校時期：令和８年４月
・学部等　：小学部（６学年）
　　中学部（３学年）
　　高等部（３学年）：全日制、普通科
・位　　置：二戸市
・児童生徒数（見込）
　小学部：12 名、中学部：10 名、高等部：19 名　計：41 名
　※　二戸分教室における過去の新入生の人数、現在の在籍児童生徒数により令和８年度の児童生徒見込数を積算したもの
・教職員数（見込）
　50～55 名（校長、副校長（小中学部１名、高等部１名）、教諭、養護教諭、栄養教諭、実習教諭、介助員、事務職員、学校技術員、講師、非常勤講師　等）
　※　同規模程度の支援学校の教職員数により積算したもの

エ　施設の概要

施設名	小中学部校舎・渡り廊下	
	構造等	延床面積
校舎	鉄筋コンクリート造２階建	3,275.59 ㎡
渡り廊下１	鉄骨造平屋建	47.81 ㎡
渡り廊下２	鉄骨造２階建（地上１階部分ピロティ）	80.21 ㎡
車庫	鉄骨造平屋建	72.00 ㎡

オ　学校名

二戸地域に新設する特別支援学校であり、岩手県北の二戸地域（二戸市、軽米町、九戸村、一戸町、旧浄法寺町）の愛称である「カシオペア連邦」の星のように、県北の子どもたちが手と手を取り合い、一人一人が輝ける学校になってほしいという願いを込めた。また、県北地区に設置されること、北桜高校の敷地内に設置されること、カシオペア座が北の空に輝く星であることから、「北」の字を用いた。

＜校名について＞

校名（案）を県民から公募し、35 件の応募があり、県北地区特別支援学校新設校設置推進会議において検討した結果、「岩手県立二戸北星支援学校」としたものである。

カ　規定位置

各教育事務所の管内の区分ごとに、学校の設置地域により規定しており、岩手県立二戸北星支援学校（二戸市）は、岩手県立久慈拓陽支援学校（久慈市）の次の位置に規定することとする。（高校の規定位置と同様）

（４）　岩手県立盛岡みたけ支援学校奥中山校を廃止して岩手県立二戸北星支援学校奥中山校を設置することについて（第３条関係）

盛岡みたけ支援学校奥中山校については、これまで県北二戸圏域に特別支援学校の本校が設置されていないことから、**昭和 56 年４月に「岩手県立みたけ養護学校奥中山分校」として一戸町に開校**され、現在まで岩手県立盛岡みたけ支援学校（滝沢市）の分校として設置されている。今般、二戸地区に小中高等部一貫の特別支援学校が設置され、同じ圏域内の学校となることから、地域特性を踏まえた学校運営を行うため、**新設校（岩手県立二戸北星支援学校）の分校として設置することとした**ものである。

これに伴い、岩手県立盛岡みたけ支援学校の分校としての奥中山校は、廃止するものである。

＜分校の概要＞

・校　　名：**岩手県立二戸北星支援学校奥中山校**
・区　　分：分校
・開校時期：令和８年４月
・学部等　：小学部（６学年）
　　中学部（３学年）
・位　　置：二戸郡一戸町
・児童生徒数（見込）
　小学部：８名、中学部：９名　計：17 名

※　R6.5.1 現在の在籍児童生徒数

・教職員数（見込）

19 名（副校長、教諭、養護教諭、介助員、講師、非常勤講師）

※　R6.5.1 現在の教職員数

（５）　提案時期について

特別支援学校への就学に当たっては、**市町村教育委員会や関係する学校等が、個別に、該当児童生徒や保護者に対して教育相談や学校見学・体験入学等を行い、これらを経て、就学先を決定している**ものである。

平成25年に学校教育法施行令（昭和28年政令第340号）の一部が改正され、就学基準に該当する障がいのある子どもは特別支援学校に原則就学するという従来の就学先決定の仕組みについて、障がいの状態、教育上必要な支援の内容、地域における教育の体制の整備の状況、本人・保護者の意見、専門家らの意見等を踏まえた総合的な観点から就学先を決定する仕組みに改められた。（同令第５条第１項）

この改正に伴い、**市町村教育委員会は、本人・保護者に対し十分な情報提供をしつつ、教育的ニーズと必要な支援について合意形成を行うことを原則とし、合意形成に至るまでの判断の際には十分な時間的余裕をもって行うこととされた**ことにより、早期から積極的に教育相談を行っている現状にある。

特別支援学校の新設・学科設置・移転等については、**市町村教育委員会等における教育相談や、本人・保護者の進路選択に極めて重要な影響を与えるもの**であり、各特別支援学校において**７月から開始される学校見学と同時期に条例が公布されていることが求められることから、６月議会に提案するもの**である。

（岩手県立盛岡ひがし支援学校の設置の際も、平成30年６月議会に提案している。）

（６）　施行期日

この条例は、令和８年４月１日から施行すること。（附則関係）

※　児童生徒の編入に係る経過措置について

学校教育法施行令第14条の規定により、特別支援学校の新設、廃止等によりその就学させるべき特別支援学校を変更する必要を生じた小学部及び中学部の児童生徒については、都道府県の教育委員会が学校の指定を行うこととされていることから、県立盛岡みたけ支援学校二戸分教室の小学部及び中学部並びに県立盛岡みたけ支援学校奥中山校の小学部及び中学部に在学する児童生徒については、経過措置は不要となる。

また、県立盛岡みたけ支援学校二戸分教室の高等部に在学する生徒については、学校教育法施行令の適用はないものの、説明会を実施して保護者等の意向を確認した上で編入の手続を行うこととしており、個別での対応となることから、編入に係る経過措置は規定しない。

◇学校教育法施行令（昭和28年政令第340号）

（特別支援学校の入学期日等の通知、学校の指定）

第14条　都道府県の教育委員会は、第11条第１項（第11条の２、第11条の３、第12条第２項及び第12条の２第２項おいて準用する場合を含む。）の通知を受けた児童生徒等及び特別支援学校の新設、廃止等によりその就学させるべき特別支援学校を変更する必要を生じた児童生徒等について、その保護者に対し、第11条第１項（第11条の２において準用する場合を含む。）の通知を受けた児童生徒等にあつては翌学年の初めから２月前までに、その他の児童生徒等にあつては速やかに特別支援学校の入学期日を通知しなければならない。

２　新設校開校までの主なスケジュール

令和５年度　設計

令和６年度　設計

工事着工（令和６年 11 月～）

※　建築：426 日間、電気・機械：423 日間

令和７年度　６月県議会定例会　県立学校設置条例の一部改正を審査・議決

条例公布（７月中旬予定）

学校見学、教育相談（７月～）

工事完成予定（12 月）

市町村教委就学支援委員会（～12 月）

小学部及び中学部の就学先を決定（１月末）

高等部の編入先決定（１月末）

高等部の募集開始、合格発表（１月～２月）

令和８年度　開校（令和８年４月）

別紙２
（R6.4.1現在）

Ⅰ　特別支援学校における教育

１　特別支援学校一覧

(1) 県立特別支援学校

No.	学校名	校長名	所在地	電話番号	障がい種別	設置学部等 幼	小	中	高	訪問教育	寄宿舎	備考
1	県立 盛岡視覚支援学校	近藤　健一	〒020-0061 盛岡市北山1-10-1	(019) 624-2986	視覚障がい	○	○	○	○		○	専攻科あり
2	県立 盛岡聴覚支援学校	森山　　学	〒020-0403 盛岡市乙部4-78-2	(019) 696-2582	聴覚障がい	○	○	○	○		○	専攻科あり
3	県立 盛岡となん支援学校	中野　真幸	〒028-3609 矢巾町医大通2-1-5	(019) 601-2227	肢体不自由 病弱		○	○	○	○	○	訪問教育 岩手医科大学附属病院内（病弱のみ）
4	県立 盛岡青松支援学校	青柳　禎久	〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷11-25	(019) 661-5125	病弱		○	○	○			
5	県立 盛岡峰南高等支援学校	矢鳴　慶之	〒020-0853 盛岡市下飯岡11-152	(019) 639-8515	知的障がい				○		○	
6	県立 盛岡みたけ支援学校	村上　嘉郎	(小・中学部) 〒020-0633 滝沢市穴口218-4 (高等部) 〒020-0133 盛岡市青山1-25-29	(019) 641-0789 647-5700 (019) 645-2188	知的障がい		○	○	○	○		
	同二戸分教室 小学部 中学部 高等部		(小学部) 〒028-6103 二戸市石切所字田尻平4 (中学部) 〒028-6101 二戸市福岡字下川又22-1 (高等部) 〒028-6103 二戸市石切所字火行塚2-1	(0195) 23-9633 (0195) 23-5507 (0195) 23-3722	知的障がい		○	○	○			二戸市立 石切所小学校内 二戸市立 福岡中学校内 県立 北桜高校工業校舎内
7	県立 盛岡みたけ支援学校 奥中山校		〒028-5134 一戸町奥中山字西田子1054-1	(0195) 35-3036	知的障がい 肢体不自由		○	○		○		
8	県立 盛岡ひがし支援学校	黒川　圭司	〒020-0401 盛岡市手代森6-10-14	(019) 601-3691	知的障がい		○	○	○	○		
9	県立 花巻清風支援学校	谷　　浩明	〒025-0037 花巻市太田27-207-4	(0198) 28-2421	知的障がい 肢体不自由		○	○	○	○	○	
	同北上分教室		〒024-8507 北上市村崎野17-10	(0197) 68-2091	病弱		○	○				県立 中部病院内
	同北上みなみ分教室 小学部 中学部		(小学部) 〒024-0051 北上市相去町葛西檀12－2 (中学部) 〒024-0051 北上市相去町滝の沢7-2	(0197) 72-5910 (0197) 72-5920	知的障がい		○	○				北上市立 南小学校内 北上市立 南中学校内
	同遠野分教室 小学部 中学部		(小学部) 〒028-0515 遠野市東舘町11－28 (中学部) 〒028-0541 遠野市松崎町白岩11-30	(0198) 62-3351 (0198) 62-2211	知的障がい		○	○				遠野市立 遠野小学校内 遠野市立 遠野中学校内
10	県立 前沢明峰支援学校	田淵　　健	〒029-4208 奥州市前沢字田畠18-1	(0197) 56-6707	知的障がい 肢体不自由		○	○	○	○	○	

No.	学校名	校長名	所在地	電話番号	障がい種別	設置学部等					寄宿舎	備考
						幼	小	中	高	訪問教育		
11	県立 一関清明支援学校	外舘　　悌	(本校舎) 〒021-0041 一関市赤荻字上台96-5 (山目校舎、あすなろ分教室) 〒021-0056 一関市山目字泥田山下48-12	(0191) 33-1600 (0191) 25-3210	聴覚障がい 知的障がい 病弱 肢体不自由	○	○	○	○	○		幼稚部は聴覚障がいのみ 高等部は知的障がい、病弱、肢体不自由のみ
	同あすなろ分教室				病弱		○	○	○			国立病院機構 岩手病院内
	同千厩分教室 小学部 中学部		(小学部) 〒029-0803 一関市千厩町千厩字上駒場10-2 (中学部) 〒029-0803 一関市千厩町千厩字上駒場195-5	(0191) 53-2275 (0191) 53-3181	知的障がい		○	○				一関市立 千厩小学校内 一関市立 千厩中学校内
12	県立 気仙光陵支援学校	石川　則子	〒022-0006 大船渡市立根町字宮田33-3	(0192) 27-8500	知的障がい 肢体不自由		○	○	○	○	○	
13	県立 釜石祥雲支援学校	安達　史枝	〒026-0005 釜石市平田町3-1700	(0193) 26-6020	知的障がい 病弱 肢体不自由		○	○	○	○		
	同しゃくなげ分教室				病弱		○	○	○			国立病院機構 釜石病院内
14	県立 宮古恵風支援学校	藤原　淳一	〒027-0097 宮古市崎山5-88	(0193) 63-0400	知的障がい 肢体不自由		○	○	○	○		
15	県立 久慈拓陽支援学校	石川 えりか	〒028-7801 久慈市侍浜町堀切10-56-46	(0194) 58-3004	知的障がい 肢体不自由		○	○	○	○	○	

(2) 国立・私立特別支援学校

No.	学校名	校長名	所在地	電話番号	障がい種別	設置学部等					寄宿舎	備考
						幼	小	中	高	訪問教育		
1	国立 岩手大学教育学部 附属特別支援学校	安井もゆる	〒020-0824 盛岡市東安庭3-4-20	(019) 651-9002	知的障がい		○	○	○			
2	私立 三愛学舎	澤谷　常清	〒028-5133 一戸町中山字軽井沢49-33	(0195) 35-2231	知的障がい				○			専攻科あり

議案第16号

岩手県教育支援委員会委員の任命に関し議決を求めることについて

次のとおり岩手県教育支援委員会委員の任命をすることについて、議決を求める。

1　任命（令和7年11月1日付）

役　　職　　等	氏　　名
岩手医科大学　障がい児者医療学講座　特命教授	赤　坂　真奈美
岩手医科大学　医師	小　林　有美子
杜のこどもクリニック　小児科医師	金　濱　誠　己
岩手県立中央病院　眼科長	佐々木　克　哉
公益社団法人岩手県看護協会　常務理事	冨　山　　香
岩手大学　教育学部　准教授	武　部　綾　子
北上市立黒沢尻幼稚園　園長	山　本　ゆかり
盛岡市立城北小学校　校長	吉　田　武　雄
盛岡市立厨川中学校　校長	照　井　英　輝
岩手大学　教育学部附属特別支援学校　副校長	藤　原　有　紀
岩手県保健福祉部障がい保健福祉課　こころの支援・療育担当課長	鈴　木　あや子
岩手県福祉総合相談センター　心理支援課長兼上席児童福祉司	中　村　容　子
岩手県特別支援学校ＰＴＡ連合会　会長	齋　藤　名　月
日本発達障害ネットワークいわて　運営委員	阿　部　圭　子

令和7年10月20日提出

岩手県教育委員会教育長　佐　藤　一　男

理由

岩手県教育支援委員会委員の任命をしようとするものである。これが、この議案を提出する理由である。

岩手県教育支援委員会委員（案）

委員任期［令和７年 11 月１日～令和９年 10 月 31 日］

No.	分　野	氏　名	所属・役職	年齢	性別	市町村	年数等		推 薦 団 体 等
							期数	通算年数	
1	医　師	赤坂（あかさか）　真奈美（まなみ）	岩手医科大学　障がい児者医療学講座 特命教授	56	女	盛岡市	1	1	岩手医科大学
2		小林（こばやし）　有美子（ゆみこ）	岩手医科大学　医師（臨床遺伝学科・耳鼻咽喉科　講師）	51	女	盛岡市	1	2	岩手医科大学
3		金濱（かねはま）　誠己（せいき）	杜のこどもクリニック　小児科医師 （岩手県医師会　常任理事）	65	男	盛岡市	1	2	岩手県医師会
4		佐々木（ささき）　克哉（かつや）	岩手県立中央病院　眼科長	60	男	盛岡市	1	2	岩手県立中央病院
5	学　識 経験者	富山（とみやま）　香（かおり）	公益社団法人岩手県看護協会 常務理事	62	女	盛岡市	1	1	公益財団法人岩手県看護協会
6		武部（たけべ）　綾子（あやこ）	岩手大学　教育学部　准教授	45	女	盛岡市	新	新	岩手大学
7	関　係 教育機関	山本（やまもと）　ゆかり	北上市立黒沢尻幼稚園　園長 （岩手県国公立幼稚園・こども園協議会事務局長）	57	女	北上市	新	新	岩手県国公立幼稚園・こども園協議会
8		吉田（よしだ）　武雄（たけお）	盛岡市立城北小学校　校長 （岩手県特別支援学級・通級指導教室設置学校長協議会　事務局長）	56	男	滝沢市	1	1	岩手県特別支援学級・通級指導教室設置学校長協議会
9		照井（てるい）　英輝（ひでき）	盛岡市立厨川中学校　校長 （岩手県特別支援学級・通級指導教室設置学校長協議会　副会長）	60	男	盛岡市	1	1	岩手県特別支援学級・通級指導教室設置学校長協議会
10		藤原（ふじわら）　有紀（ゆき）	岩手大学教育学部附属特別支援学校 副校長	55	女	滝沢市	1	2	岩手大学教育学部附属特別支援学校

11	関　係 行政機関	鈴木（すずき）　あや子（こ）	岩手県保健福祉部障がい保健福祉課 こころの支援・療育担当課長	46	女	盛岡市	新	新	障がい保健福祉課
12		中村（なかむら）　容子（ようこ）	岩手県福祉総合相談センター 心理支援課長兼上席児童福祉司	54	女	盛岡市	1	1	岩手県福祉総合相談センター
13	児童生徒 親権者等	齋藤（さいとう）　名月（なつき）	岩手県特別支援学校ＰＴＡ連合会 会長	51	女	盛岡市	新	新	岩手県特別支援学校ＰＴＡ連合会
14		阿部（あべ）　圭子（けいこ）	日本発達障害ネットワークいわて 運営委員	54	女	盛岡市	1	2	日本発達障害ネットワークいわて

※　年齢：令和７年 11 月時点

【審議会等の設置・運営に関する指針への対応状況】

	チェック項目	委員任命後	対応状況
1	委員の人数【20 人以内（条例の規定）】	14 人	○
2	男女委員登用率【40%未満にならないこと】	男 28.6%（4）：女 71.4%（10）	×
3	若手委員（50 歳未満）【25%以上目標】	14.2%（2）※平均 55.1 歳	×
4	在任期間８年超	なし	○

※　若手委員（50 歳未満）【25%以上目標】に係る年齢は、令和７年 11 月１日時点での状況であること。

参考資料

【根拠法令】

岩手県附属機関条例（令和５年岩手県条例第４号）

（趣旨）

第１条　この条例は、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 138 条の４第３項及び第 202 条の３第１項の規定により、**執行機関の附属機関（法律又は他の条例の規定に基づき設置されるものを除く。）の設置並びにその組織及び運営に関し必要な事項を定める**ものとする。

（設置及び所掌）

第２条　別表第１から別表第 10 までの**所掌事項の欄に掲げる事項について審査、審議又は調査等を行わせるため、執行機関の附属機関として、これらの表の名称の欄に掲げる機関を置く。**

２～４［略］

（組織）

第３条　別表第１から別表第 11 までの名称の欄に掲げる附属機関（以下「審議会等」という。）は、**これらの表の委員の人数に掲げる人数以内の委員をもって組織し、委員は、これらの表の委員の構成の欄に掲げる者のうちから、執行機関が任命する。**

２　審議会等の**委員の任期は、別表第１から別表第 11 までの任期の欄に掲げるとおり**とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

別表第 10（第２条、第３条関係）

教育関係附属機関

名称	所掌事項	委員の人　数	委員の構成	任期
２　岩手県教育支援委員会	教育委員会の諮問に応じ教育上特別な支援を必要とする児童、生徒等（以下この項において「児童生徒等」という。）の就学及び当該児童生徒等に対する支援の内容等に関する事項について調査審議し、並びに当該事項について教育委員会に意見を述べること。	20 人	（１）　医師 （２）　学識経験者 （３）　関係教育機関の職員 （４）　関係行政機関の職員 （５）　児童生徒等の親権者又は未成年後見人を代表する者	２年

議案第17号

教育表彰の受賞者に関し議決を求めることについて

次のとおり教育表彰の受賞者を決定することについて、議決を求める。

事績顕著者

1　学校教育分野(17人、５団体)

（1）　学校教育

多年にわたり優れた学校教育活動に取り組み、教育の振興に顕著な成果を挙げた。

ア　遠野市立附馬牛小学校（とおのしりつつきもうししょうがっこう）

イ　盛岡市立仙北中学校合唱部（もりおかしりつせんぼくちゅうがっこうがっしょうぶ）

ウ　岩手県立盛岡第一高等学校生物部（いわてけんりつもりおかだいいちこうとうがっこうせいぶつぶ）

エ　岩手県立盛岡視覚支援学校高等部理療科（いわてけんりつもりおかしかくしえんがっこうこうとうぶりりょうか）

（2）　学校保健

ア　学校医

多年にわたり学校医として児童生徒の保健衛生の向上に尽力し、教育の振興に多大の貢献をした。

（ア）　清野（せいの）　雅子（まさこ）

（イ）　金井（かない）　猛（たけし）

（ウ）　橋本（はしもと）　真生（まきお）

（エ）　笹森（ささもり）　史朗（しろう）

（オ）　千葉（ちば）　純子（じゅんこ）

（カ）　中舘（なかだて）　一郎（いちろう）

（キ）　飯塚（いいづか）　和彦（かずひこ）

（ク）　豊島（とよしま）　喜美子（きみこ）

イ　学校歯科医

多年にわたり学校歯科医として児童生徒の保健衛生の向上に尽力し、教育の振興に多大の貢献をした。

（ア）　佐々木（ささき）　成弘（せいこう）

（イ）　伊東（いとう）　真（しん）

（ウ）　小熊（おぐま）　秀佳（ひでよし）

（エ）　熊谷（くまがい）　優志（やさし）

（オ）　及川（おいかわ）　穣（ゆたか）

ウ　学校薬剤師

多年にわたり学校薬剤師として児童生徒の保健衛生の向上に尽力し、教育の振興に多大の貢献をした。

（ア）　大坪（おおつぼ）　尚子（なおこ）

（イ）　小早川（こばやかわ）　千秋（ちあき）

（ウ）　道又（みちまた）　利一（としかず）

エ　学校保健安全教育

多年にわたり優れた保健指導等に取り組み、教育の振興に顕著な成果を挙げた。

（ア）　二戸市立金田一小学校（にのへしりつきんたいちしょうがっこう）

（３）　部活動等の指導者

多年にわたり部活動の指導者として生徒の育成指導に尽力し、教育の振興に多大の貢献をした。

ア　白藤（しらふじ）　友一（ゆういち）

2　社会教育分野（１人、３団体）

（1）　社会教育活動の指導者

多年にわたり社会教育行政や生涯学習の推進に尽力し、社会教育の振興に多大の貢献をした。

ア　菊地（きくち）　真弓（まゆみ）

（2）　社会教育団体

多年にわたり優れた活動を実践し、社会教育の振興に多大の貢献をした。

ア　北上市立飯豊小学校（きたかみしりついいとよしょうがっこう）ＰＴＡ

イ　大船渡市立末崎小学校（おおふなとしりつまっさきしょうがっこう）ＰＴＡ

ウ　岩手県立水沢農業高等学校（いわてけんりつみずさわのうぎょうこうとうがっこう）ＰＴＡ

3　学術・文化財分野（２人、３団体）

多年にわたり文化財の保存に尽力し、地域文化の振興に多大の貢献をした。

（1）　髙橋（たかはし）　信雄（のぶお）

（2）　相原（あいはら）　康二（こうじ）

（3）　早池峰大償神楽保存会（はやちねおおつぐないかぐらほぞんかい）

（4）　早池峰岳神楽保存会（はやちねたけかぐらほぞんかい）

（5）　鵜鳥神楽保存会（うのとりかぐらほぞんかい）

4　教育行政分野（４人）

多年にわたり教育行政の推進に尽力し、教育の振興に多大の貢献をした。

（1）　佐藤（さとう）　卓（たかし）

（2）　後（うしろ）　忠美（ただみ）

（3）　前原（まえはら）　静美（しずみ）
（4）　成田（なりた）　不美（ふみ）

令和7年10月20日提出

岩手県教育委員会教育長　佐　藤　一　男

理由

教育表彰として清野雅子ほか23人及び遠野市立附馬牛小学校ほか10団体を表彰しようとするものである。これが、この議案を提出する理由である。

資料

議案第17号　教育表彰の受賞者に関し議決を求めることについて

事績顕著者の主な功績の内容は以下のとおり

1　学校教育分野〔17人、５団体〕

(1)　学校教育〔４団体〕

団体名	活動歴	功績の内容
遠野市立 附馬牛小学校 （伝承活動「子ども語り部」）	13年	【受賞歴】平成30年感謝状（遠野市観光協会）、令和６年度第29回いわてユネスコ賞　活動奨励賞
		同校は地域に古くから伝わる昔話の伝承活動に取り組み文化振興に大きく寄与するとともに、学習の成果として地域のイベント活動で披露するなど、学校と地域が連携し特色ある学習を展開し、児童の表現力育成と地域文化の振興に優れた成果を挙げた。
盛岡市立 仙北中学校 合唱部	44年	【受賞歴】令和４年度全日本合唱コンクール全国大会銀賞、令和５年度全日本合唱コンクール全国大会金賞 令和６年度全日本合唱コンクール東北大会金賞
		同校は主に女声合唱の形態で15名程度で活動しており、全日本合唱コンクールでは、大規模な合唱部が金賞の多数を占める中に同校も名を連ね、小規模合唱部のモデルになると高い評価を受けた。また、地域住民に向けた公演を通じて合唱の魅力を発信するなど、生徒の表現力育成と地域の文化振興に優れた成果を挙げた。
岩手県立 盛岡第一 高等学校 生物部	93年	【受賞歴】令和７年度全国高等学校総合文化祭文化庁長官賞
		同校生物部は、研究・実験、野外実習等に意欲的に取り組むとともに、全国の大会・コンテストにも多数出場するなど多岐にわたる活動を展開している。全国高等学校総合文化祭には11年連続で県代表として出場しており、自然科学に対する探求心の育成と学術的成果の発信において優れた成果を挙げた。
岩手県立 盛岡視覚 支援学校 高等部理療科	13年	【受賞歴】平成23年度及び令和４年度　小さな親切実行章
		同校は、東日本大震災津波後から社会貢献を目的とし、災害公営住宅等を訪問しマッサージの施術を行っている。本活動は地域の方々から感謝され評価を得るとともに、生徒個々の勤労観・職業観を育み、社会自立の実現を目指すうえで大きな成果を挙げた。

⑵　学校保健〔16 人、１団体〕

ア　学校医〔８人〕	イ　学校歯科医〔５人〕	ウ　学校薬剤師［３人］
多年にわたり学校医として児童生徒の保健衛生の向上に尽力し、教育の振興に多大の貢献をした。	多年にわたり学校歯科医として児童生徒の保健衛生の向上に尽力し、教育の振興に多大の貢献をした。	多年にわたり学校薬剤師として児童生徒の保健衛生の向上に尽力し、教育の振興に多大の貢献をした。
①　清　野　雅　子　(68 歳)　盛岡市	①　佐々木　成　弘　(62 歳)　盛岡市	①　大　坪　尚　子　(65 歳)　盛岡市
②　金　井　　猛　(63 歳)　盛岡市	②　伊　東　　真　(64 歳)　北上市	②　小早川　千　秋　(64 歳)　紫波町
③　橋　本　真　生　(60 歳)　盛岡市	③　小　熊　秀　佳　(70 歳)　奥州市	③　道　又　利　一　(75 歳)　大槌町
④　笹　森　史　朗　(69 歳)　北上市	④　熊　谷　優　志　(55 歳)　大船渡市	
⑤　千　葉　純　子　(72 歳)　遠野市	⑤　及　川　　穣　(63 歳)　宮古市	
⑥　中　舘　一　郎　(68 歳)　花巻市		
⑦　飯　塚　和　彦　(65 歳)　盛岡市		
⑧　豊　島　喜美子　(69 歳)　宮古市		

エ　学校保健安全教育〔１団体〕

団　体　名	活動歴	功　績　の　内　容
二戸市立 金田一（きんたいち） 小学校	42 年	【受賞歴】令和２年度全日本学校歯科保健優良校表彰 令和６年度第１回学校歯科保健功労内閣総理大臣表彰　内閣総理大臣賞 同校は多年にわたり優れた学校歯科保健活動を展開するとともに、地域の模範となる特色ある取組を行い、児童の口腔の健康の保持増進と学校歯科保健の振興に大きく貢献した。また、学校のみならず周辺校や地域と連携した活動を実施し、地域の学校保健の発展に寄与した。

⑶　部活動等の指導者〔１人〕

氏　　名	活動歴	所　属	功　績　の　内　容
白藤（しらふじ）　友一（ゆういち） (57 歳)	11 年	岩手県立 花巻清風 支援学校	【主な経歴】全国障がい者スポーツ大会陸上競技監督 【受賞歴】平成 30 年度教育長表彰、令和５年度岩手県体育協会栄光賞 平成 29 年から県立盛岡聴覚支援学校の陸上部顧問を務めて以来、着実に陸上部の活動のレベルを高め、令和５年度以降、全国聾学校陸上競技大会で優勝者を輩出している。また、全国障がい者スポーツ大会の陸上監督を計 11 年間務め、生徒のみならず成年を含めた選手への技術的指導も行うなど、生徒等の育成指導に尽力し、教育の振興に多大の貢献をした。

３　社会教育分野〔１人、３団体〕

⑴　社会教育活動の指導者〔１人〕

氏　　名	活動歴	功　績　の　内　容
菊地（きくち）　真弓（まゆみ） (65 歳)	24 年 ※役職歴は 18 年	【主な経歴】ガールスカウト岩手県元連盟長（H30．４～Ｒ３．３） 平成 12 年に同連盟の指導者委員長に就任し、指導者の育成及びスキルアップに貢献するとともに、その後各常任委員長等を歴任し岩手のみならず日本のガールスカウトの発展に寄与した。 平成 30 年に連盟長に就任した際には、記念式典・事業を成功に導いたほか、コロナ禍でも持続可能な活動実施のため新たにオンライン研修を作り上げるなど、県連の発展、社会教育の振興に多大な貢献をした。

⑵　社会教育団体〔３団体〕

団　体　名	活動歴	功　績　の　内　容
北上市立 飯豊小学校 ＰＴＡ	76 年	【受賞歴】令和６年度日本ＰＴＡ全国協議会会長賞 役員のほか、「学年委員会」「厚生委員会」「整備委員会」など多くの専門委員が活動を行っている。学校行事への参加も活発であり、周年行事での積極的な活動や、おやじの会を発足して見守り活動や校庭整備等を行うなど、児童の健全育成と社会教育の振興に多大な貢献をした。
大船渡市立 末崎小学校 ＰＴＡ	76 年	【受賞歴】令和６年度岩手県ＰＴＡ連合会団体表彰 ５つの組織で構成されており、各組織が「家庭教育学級の推進」や「校地内道路の整地」など様々な活動に取り組んでいる。小中学校で連携し、年２回の生活向上運動のほか、夏休みには合同で地区別環境整備活動を行うなど、児童の健全育成と社会教育の振興に多大な貢献をした。

団　体　名	活動歴	功　　績　　の　　内　　容
岩手県立 水沢農業 高等学校 ＰＴＡ	69 年	【受賞歴】令和６年度 全国高等学校ＰＴＡ連合会大会団体表彰 会員は 100 人前後と小規模でありながらもその特性を活かし、保護者と教職員、生徒が協働で事業運営を行っている。地域の周辺施設にプランターを設置する美化活動や、生徒会役員と協力し文化祭の活性化に取り組んでいるほか、会員交流会で生徒の学習成果を広く伝える機会をつくるなど、各種行事への参加者の増加に尽力し、生徒の健全育成と社会教育の振興に多大な貢献をした。

４　学術・文化財分野〔２人、３団体〕

(1)　文化財〔２人、３団体〕

氏　　名	活動歴	功　　績　　の　　内　　容
髙橋（たかはし）　信雄（のぶお） (82 歳)	16 年	【主な経歴】花巻市博物館　前館長（H18. ４～Ｒ４．３） 【受賞歴】令和２年度日本博物館協会博物館活動奨励賞、永年勤続表彰 県で初めて採用した発掘調査担当職員として、埋蔵文化財の調査研究に尽力したほか、阪神淡路大震災の復興事業に携わり、被災地の発掘調査を全国で支える仕組みづくりに貢献した。花巻市博物館では、考古・歴史をはじめ、多種多様な展覧会を開催し、広く住民に鑑賞機会を提供するとともに、花巻人形の研究に取り組むなど、文化財の保護や花巻地方の歴史・文化に関する調査研究を牽引した。
相原（あいはら）　康二（こうじ） (82 歳)	15 年	【主な経歴】えさし郷土文化館　前館長（H21. ４～Ｒ６．３） 【受賞歴】令和６年度第 77 回岩手日報文化賞 柳之御所遺跡の調査及び遺跡保存への献身的な働きかけが柳之御所・平泉遺跡群の国史跡指定に多大な貢献をしたほか、文化財行政の第一線で指導的役割を果たし、県内外の文化財に関する調査・研究成果の普及にも尽力した。平成 21 年からは、えさし郷土文化館で歴代最長の 15 年間館長を務め、地域住民を対象に自ら企画した講座を実施するなど、文化財行政と地域文化振興に多大な貢献をした。

団　体　名	活動歴	功　　績　　の　　内　　容
早池峰 大償（おおつぐない） 神楽保存会 （花巻市）	55 年	【受賞歴】平成 26 年度第 32 回岩手日日文化賞 【指定】　昭和 51 年　国指定重要無形民俗文化財、平成 21 年　ユネスコ無形文化遺産登録 早池峰神楽の中でも大償集落が中心となって、例大祭や全国各地で開催される民俗芸能行事のほか、中国やアメリカなどでの海外公演も行っている。また、後進の指導にも熱心に取り組み、保育園から高等学校までの子供たちに指導を行うとともに、大手旅行会社と連携し、「通い神楽モデル」旅行企画を通じて先進的な後継者確保に取り組むなど、地域文化の継承及び向上に大きく貢献した。
早池峰岳（たけ） 神楽保存会 （花巻市）	55 年	【受賞歴】平成 26 年度第 32 回岩手日日文化賞 【指定】　昭和 51 年　国指定重要無形民俗文化財、平成 21 年　ユネスコ無形文化遺産登録 早池峰神楽の中でも岳集落が中心となって、例大祭や全国各地で開催される民俗芸能行事で公演を行うなど、活発な活動を行っている。また、バリ島との国際交流にも取り組み、現地の子供たちに神楽を指導するワークショップを開催し、世界に向けた魅力発信に尽力するなど、地域文化の継承及び向上に大きく貢献した。
鵜鳥（うのとり）神楽 保存会 （普代村）	45 年	【受賞歴】なし 【指定】　平成 23 年　県指定無形民俗文化財、平成 27 年　国指定無形民俗文化財 長年にわたる地域に根差した活動を通じ、無形民俗文化財の保護及び普及に取り組むとともに、令和７年には国指定 10 周年記念公演を開催するなど、地域文化の継承に尽力している。また、後継者育成のための小学校と連携した神楽の技術指導や外国人観光客に向けた公演など、多角的な活動を通じて地域文化の継承及び向上に大きく貢献した。

５　教育行政分野〔４人〕

多年にわたり教育行政の推進に尽力し、教育の振興に多大の貢献をした。

⑴　佐　藤　　卓（65 歳）　　岩手町教育委員会教育長
⑵　後　　忠　美（69 歳）　前　久慈市教育委員会教育長
⑶　前　原　静　美（69 歳）　　田野畑村教育委員会教育委員
⑷　成　田　不　美（72 歳）　前　久慈市教育委員会教育委員

議案第 18 号

文化財の指定に関し議決を求めることについて

次のとおり文化財の指定をすることについて、議決を求める。

1　岩手県指定有形民俗文化財の指定

指定番号	名　　称	員数	所　有　者
有民第 35 号	久慈地方の牛方関係資料（くじちほうのうしかたかんけいしりょう）	165 点	久慈市川崎町 1 番 1 号 久慈市教育委員会

2　岩手県指定天然記念物の指定

指定番号	名　　称	員数	所　有　者
天第 37 号	米田浜津波堆積物（まいたはまつなみたいせきぶつ）	1 件	九戸郡野田村大字野田第 20 地割 14 番地 野田村

令和 7 年 10 月 20 日提出

岩手県教育委員会教育長　佐　藤　一　男

理由

文化財の指定をしようとするものである。これが、この議案を提出する理由である。

物　件　調　書

種　　別	有形民俗文化財
名　称　・　員　数	久慈地方の牛方関係資料　165 点
所有者（保持者・団体）の住所・氏名（名称）	久慈市川崎町１番１号 久慈市教育委員会
文化財の所在場所	久慈市歴史民俗資料室（久慈市小久慈町第 37 地割 32 番１号） 久慈市山村文化交流センターおらほーる（久慈市山形町川井第 13 地割 38 番地）
指　定　理　由	久慈地方の牛方関係資料は、「塩の道」（久慈・野田街道）によって、岩手県沿岸部から内陸部に塩や海産物を運ぶ際に、牛をつれた「牛方」が使用した用具である。 牛方の用具は主に、①牛方の身支度用具、②荷役用具、③牛の飼育に関する用具から構成される。牛方は身支度品として、「笠」をかぶり、「みの」を身に着け、「つまご」を履き、脛には「はんばき」を巻いた。胸に着用した「前だて」は、朝露がついた草で体が濡れるのを防ぐためのもので、牛方だけが身につけ、農作業では使わないという特徴があった。荷役用具は荷物を運搬する際の牛の装備品であり、「牛の鞍」や牛の口にかぶせる「くつご」、塩を運ぶ際の「塩かます」など、用途に応じてその種類は多岐にわたる。牛の飼育に関する用具は、物資の運搬に使役する牛たちを育てるために必要な用具であり、「押し切り」や「飼葉桶」は牛に餌を与えるために使用され、「とな釜」や「へら」は、冬期間に餌を煮る際に使われたものである。このように、牛方の生活は牛の生活と共にあり、これらの用具はその生活を垣間見ることのできる資料である。 また、荷役の際には牛の群れを統率するために「ワガサ」と呼ばれるリーダー牛が必要であったが、この「ワガサ」を決めるために牛を闘わせる習俗がかつてあり、「角突き」「突き合わせ」「ベゴ突き」「ベゴ相撲」などと呼ばれ、現在の闘牛大会にも影響を与えているとされる。このような習俗も、牛方による荷役の運搬に関わる背景を構成する要素として重要である。 牛を使って物資を運搬した牛方は、他地域との物資の交易とそれに付随して様々な生活文化をもたらした。この牛方の活動に関わる資料は物資を運搬した街道に関わる交通史、運搬した塩や鉄等に関わる産業史、飼育した牛に関わる畜産業史など、岩手県の人と牛の関わりを含めた歴史・文化を伝える資料として貴重である。 以上のことから、本文化財を岩手県指定有形民俗文化財として指定することが適当である。 （指定基準） 第３　有形民俗文化財指定基準 １　（３）交通、運輸、通信に用いられるもの ２　（１）歴史的変遷を示すもの　（２）時代的特色を示すもの　（３）地域的特色を示すもの

牛方の身支度用具

荷役用具

牛の飼育に関する用具

物　件　調　書

種　　別	天然記念物（地質鉱物）
名　称　・　員　数	米田浜津波堆積物（まいたはまつなみたいせきぶつ）　１件
所有者（保持者・団体）の住所・氏名（名称）	九戸郡野田村大字野田第 20 地割 14 番地 野田村
文化財の所在場所	九戸郡野田村大字野田第９地割 83 番地４
指　定　理　由	米田浜津波堆積物は、野田村の十府ヶ浦海岸の最南端付近に位置する米田浜の海食崖に保存されている。米田浜の背後の谷は、北北東に向かって開いており、谷の上流側には谷底から約５ｍの比高を有する段丘面が連続的に分布している。現在の谷はこれらの段丘面を掘り込み、これらの段丘面の末端の海食崖に米田浜の堆積物が見られる。 米田浜の津波堆積物の露頭は、海食崖という位置を考慮すると、特に下位に位置する堆積物は津波による可能性の他、暴浪によって運搬・堆積した可能性もあるが、当該文化財に隣接する米田川低地では、複数の地点において掘削調査が行われ、堆積学的な観点から４層の津波堆積物が確認されており、少なくとも、当該文化財の露頭上部の堆積物は本地域において広範囲に見られる津波堆積物であると判断できる。 津波とともに海から海岸や内陸部に運ばれた土砂などが、波が引いた後もその場に残って堆積した津波堆積物は、その場所に津波が到達した証拠であることから、津波堆積物は過去の津波やそれをもたらした地震等を復元するために貴重な資料となる。また、米田浜津波堆積物は、過去の地震や津波の履歴に関する研究のみならず、地層断面の剥ぎ取りや学校での授業への活用により、岩手県民の教育の実践や防災への啓蒙活動にも利用されてきた。 当該文化財は、これまで幾度となく津波の被害を受けてきた岩手県沿岸部において、これまでの津波堆積物が残存し地質学的にも学術的にも重要であり、その歴史を伝える意味でも重要な遺構である。また、露頭の保存状況も良好で、これまでの災害の痕跡がはっきりと残っているため、防災教育の観点からも今後の活用が大いに期待できる遺構である。 以上のことから、本文化財を岩手県指定天然記念物に指定するものである。 （指定基準） 第５　史跡名勝天然記念物指定基準 天然記念物 ３　地質鉱物 （２）地層の整合及び不整合

堆積の様子

指定予定地全景

議案第19号

令和８年度岩手県教育委員会定期人事異動方針に関し議決を求めることについて

次のとおり令和８年度岩手県教育委員会定期人事異動方針を定めることについて、議決を求める。

令和８年度岩手県教育委員会定期人事異動方針

東日本大震災津波からの教育の復興に向けた取組を推進するとともに、「学びと絆で 夢と未来を拓き 社会を創造する人づくり」の実現等に向けて、「いわて県民計画（2019～2028）」及び「岩手県教育振興計画（2024～2028）」に掲げる主要施策の積極的な推進と的確な対応を行うため、次に掲げるところにより教職員の意欲と能力を重視した人事配置を行い、もって組織能力の一層の向上を図るものとする。

また、全ての児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう再発防止「岩手モデル」の取組を推進するとともに、社会全体のデジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）の加速化などの学校を取り巻く環境の変化にも対応しながら、「岩手県教職員働き方改革プラン（2024～2026）」に基づき、必要な環境整備や健康確保等の取組を強力に進めていく。その際、学校における業務改善の推進とそれらの取組の支援、管理職のリーダーシップの発揮によるマネジメント機能の強化、教職員の服務規律の確保及び公務員倫理の保持の徹底、学校が心理や福祉等の専門スタッフと連携し、組織として教育活動に取り組む「チーム学校」体制の整備・推進の観点にも配慮していくものとする。

１　東日本大震災津波からの教育の復興の推進

東日本大震災津波からの教育の復興に向け、地域の実情やニーズに配慮するとともに、防災教育をはじめとする「いわての復興教育」等を着実に推進するための人事配置に努める。

２　学校教育の充実の推進

確かな学力の育成、豊かな心の育成、健やかな体の育成、共に学び、共に育つ特別支援教育、いじめ問題への確かな対応と不登校対策等、学びの基盤づくりを着実に推進するための人事配置に努める。

３　社会教育・家庭教育の充実の推進

学校と家庭・地域との協働、子育て支援や家庭教育支援の充実、生涯にわたり学び続ける環境づくり、次世代につなげる民俗芸能や文化財の継承を着実に推進するための人事配置に努める。

４　管理職の役割の重視

学校経営においては、管理職のリーダーシップが重要であることから、管理職の任用については、以下のとおり行う。

（１）　管理職に相応しい人格、識見を重視するとともに、指導能力、組織運営能力、実績について総合的に評価し、年齢や性別、経験年数にとらわれることなく登用する。

（２）　学校における更なる女性活躍を推進するため、女性教職員が管理職を積極的に目指すことができる環境づくりや人材育成を進める。

（３）　管理職の在職期間については、学校経営の安定化の視点に配慮する。

５　組織能力及び個々の教職員のモチベーションの向上に向けた人事配置

（１）　所属長のヒアリングにおいては、個々の教職員について、今後従事したい業務に係る希望、適性、現在の職務の遂行状況及び健康状態、持病、家庭事情等についてもできるだけきめ細かく聴き取ることとし、人事配置に当たっては、それらの事情を踏まえ、個々の教職員のモチベーションの向上に努める。

（２）　各所属の職員構成については、年齢、経験年数等の適切なバランスに配慮する。その際、職員の定年年齢の引上げを踏まえ、その知識・経験の活用や承継による組織能力の向上を図るとともに、全ての教職員が働きやすい職場環境づくりを進める。

また、全県的視野から地域ごとの職員構成についても適切なバランスに配慮することとし、特に、県北・沿岸地区やへき地等の職員体制の充実に努める。

（３）　主幹教諭、指導教諭又は指導養護教諭については、学校において多様化・複雑化する諸課題に組織的・機動的に対応し、その役割がより効果的に発揮されるよう、学校規模等を総合的に考慮しながら配置する。

（４）　小中学校事務の共同実施体制の機能強化を図り、学校経営の充実に資するため、「事務長」の職については共同実施組織の規模等を総合的に考慮しながら配置する。

（５）　事務局と学校との異動、校種間での異動、職種にとらわれない柔軟な人事配置を行うとともに、他の任命権者との間での人事交流を行う。また、主任等以下の若手事務職員については、ジョブローテーション等を考慮し、人材の育成と適性の把握が図られるよう配慮する。

６　その他

公的年金の報酬比例部分の支給開始年齢の引上げ（平成25年度以後60歳から65歳へと段階的に引上げ）に伴う雇用と年金の接続については、再任用制度の適切な運用により対応するよう配慮する。

令和７年10月20日提出

岩手県教育委員会教育長　佐　藤　一　男

理由

令和８年度岩手県教育委員会定期人事異動方針を定めようとするものである。これが、この議案を提出する理由である。

岩手県教育委員会定期人事異動方針新旧対照表

令和７年度	令和８年度
令和７年度岩手県教育委員会定期人事異動方針 東日本大震災津波からの教育の復興に向けた取組を推進するとともに、「学びと絆で 夢と未来を拓き 社会を創造する人づくり」の実現等に向けて、「いわて県民計画（2019～2028）」及び「岩手県教育振興計画（2024～2028）」に掲げる主要施策の積極的な推進と的確な対応を行うため、次に掲げるところにより教職員の意欲と能力を重視した人事配置を行い、もって組織能力の一層の向上を図るものとする。 また、全ての児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう再発防止「岩手モデル」の取組を推進するとともに、社会全体のデジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）の加速化などの学校を取り巻く環境の変化にも対応しながら、「岩手県教職員働き方改革プラン（2024～2026）」に基づき、必要な環境整備や健康確保等の取組を強力に進めていく。その際、学校における業務改善の推進とそれらの取組の支援、管理職のリーダーシップの発揮によるマネジメント機能の強化、学校が心理や福祉等の専門スタッフと連携し、組織として教育活動に取り組む「チーム学校」体制の整備・推進の観点にも配慮していくものとする。 １　東日本大震災津波からの教育の復興の推進 東日本大震災津波からの教育の復興に向け、地域の実情やニーズに配慮するとともに、防災教育をはじめとする「いわての復興教育」等を着実に推進するための人事配置に努める。 ２　学校教育の充実の推進 確かな学力の育成、豊かな心の育成、健やかな体の育成、共に学び、共に育つ特別支援教育、いじめ問題への確かな対応と不登校対策等、学びの基盤づくりを着実に推進するための人事配置に努める。 ３　社会教育・家庭教育の充実の推進 学校と家庭・地域との協働、子育て支援や家庭教育支援の充実、生涯にわたり学び続ける環境づくり、次世代につなげる民俗芸能や文化財の継承を着実に推進するための人事配置に努める。 ４　管理職の役割の重視 学校経営においては、管理職のリーダーシップが重要であることから、管理職の任用については、以下のとおり行う。 (1)　管理職に相応しい人格、識見を重視するとともに、指導能力、組織	令和８年度岩手県教育委員会定期人事異動方針 東日本大震災津波からの教育の復興に向けた取組を推進するとともに、「学びと絆で 夢と未来を拓き 社会を創造する人づくり」の実現等に向けて、「いわて県民計画（2019～2028）」及び「岩手県教育振興計画（2024～2028）」に掲げる主要施策の積極的な推進と的確な対応を行うため、次に掲げるところにより教職員の意欲と能力を重視した人事配置を行い、もって組織能力の一層の向上を図るものとする。 また、全ての児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう再発防止「岩手モデル」の取組を推進するとともに、社会全体のデジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）の加速化などの学校を取り巻く環境の変化にも対応しながら、「岩手県教職員働き方改革プラン（2024～2026）」に基づき、必要な環境整備や健康確保等の取組を強力に進めていく。その際、学校における業務改善の推進とそれらの取組の支援、管理職のリーダーシップの発揮によるマネジメント機能の強化、教職員の服務規律の確保及び公務員倫理の保持の徹底、学校が心理や福祉等の専門スタッフと連携し、組織として教育活動に取り組む「チーム学校」体制の整備・推進の観点にも配慮していくものとする。 １　東日本大震災津波からの教育の復興の推進 東日本大震災津波からの教育の復興に向け、地域の実情やニーズに配慮するとともに、防災教育をはじめとする「いわての復興教育」等を着実に推進するための人事配置に努める。 ２　学校教育の充実の推進 確かな学力の育成、豊かな心の育成、健やかな体の育成、共に学び、共に育つ特別支援教育、いじめ問題への確かな対応と不登校対策等、学びの基盤づくりを着実に推進するための人事配置に努める。 ３　社会教育・家庭教育の充実の推進 学校と家庭・地域との協働、子育て支援や家庭教育支援の充実、生涯にわたり学び続ける環境づくり、次世代につなげる民俗芸能や文化財の継承を着実に推進するための人事配置に努める。 ４　管理職の役割の重視 学校経営においては、管理職のリーダーシップが重要であることから、管理職の任用については、以下のとおり行う。 (1)　管理職に相応しい人格、識見を重視するとともに、指導能力、組織

運営能力、実績について総合的に評価し、年齢や性別、経験年数にとらわれることなく登用する。 (2)　学校における更なる女性活躍を推進するため、女性教職員が管理職を積極的に目指すことができる環境づくりや人材育成を進める。 (3)　管理職の在職期間については、学校経営の安定化の視点に配慮する。 5　組織能力及び個々の教職員のモチベーションの向上に向けた人事配置 (1)　所属長のヒアリングにおいては、個々の教職員について、今後従事したい業務に係る希望、適性、現在の職務の遂行状況及び健康状態、持病、家庭事情等についてもできるだけきめ細かく聴き取ることとし、人事配置に当たっては、それらの事情を踏まえ、個々の教職員のモチベーションの向上に努める。 (2)　各所属の職員構成については、年齢、経験年数等の適切なバランスに配慮する。その際、職員の定年年齢の引上げを踏まえ、その知識・経験の活用や承継による組織能力の向上を図るとともに、全ての教職員が働きやすい職場環境づくりを進める。 　また、全県的視野から地域ごとの職員構成についても適切なバランスに配慮することとし、特に、県北・沿岸地区やへき地等の職員体制の充実に努める。 (3)　主幹教諭、指導教諭又は指導養護教諭については、学校において多様化・複雑化する諸課題に組織的・機動的に対応し、その役割がより効果的に発揮されるよう、学校規模等を総合的に考慮しながら配置する。 (4)　小中学校事務の共同実施体制の機能強化を図り、学校経営の充実に資するため、「事務長」の職の配置拡大を進める。 (5)　事務局と学校との異動、職種間及び校種間での異動を行うとともに、他の任命権者との間での人事交流を行う。また、主任等以下の若手事務職員については、ジョブローテーション等を考慮し、人材の育成と適性の把握が図られるよう配慮する。 6　その他 　公的年金の報酬比例部分の支給開始年齢の引上げ（平成25年度以後60歳から65歳へと段階的に引上げ）に伴う雇用と年金の接続については、再任用制度の適切な運用により対応するよう配慮する。	運営能力、実績について総合的に評価し、年齢や性別、経験年数にとらわれることなく登用する。 (2)　学校における更なる女性活躍を推進するため、女性教職員が管理職を積極的に目指すことができる環境づくりや人材育成を進める。 (3)　管理職の在職期間については、学校経営の安定化の視点に配慮する。 5　組織能力及び個々の教職員のモチベーションの向上に向けた人事配置 (1)　所属長のヒアリングにおいては、個々の教職員について、今後従事したい業務に係る希望、適性、現在の職務の遂行状況及び健康状態、持病、家庭事情等についてもできるだけきめ細かく聴き取ることとし、人事配置に当たっては、それらの事情を踏まえ、個々の教職員のモチベーションの向上に努める。 (2)　各所属の職員構成については、年齢、経験年数等の適切なバランスに配慮する。その際、職員の定年年齢の引上げを踏まえ、その知識・経験の活用や承継による組織能力の向上を図るとともに、全ての教職員が働きやすい職場環境づくりを進める。 　また、全県的視野から地域ごとの職員構成についても適切なバランスに配慮することとし、特に、県北・沿岸地区やへき地等の職員体制の充実に努める。 (3)　主幹教諭、指導教諭又は指導養護教諭については、学校において多様化・複雑化する諸課題に組織的・機動的に対応し、その役割がより効果的に発揮されるよう、学校規模等を総合的に考慮しながら配置する。 (4)　小中学校事務の共同実施体制の機能強化を図り、学校経営の充実に資するため、「事務長」の職については共同実施組織の規模等を総合的に考慮しながら配置する。 (5)　事務局と学校との異動、校種間での異動、職種にとらわれない柔軟な人事配置を行うとともに、他の任命権者との間での人事交流を行う。また、主任等以下の若手事務職員については、ジョブローテーション等を考慮し、人材の育成と適性の把握が図られるよう配慮する。 6　その他 　公的年金の報酬比例部分の支給開始年齢の引上げ（平成25年度以後60歳から65歳へと段階的に引上げ）に伴う雇用と年金の接続については、再任用制度の適切な運用により対応するよう配慮する。
変更理由	1　昨今の状況に鑑み、管理職のリーダーシップの発揮による教職員の服務規律の確保及び公務員倫理の保持の徹底に配慮する旨を明記すること。（前文関係） 2　市町村立小中学校等事務職員の事務長の配置状況等に鑑み、事務長職の配置に関する文言を改めること。（５(４)関係） 3　人事配置に当たり、職種にとらわれない柔軟な人事配置を行うことを明記すること。（５(５)関係）